



アドミン ヘルプ リリース 5.2

IBM Rational Change アドミン ヘルプ
リリース 5.2

本書を使用する前に、必ず[特記事項](#)の内容をお読みください。

この版の内容は、新しい版で特に指摘がない限り、**Rational Change** バージョン **5.2**（製品番号：**5724V87**）以降のすべてのリリースと修正版に適用されます。

© **Copyright IBM Corporation 2000, 2009**

US Government Users Restricted Rights—Use, duplication or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.

目次

Rational Change の紹介	1
Rational Change の機能	2
標準ライフサイクルと状態の概要	4
変更依頼のライフサイクルと状態	4
タスクのライフサイクルと状態	6
Rational Change アドミンインターフェイスの概要	7
ダイアログ パネル	9
ヘルプの使用方法	11
特記事項	13
Rational Change の管理	17
Rational Change セッションの開始	18
プロセス パッケージのインストール	19
旧リリースの CR Process ファイルのアップグレード	20
一般的な操作	21
サーバーの設定	22
データベース構成の表示と変更	23
データベースの追加	23
データベースの削除	24
ホスト構成の表示と変更	24
ホストの追加	24
ホストの削除	25
セントラル サーバーの追加	26
セントラル サーバーの削除	26
リモート サーバーの追加	27
リモート サーバーの削除	27
管理作業の実行	28
ユーザーの表示	29
セントラル サーバー モードでのユーザーのアクセス設定	30
データベースからのユーザーの削除	31
ユーザー プロパティの変更	31
単一ユーザーの権限の表示または変更	31
複数ユーザーの権限の変更	32

ユーザー権限を示すレポートの生成	32
Rational Synergy 権限の Rational Change ログイン権限への対応付け	33
Rational Change ログイン ロールの作成	34
レポート結果をキャッシュする期間の変更	35
パッケージのインストール、アンインストール、作成	36
パッケージのインストール	37
パッケージのアンインストール	38
CR Process グラフィック ファイルの作成とインストール	38
プロセス パッケージの作成	39
Rational Change のデバッグ	40
構成変更を含む Rational Change の更新	41
今日のメッセージの更新	42
pt.cfg ファイルの編集	43
CR をセントラル データベースに移行	45

レポートの作成 47

レポートの作成	48
クエリの定義	50
レポート一般プロパティの定義	51
使用するテンプレートの選択	52
ヘッダーの定義	53
レポート本文の定義	54
フッターの定義	56
チャートをレポートに追加	57
グループ化の定義	58
ソートの定義	60
関係レポートの作成	61
関係レポートの定義	62
関係レポート一般プロパティの定義	63
レポートのインストール	64
レポート作成例	65
レポートの作成 (例)	66
クエリの定義 (例)	67
一般プロパティの定義 (例)	69
使用するテンプレートの選択 (例)	71
ヘッダーの定義 (例)	72

本文の定義 (例)	74
フッターの定義 (例)	76
チャートをレポートに追加 (例)	77
グループ化の定義 (例)	79
ソートの定義 (例)	80
関係レポートの作成 (例)	81
関係レポートの定義 (例)	82
関係レポート一般プロパティの定義 (例)	83
関係レポートヘッダーの定義 (例)	84
関係レポート本文の定義 (例)	85
レポートの保存とインストール (例)	86

Rational Change プロセスのカスタマイズ 89

変更依頼プロセスの設計	90
リストボックス値の変更	95
リストボックス タイプの変更	96
単純リストボックス値の追加、変更、削除	96
依存リストボックス値の追加、変更、または削除	98
リストボックス ソース ファイル値の変更	99
データベース リストボックス値の変更	100
リストボックス マネージャ インターフェイスを使用しないリストボックス値の管理	101
新規ダイアログボックスの定義	104
CR Process 変更依頼 情報 ダイアログボックスの定義	105
ロール固有 CR Process の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義	106
ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義	107
ロール固有、ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義	108
状態固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義	109
ロール固有、状態固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義	110
変更依頼 提出ダイアログボックスまたは変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義 ..	111
ロール固有の変更依頼 提出または変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義	112
属性の作成または変更	113
CR Process の作成、変更、削除	114
CR Process ダイアログボックスの表示	115
CR Process ファイルを新しい名前で保存	116
新規 CR Process ファイルの作成	117
CR Process ファイルの削除	118

CR Process プロパティの定義.....	119
2つのCR Process ファイルのマージ.....	130
CR ライフサイクルの追加または変更.....	131
ライフサイクルの追加.....	132
ライフサイクルの変更.....	133
グループ セキュリティ ルールの概要	141
グループ セキュリティ ルールの設計.....	142
グループ セキュリティの概要.....	143
情報の使用方法の特定.....	145
ルールの定義.....	146
まとめ.....	149
グループ管理.....	150
グループのメンバーの表示.....	151
リストに表示されるユーザー数の変更.....	151
ACL の管理.....	152
ACL の定義.....	153
ACL の編集.....	154
ダイアログボックス	155
アドミニストレーション.....	157
一般タブ.....	159
サーバー タブ.....	161
ユーザー タブ.....	167
グループ タブ.....	175
ACL タブ.....	177
検索タブ.....	181
CR の同期タブ.....	183
パッケージインストーラ タブ.....	185
リストボックス マネージャ タブ.....	187
レポート ファイルの選択.....	193
変更依頼プロセス ファイルの選択.....	195
CR Process.....	197
CR Process レベル操作.....	198
ライフサイクル編集操作.....	199
CR Process オプション.....	201

ライフサイクル オプション	217
Rational Change のカスタマイズの概要	229
コンポーネント	230
Rational Change ディレクトリ	234
カスタムライフサイクルの配布	235
用語解説	237
索引	245

Rational Change の紹介

IBM® Rational® Change は IBM® Rational® Synergy® と統合されたウェブ ベースの総合 [変更依頼](#) システムです。

Rational Change アドミニストレータ (Admin) [ロール](#) で Rational Change を使用するために必要な基本情報については、以下のページを参照してください。

- [Rational Change の機能](#)
- [標準ライフサイクルと状態の概要](#)
- [Rational Change アドミンインターフェイスの概要](#)
- [ヘルプの使用法](#)

Rational Change は、旧リリースでは Telelogic Change と呼ばれていました。Rational Synergy は Telelogic Synergy と呼ばれていました。

技術サポートにアクセスするには、<http://www.ibm.com/software/awdtools/change/support> を参照してください。

ドキュメントを入手するには、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> を参照してください。

Rational Change の機能

以下の機能により、Rational Change は変更追跡を確実に、しかも自動的にを行います。

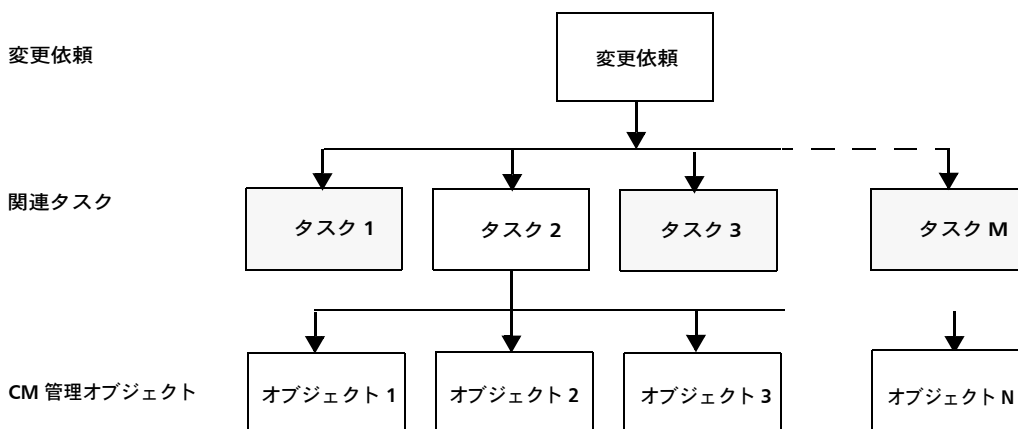
- [変更依頼、タスク、管理オブジェクト](#)
- [インターフェイスとセキュリティ](#)
- [グループセキュリティ](#)
- [カスタマイズ](#)
- [インストールオプション](#)

変更依頼、タスク、管理オブジェクト

Rational Change は、変更依頼を使用して変更の依頼を追跡します。[変更依頼](#)は、変更の内容や依頼者など、変更の詳細を記述するデータベース オブジェクトです。変更依頼の作業を行っているとき、変更依頼の記述を修正、後で考慮するために変更依頼を保留、変更依頼を別のデータベースへ転送、あるいは変更依頼を拒否することさえできます。

変更依頼は、小さいコンポーネントに分割してそれを個々に追跡しなければならないほど複雑なことがよくあります。Rational Change では、このために関連タスクを使用します。関連タスクは単に[タスク](#)とも呼び、変更依頼の一部の詳細を記述し、追跡するデータベース オブジェクトを指します。Rational Synergy と Rational Change を併用している場合、タスクには、ソース ファイルなど管理オブジェクトがある場合があります。

下図に、Rational change オブジェクトの相関関係を示します。



インターフェイスとセキュリティ

Rational Change には、*Admin*、*User*、*ReportBuilder*、という 3 つのインターフェイスがあります。Rational Change は、バックエンドの Rational Synergy [権限](#)を使用して [変更依頼](#) データベースのセキュリティを確保します。これらの権限の作成および割り当ての詳細については、[管理作業の実行](#)を参照してください。

グループ セキュリティ

Rational Change には、ロールベースおよびライフサイクルセキュリティとともに機能する、グループセキュリティ機能が備わっています。グループセキュリティにより、ユーザーのグループメンバーシップに基づいて、変更依頼、タスク、オブジェクトへの読み取りおよび書き込み許可を定義できます。グループセキュリティ機能は、IBM® Rational® Directory Server (RDS) で管理されます。グループの作成と管理およびアクセス権限については、Rational Directory Server ヘルプを参照してください。

カスタマイズ

通常はサイトごとに固有の変更追跡に関する要件があります。Rational Synergy では、組織固有のニーズに対応できるように、リストの変更、ライフサイクルのカスタマイズ、カスタムレポートの作成が可能です。

Rational Change HTML テンプレートと構成ファイルの使用により、その他のカスタマイズも可能です。

インストール オプション

Rational Change には、セントラル サーバーとスタンドアロンの 2 種類の構成があります。セントラルサーバー構成でインストールすることで、CR を複数のデータベースに分散させず、1 つのデータベースに保持できます。タスクとオブジェクトを含むデータベースは、セントラルサーバーに直接接続するか、リモートサーバーを使用して間接的に接続できます。リモートサーバーは、セントラルサーバーとリモート開発データベース間で、プロキシの役割をします。

また、スタンドアロンモードも使用できますが、CR はサーバーに接続されている複数のデータベースに保存されます。

また、Rational Change は、WebSphere Application Server Community Edition、WebSphere Application Server、または Jetty で稼動するようにインストールすることもできます。

各種インストールオプションの詳細については、『Rational Change インストールガイド』を参照してください。

さらに、ユーザーの管理も、Rational Directory Server によって行うようになりました。Rational Directory Server の詳細については、製品のドキュメントを参照してください。

標準ライフサイクルと状態の概要

[ライフサイクル](#)は、ユーザーが依頼を修正および遷移する方法を決定する一連のルールです。ユーザー インターフェイスを使用してログインすると、以下のライフサイクル（および関連状態）がアクティブになります。

- [変更依頼のライフサイクルと状態](#)
- [タスクのライフサイクルと状態](#)

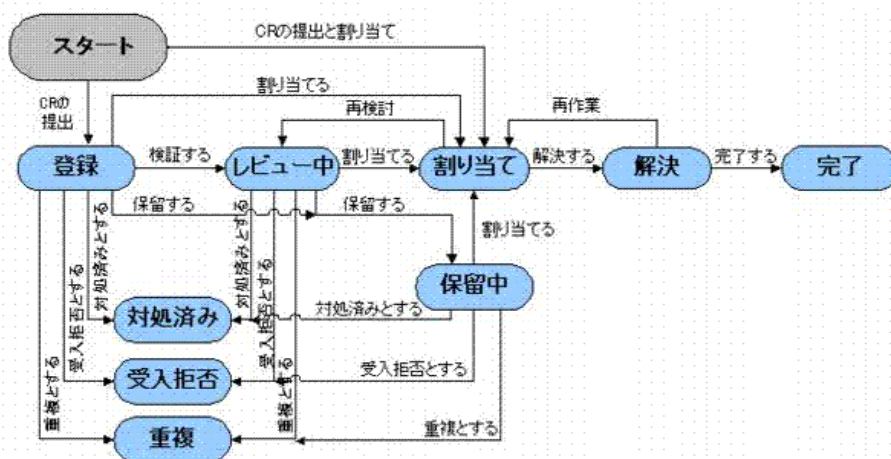
変更依頼のライフサイクルと状態

Rational Change アドミニストレータが、標準開発プロセス *dev_process_j* をインストール済みであるとし、ここに示される状態と遷移は、この[プロセス](#)に基づいています。Rational Change には、*dev_process_j* のほか *ecp_process* もあります。*ecp_process* の詳細については、『CR Process Guide』を参照してください。

dev_process_j の User [ロール](#) の場合、新しい変更依頼の最初の状態は「登録」または「割り当て」です。その後、変更依頼は進行し、変更依頼のライフサイクルの各段階とその状態を遷移していきます。

最終的に、変更依頼は正常に完了するか、別の変更依頼の重複とするか、古いものとされるか、拒否されます。

dev_process_j の遷移と状態を示します。



注記：実際のライフサイクルがこの図と異なっている場合は、ライフサイクルがカスタマイズされていると考え

られます。

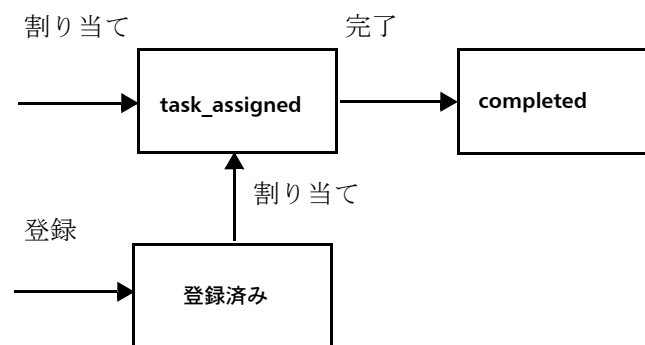
Rational Change のライフサイクルのカスタマイズについては、[CR ライフサイクルの追加または変更](#)を参照してください。

タスクのライフサイクルと状態

タスクは、変更依頼のライフサイクルで割り当て状態に遷移するとき、または Rational Synergy を使用して作成できます。

すべての新規タスクの最初の状態は *task_assigned* または *registered* (未割り当て) です (*task_assigned* 状態がデフォルトです)。タスクが変更依頼と関連付けられている場合、変更依頼を解決するには、タスクを遷移して *completed* 状態にする必要があります。

下図に遷移と状態を示します。



注記：タスクのライフサイクルをカスタマイズすることはできません。

Rational Change アドミン インターフェイスの概要

Rational Change インターフェイスは、[アクションパネル](#)、[ボタンバー](#)と、アクションパネルリンクをクリックすると変わる[ダイアログパネル](#)で構成されます。

一連のレポートは、[ホーム](#)ページにあります。これらのページでは、アドミンユーザーに役立つ製品の使用方法、構成、デバッグ情報などが提供されます。

下図に[ホーム](#)リンクをクリックした後の Rational Change のウィンドウを示します。

アクションパネル →

ダイアログ パネル (ステータス サマリー ページを表示) →

IBM Rational Change

ホーム (H) | アドミンストレーション (A) | ライフサイクル エディタ (L) | レポートビルダ (R) | ヘルプ (H) | 終了 (X)

サーバー モニタリング
 ステータス サマリー
 トренд
 イベント ログ
 管理監査ログ
 はじめに
 ウェルカム ページ
 本リリースの新機能

ステータス サマリー

設定

Rational Change ホーム: C:\Program Files\IBM\Rational\Change\5.2RC1\jetty\webapps\changeRC1\
 Rational Synergy ホーム: C:\Program Files\Telelogic\Telelogic Synergy 6.6a

TDS URL: ldap://localhost:1589/

インストールされたプロセス: IBM Rational 開発プロセス (dev_process.xml)
 プロセスバージョン: dev_process_j

タイムゾーン: 日本標準時間

エラー (0)

サーバーエラーはありません

現在のシステム負荷

データベース	アクティブ ユーザー	Rational Synergy セッション
training	1	2
合計	1	2

ヒープメモリ使用量: 45 / 512 MB
 スレッド数: 65

アクションパネル

アクションパネルは、Rational Change ウィンドウの上部にあり、操作（アドミンストレーションなど）はすべてここから開始します。リンクをクリックすると、操作に対応したダイアログボックスがダイアログパネルに表示されます。

アドミン インターフェイスでは、アクションパネルの以下の操作を使用できます。

- **ホーム リンク**
このリンクをクリックして、Rational Change の詳細な状態とサーバー情報を表示します。また、**ウェルカム ページ**と**本リリースの新機能**ページを表示します。
- **アドミニストレーション リンク**
このリンクをクリックして、Rational Change のメンテナンス操作を行います。
- **ライフサイクル エディタ リンク**
このリンクをクリックして Rational Change [ライフサイクル](#) の表示と変更を行います。
Rational Change インストレーションをリモート サーバーとして設定している場合、このリンクは表示されません。
- **レポート ビルダ リンク**
このリンクをクリックし、構成可能なコンポーネントを使用して Rational Change レポートを生成します。
Rational Change インストレーションをリモート サーバーとして設定している場合、このリンクは表示されません。
- **ヘルプ リンク**
このリンクをクリックして、使用中のインターフェイスに対応するヘルプを表示します。
注記: 状況依存ヘルプを表示するには、各ダイアログボックスのボタンバーにある**ヘルプ**リンクをクリックしてください。
- **終了リンク**
このリンクをクリックして、Rational Change からログアウトします。この操作を行うと、Rational Change セッションを終了し、セッションのリソースを解放します。

ボタンバー

ここに表示されるボタンは、アクションパネルで選択された操作によって変わります。状態ページを除き、ヘルプは常に使用可能です。

ヘルプ リンク

状況依存ヘルプを表示するには、各ダイアログボックスのボタンバーの？（疑問符）ボタンをクリックしてください。

ダイアログ パネル

ダイアログ パネルは Rational Change ウィンドウのアクションパネルを除いた部分で、ダイアログボックスとほとんどの操作の結果がここに表示されます。

以下のマークにより、操作の状態が示されます。



緑色のチェックマークは操作が成功したことを示します。



赤色の X は操作が失敗したことを示します。



i (情報) の文字は、ダイアログボックスの内容を読んで結果を確認しなければならないことを示します。

失敗を示すアイコンが表示された場合は、失敗の理由も表示されます。

ホーム

ログオンするかアクションパネルの **ホーム** をクリックすると、*Admin* ユーザーのホームに移動し、状態と概要情報や傾向が表示され、デバッグに必要なログを参照できます。

- **ステータス サマリー** ページで、サーバーごとに、各データベースの現在の構成やシステムの負荷を参照できます。セントラルサーバー モードでは、接続されたサーバーについての情報を参照できます。

また、**エラー** ボックスに、現在未解決のエラーのリストが表示されます。エラーはホスト、データベース、リモートサーバーに分類されます。情報はエラーが存在する場合にのみ表示され、解決されるまで保持されます。表内の特定の情報を表示する列を、保存することもできます。

- **トレンド** ページで、アクティブなユーザーとセッションを表示する間隔を指定できます。
- **イベント ログ** ページで、デバッグのオン、ダウンロード済みログファイルの表示、ログファイルのクリアを行うことができます。
- **管理監査ログ** ページで、ユーザーへの変更、インストール/アンインストールされたパッケージ、追加または削除されたデータベース、リモートサーバーとセントラルサーバーのリンクの追加と削除、および ACL への変更を参照できます。

ログファイルの名前は `audit_log.xml` で、`/CHANGE_APP_HOME/webapps/synergy/logs` にあります。

Rational Change のディレクトリ構造の詳細については、[Rational Change ディレクトリ](#) を参照してください。

該当するリンクをクリックして、ログの更新、ダウンロード、印刷を行うことができます。

- **はじめに** ページでは、ウェルカム ページを表示してカレント リリースの最新情報を参照できます。

ユーザー インターフェイスのホームページ

ホームページは、ユーザーインターフェイスでも使用できます。これらのページは構成が可能なので、ユーザーは独自のページを定義したりデフォルト ページを使用するか、あるいは定義済みのカスタム ページから選択することもできます。デフォルトまたは定義済みカスタム ページは、*Admin* 権限を持つユーザーなら誰でも定義できます。

特定のユーザーまたはグループのデフォルト ホームページの定義および割り当ての詳細については、ユーザー インターフェイスにログオンしてヘルプを参照してください。

ヘルプの使用方法

アドミン ヘルプには、アドミン インターフェイスを使用してログインした場合の、**Rational Change** の設定および使用に関する情報が含まれます。ヘルプは HTML 形式になっていますので、サポートされているブラウザを使用していれどどのプラットフォームでも表示できます。ヘルプでは、フレームを使用して、システム内の情報をすばやく継続的に検索できます。ヘルプの設定を格納し、検索するためには、ブラウザの設定で **Cookie** を使用できるようにしておく必要があります。**Cookie** が無効になっていると、ヘルプシステムの起動時に、最後に選択したタブ ページを開いたり、**Rational Change** ウェブサイトを参照したりすることができません。

ダイアログボックスのボタンバーにある **ヘルプ** リンクをクリックして、状況依存ヘルプを表示します。ヘルプのさまざまなトピックを表示するには、本文中や目次ページ、索引にあるリンクをクリックします。

ヘルプは、アクションパネルの **ヘルプ** リンクをクリックしても表示できます。

特記事項

© Copyright IBM Corporation 2000, 2009.

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Copyright © 2008 by IBM Corporation.

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 106-8711

東京都港区六本木 3-2-12

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示 もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、製造元に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software |
IBM Corporation
1 Rogers Street
Cambridge, Massachusetts 02142
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願います。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

サンプルコードの著作権

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。©Copyright IBM Corp. 2000 - 2009.

商標

IBM および関連の商標については、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。Microsoft、Windows、Windows 2003、Windows XP、Windows Vista および / またはその他の Microsoft 製品は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

Rational Change の管理

以下のページでは、Rational Change にログインして管理操作を行う手順を説明します。

- [Rational Change セッションの開始](#)
- [プロセス パッケージのインストール](#)
- [旧リリースの CR Process ファイルのアップグレード](#)
- [一般的な操作](#)
- [サーバーの設定](#)
- [管理作業の実行](#)
- [パッケージのインストール、アンインストール、作成](#)
- [Rational Change のデバッグ](#)
- [構成変更を含む Rational Change の更新](#)

詳細については、[アドミニストレーション](#)を参照してください。

Rational Change セッションの開始

セッションを開始するには、サポートされているブラウザと、インストールした Rational Change の URL が必要です。また、Admin セッションを開始するには、使用するユーザー ID が、Admin ロールに関連する Rational Change 権限を少なくとも 1 つ持っている必要があります。

詳細については、[単一ユーザーの権限の表示または変更](#) および [Rational Synergy 権限の Rational Change ログイン権限への対応付け](#) を参照してください。

1. ブラウザを開きます。
2. Rational Change サーバーの URL へ移動します。

URL は `http://hostname:port_number/context/admin` というような形式になります。

注記： IP アドレスを使用して URL を指定するには、手作業で `CHANGE_HOME\Fcs_app\etc` ディレクトリつまり [Rational Change ディレクトリ](#) 内の `synergy.xml` ファイルを編集する必要があります。

`context` はインストレーションのタイプによって異なりますが、`http://eagle:8600/central/admin` のようになります。

3. Rational Change ログインウィンドウで、ユーザー ID とパスワードを入力します。

注記： スタンドアロンモードでパッケージをインストールするには、使用するユーザー ID がすべてのデータベースに対して Rational Synergy の `ccm_admin` 権限を持つ必要があります。また、ユーザーに各データベースに対する権限を割り当てるときは、`ccm_admin` Rational Synergy ロールを持っているデータベースのみが表示されます。

セントラルサーバーモードでは、セントラル CR データベースの `ccm_admin` Rational Synergy ロールが必要となります。

4. **Enter** キーを押すか、**ログイン** をクリックします。

Rational Change ウィンドウが表示されます。ステータス サマリー ページが開き、構成情報と現在のシステムの負荷が表示されます。このウィンドウから、使用傾向グラフとログファイルを表示します。

プロセス パッケージのインストール

Rational Change をインストールした後、Rational Change プロセス パッケージをインストールする必要があります。プロセス パッケージをインストールしないと、*Admin* としてしかログインできません。

1. *Admin* 権限を持つユーザーとしてログインし、[Rational Change セッションの開始](#)を行います。
2. [パッケージのインストール](#)で示すように、自分のサイトに適したプロセス パッケージをインストールします。

旧リリースの CR Process ファイルのアップグレード

旧バージョンの Rational Change の使用時に作成された CR Process ファイルを使用するには、以下の手順でファイルをインストールして変換します。この例は、5.0 からのアップグレードを想定しています。他のバージョンからアップグレードする場合は、適切な置き換えを行ってください。

また、ウェルカムページに示す **CR Process アップグレード チェックリスト** も参照してください。

1. 5.0XML ファイルを 5.2 CR Process ディレクトリ、つまり、[Rational Change ディレクトリ](#) に示すように `CHANGE_APP_HOME/WEB-INF/cr_process` へコピーします。
2. *Admin* 権限を持つローカル アドミン ユーザーとしてログインし、[Rational Change セッションの開始](#)を行います。
3. 5.0 XML ファイルの **CR Process** ダイアログボックスを表示します。
ステップについては、[CR Process ダイアログボックスの表示](#)を参照してください。
4. ファイルを保存します。
ステップについては、[CR Process ファイルを新しい名前での保存](#)を参照してください。
5. 更新した CR Process パッケージを作成し、インストールします。
ステップについては、[プロセスパッケージの作成](#) および [パッケージのインストール](#)を参照してください。
6. CR Process をテストします。
7. CR Process が意図したとおり機能しない場合は、必要な変更を行ってステップ 5 と 6 を繰り返します。

一般的な操作

一般タブを使用して以下の操作を行います。

- Rational Synergy インテグレーションを使用するように Rational Change を設定
- Rational Change で使用する電子メールサーバーの構成
- 日付と名前の表示フォーマットの設定
- ユーザー および グループ リストの動作設定の変更
- 構成データの再読み込み
- 監査ログのダウンロードと表示
- 今日のメッセージの設定

このページは、[アドミニストレーション](#) リンクをクリックして表示します。

詳細については、[一般タブ](#)を参照してください。

サーバーの設定

以下のサーバー管理操作を行うことができます。

- [データベース構成の表示と変更](#)
- [データベースの追加](#)
- [データベースの削除](#)
- [ホスト構成の表示と変更](#)
- [ホストの追加](#)
- [ホストの削除](#)
- [セントラルサーバーの追加](#)
- [セントラルサーバーの削除](#)
- [リモートサーバーの追加](#)
- [リモートサーバーの削除](#)

詳細については、[サーバー タブ](#)および [pt.cfg ファイルの編集](#)を参照してください。

セントラルサーバー モードを使用しており、既存の CR（セントラルサーバーモードの使用以前に開発データベースで作成された CR）がある場合は、既存の CR をセントラル CR データベースに移行する必要があります。[CR をセントラルデータベースに移行](#)を参照してください。

データベース構成の表示と変更

データベースを使用可能または使用不可にしたり、最大セッション数を変更するなど、データベース構成を変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー** タブの**データベース** リストに表示されているデータベースの中から 1 つを選択してクリックします。

データベース構成サブダイアログボックスが表示されます。

3. 必要に応じてデータベース プロパティを変更します。
4. **保存**をクリックします。

詳細については、[データベース構成サブダイアログボックス](#)を参照してください。

データベースの追加

ユーザーの Rational Change インストレーションで使用できるデータベースのリストにデータベースを追加できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー** タブの**データベース**の隣の**追加**をクリックします。

データベース パス ポップアップダイアログボックスが表示されます。

3. データベースへのパスを入力して **OK** をクリックします。
- Windows の場合、パスは UNC 形式のパスである必要があります。

データベース構成サブダイアログボックスが表示されます。

4. データベースの情報を入力します。
5. **保存**をクリックします。

詳細については、[データベース構成サブダイアログボックス](#)を参照してください。

データベースの削除

Rational Change インストレーションで使用できるデータベースのリストからデータベースを削除できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー タブのデータベース** リストに表示されているデータベースの中から 1 つを選択してクリックします。

データベース構成サブダイアログボックスが表示されます。

3. データベースの下の**削除**をクリックします。
4. **保存**をクリックします。

詳細については、[データベース構成サブダイアログボックス](#)を参照してください。

ホスト構成の表示と変更

ホストを使用可能または使用不可にしたり、最大セッション数を変更するなど、ホスト構成を変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー タブのホスト** リストに表示されているホストの中から 1 つを選択してクリックします。

ホスト構成サブダイアログボックスが表示されます。

3. 必要に応じてホストプロパティを変更して、**保存**をクリックします。

詳細については、[ホスト構成サブダイアログボックス](#)を参照してください。

ホストの追加

Rational Change インストレーションで使用できるホストのリストにホストを追加できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー タブのホスト**の隣の**追加**をクリックします。

ホスト名ポップアップダイアログボックスが表示されます。

3. ホスト名を入力して **OK** をクリックします。

ホスト構成サブダイアログボックスが表示されます。

4. ホストの情報を入力します。
5. **保存**をクリックします。

詳細については、[ホスト構成サブダイアログボックス](#)を参照してください。

ホストの削除

Rational Change インストレーションで使用できるホストのリストから、ホストを削除できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー** タブの**ホスト** リストに表示されているホストの中から1つを選択してクリックします。

ホスト構成サブダイアログボックスが表示されます。

3. ホストの下の**削除**をクリックします。
4. **保存**をクリックします。

詳細については、[ホスト構成サブダイアログボックス](#)を参照してください。

セントラル サーバーの追加

Rational Change インストールで使用できるセントラル サーバーは 1 台のみです。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー**タブで、**セントラル サーバー**をクリックします。
3. 接続するセントラル サーバーの名前を入力します。
4. セントラルサーバーの URL を入力します。
5. **登録**をクリックします。

詳細については、[セントラルサーバータブ](#)を参照してください。

セントラル サーバーの削除

自分の Rational Change インストールから、セントラル サーバーを削除できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー**タブで、**セントラル サーバー**をクリックします。
3. **登録解除**をクリックします。

ダイアログボックスが開き、セントラル サーバーとのデータベース関係の登録を解除（完全に削除、または削除して保持）できます。

詳細については、[セントラルサーバータブ](#)を参照してください。

リモートサーバーの追加

セントラルサーバーにリモートサーバーを追加できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバータブ**で、**リモートサーバー**をクリックします。
サーバーのリストが表示されます。
3. **リモートサーバーの追加**をクリックします。
4. リモートサーバーの URL を入力します。
5. **追加**をクリックします。

詳細については、[リモートサーバータブ](#)を参照してください。

リモートサーバーの削除

自分の Rational Change インストレーションから、リモートサーバーを削除できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバータブ**で、**リモートサーバー**をクリックします。
サーバーのリストが表示されます。
3. 削除するサーバーの名前を選択します。
4. **削除**をクリックします。

詳細については、[リモートサーバータブ](#)を参照してください。

管理作業の実行

以下のユーザー管理操作を行うことができます。

- [ユーザーの表示](#)
- [セントラルサーバーモードでのユーザーのアクセス設定](#)
- [データベースからのユーザーの削除](#)
- [ユーザープロパティの変更](#)
- [単一ユーザーの権限の表示または変更](#)
- [複数ユーザーの権限の変更](#)
- [Rational Synergy 権限の Rational Change ログイン権限への対応付け](#)
- [Rational Change ログインロールの作成](#)
- [レポート結果をキャッシュする期間の変更](#)

注記：ユーザー管理の多くは、Rational Directory Administration を使用して行う必要があります。ユーザーの作成、削除、インポートについては、該当製品のマニュアルを参照してください。

詳細については、[ユーザータブ](#)および [pt.cfg ファイルの編集](#)を参照してください。

ユーザーの表示

ユーザー タブに、すべてのユーザー (Rational Synergy ユーザー名を持つユーザー)、あるいは一部のユーザーを表示できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
3. **すべて**タブをクリックしてすべてのユーザーを表示するか、**フィルタ**タブをクリックして一部のユーザーを表示します。

リストをフィルタリングするには、リストの**フィルタ** フィールドに一致させる文字列を入力して、**実行**をクリックします。

詳細については、[ユーザー タブ](#)を参照してください。

セントラル サーバー モードでのユーザーのアクセス設定

セントラル サーバーで作業するすべてのユーザーに、権限を割り当てる必要があります。セントラル CR データベースの権限を持つユーザーだけが、Rational Change にログオンできます。

1. Rational Directory Server (RDS) に新しいユーザーを追加します。詳細については、RDS ヘルプを参照してください。ユーザーが定義済みの Rational Synergy ユーザー名を持っていることを確認します。
2. 新しいユーザーが Rational Synergy を使用したり、Rational Change のタスク情報にアクセスする必要がある場合は、`ccm users` コマンドを使用して、ユーザーをタスク データベースに追加します。詳細については、対応する『Rational Synergy インストール ガイド』を参照してください。
3. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
4. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
5. **ユーザー管理** ダイアログボックスで、1 つまたは複数のユーザー名をクリックします。
6. ユーザーに必要な権限を指定します。詳細については、[単一ユーザーの権限の表示または変更](#)を参照してください。

これで、このユーザーは Rational Change にログオンできるようになります。

データベースからのユーザーの削除

使用可能データベースのリストから、ユーザーの権限を削除できます。これによって、選択したデータベースからユーザーを効率的に削除できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
3. **ユーザー管理** ダイアログボックスで、1つまたは複数のユーザー名をクリックします。
4. **ユーザーをデータベースから削除**をクリックします。セントラル サーバー モードかスタンドアロン モードかによって、表示されるデータベース情報が異なります。

ユーザーをデータベースから削除サブダイアログボックスが表示されます。

5. ユーザーを削除したいデータベースを選択して、削除範囲を設定します。
6. **削除**をクリックします。
7. **保存**をクリックします。

詳細については、[ユーザーをデータベースから削除サブダイアログボックス](#)を参照してください。

ユーザー プロパティの変更

ユーザー タブでユーザーを選択してユーザー プロパティを変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
3. **ユーザー管理** ダイアログボックスで、ユーザー名をクリックします。
4. 読み取りセキュリティを使用している場合は、**ユーザー プロパティ** サブダイアログボックスの**読み取りセキュリティ値**に値を入力します。

詳細については、[読み取りセキュリティ属性チェックボックス](#)を参照してください。

5. **更新**をクリックしてユーザー プロパティを更新します。
6. **保存**をクリックします。

詳細については、[ユーザー編集エリア](#)を参照してください。

単一ユーザーの権限の表示または変更

ユーザー タブで一人のユーザーを選択してから各データベースの権限を選択して、ユーザー権限の表示または変更を行うことができます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
3. **ユーザー** リストで、ユーザー名をクリックします。

4. **権限**サブダイアログ チェックボックスでユーザーの権限とデータベースの組み合わせを選択します。
5. **更新**をクリックしてユーザー権限を更新します。
6. **保存**をクリックします。

詳細については、[ユーザー編集エリア](#)を参照してください。

複数ユーザーの権限の変更

ユーザー タブで複数のユーザーを選択してから各データベースの権限を選択して、複数ユーザーの権限の変更を行うことができます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
3. **すべて**タブのリストまたは**フィルタ**タブを使用して、複数のユーザーをクリックします。
4. **複数ユーザー権限**サブダイアログ チェックボックスで、ユーザーの権限とデータベースの組み合わせを選択します。
5. 選択したユーザーの Rational Change 権限を追加、設定、または削除します。
 - 選択した複数の権限を既存の権限集に追加するには、**追加**をクリックします。
 - 選択した複数の権限をユーザーの既存の権限集から削除するには、**削除**をクリックします。
 - 選択した複数の権限でユーザーの既存の権限集を置き換えるには、**設定**をクリックします。
6. **更新**をクリックしてユーザー権限を更新します。
7. **保存**をクリックします。

詳細については、[複数ユーザー権限エリア](#)を参照してください。

ユーザー権限を示すレポートの生成

1つまたは複数のデータベースで指定した Rational Change 権限を持つすべてのユーザー、または 1つまたは複数の権限を持つすべてのユーザーを示すレポートを生成できます。データベース内に多数のユーザーがいる場合は、権限によって絞り込むことで検索にかかる時間を短縮できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**ユーザー** タブをクリックします。
3. **権限ごとのユーザーレポート** をクリックします。
4. **権限ごとのユーザーレポート** ダイアログボックスで、レポートに含める権限を選択します。少なくとも1つの権限を持つすべてのユーザーを含める場合は、**任意の権限** を選択します。

5. レポート対象のデータベースを選択します。すべてのデータベースを対象とする場合は**すべてを選択**をクリックします（スタンドアロンモードの場合のみ）。
6. 各データベースの権限を明示的にリストする場合は、**ユーザーの権限リスト**を選択します。
7. **レポート実行**をクリックします。
8. レポートを印刷するには、**印刷**をクリックします。

詳細については、[権限ごとのユーザーレポートサブダイアログボックス](#)を参照してください。

Rational Synergy 権限の Rational Change ログイン権限への対応付け

この操作は、Rational Change 権限（ロール）を Rational Change ログイン ロールに対応付けます。たとえば、*user* ログイン ロールに Rational Synergy の *developer* 権限が対応付けられている場合、*developer* 権限を持つユーザーなら誰でも *User* としてログインできます。

Rational Change ロールでセッションを開始するには、ユーザーは少なくとも1つの Rational Synergy 権限が必要です。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブボタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの編集ダイアログボックスが表示されます。
3. **ロール** タブをクリックします。
4. **Rational Change ロール** リストで、ロールをクリックします。
5. **Rational Synergy ロール** リストで、Rational Change ロールに割り当てる 1 つ以上の権限を選択します。
6. **マッピング設定**をクリックします。

この操作は、1 つ以上の Rational Synergy 権限を Rational Change ロールに対応付けます。

注記：ライフサイクル レベルで権限を対応付けることもできます。一連の権限は、どこで定義しても同じです。

7. **更新**をクリックします。
8. **CR Process** サブボタンバーで、**名前を付けて保存**をクリックします。
9. **保存**をクリックします。

詳細については、[ロールタブ](#)を参照してください。

Rational Change ログイン ロールの作成

Rational Change のログイン ロールは、ユーザーが Rational Change セッションにログインしたとき、どのインターフェイスが表示されるかを決定します。Rational Change ロールでセッションを開始するには、ユーザーは少なくとも 1 つの Rational Synergy 権限が必要です。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. ロールを作成します。

CR Process ロールの場合、**CR Process** サブボタンバーで**編集**をクリックします。**CR Process** プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。

または、**ライフサイクル** リストでライフサイクルをクリックし、**編集**をクリックします。**ライフサイクル** プロパティの**編集**サブダイアログボックスが表示されます。
3. **ロール** タブをクリックします。
4. 新しいロールを作成します。
 - a. **Rational Change** ロールの下で**作成**をクリックします。

仮のロール名 `_New_Role_` がロール リストに表示されます。
 - b. **名前**ボックスに新しいロール名を入力します。
 - c. **詳細**ボックスに、ロールの説明を入力します。
5. Rational Synergy 権限を Rational Change ログインロールに対応付けます。
 - a. **Rational Change** ロール リストで、ロールをクリックします。
 - b. **Rational Synergy** ロール リストで 1 つ以上のロールをクリック（あるいはすべてのロール チェックボックスを選択）します。

注記：Rational Change ログインロールに Rational Synergy 権限を割り当てないと、持っている Rational Synergy 権限に関わらず Rational Change ロールでログインすることができません。
 - c. **マッピング設定**をクリックします。
6. **更新**をクリックします。
7. **CR Process** サブボタンバーで、**名前**を付けて**保存**をクリックします。
8. **保存**をクリックします。

詳細については、[ロールタブ](#)を参照してください。

レポート結果をキャッシュする期間の変更

pt.cfg ファイルの REPORT_SAVE_LIMIT パラメータで指定した日数より古いユーザー レポートは、自動的に削除されます。この期限は、pt.cfg ファイルの REPORT_SAVE_LIMIT 値を変更して変えることができます。

詳細については、[pt.cfg ファイルの編集](#)を参照してください。

パッケージのインストール、アンインストール、作成

以下のパッケージ操作を行うことができます。

- [パッケージのインストール](#)
- [パッケージのアンインストール](#)
- [CR Process グラフィック ファイルの作成とインストール](#)
- [プロセス パッケージの作成](#)

詳細については、[パッケージ インストーラ タブ](#)を参照してください。

パッケージのインストール

パッケージをインストールすると、そのパッケージは Rational Change サーバーでアクティブになります。

注記: アクティブにできるのは1つのプロセスパッケージだけです。したがって、新しいプロセスパッケージをインストールする前にインストール済みのものをアンインストールする必要があります。

非プロセスパッケージには、このような制限はありません。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**パッケージ インストーラ** タブをクリックします。

注記: プロセスパッケージのインストールでは、現在実行しているすべてのセッションが無効になります。したがって、プロセスパッケージをインストールする前にユーザーがログオフしていることを確認してください。

3. **パッケージ スコープ** ボックスで、**パッケージ タイプ**をクリックするとそれらのパッケージのみが表示されます。
4. **利用可能なパッケージ**ボックスでインストールするパッケージ (例、`dev_process_j`) を選択します。

パッケージは作成したばかりの新しいパッケージでもかまいません。[プロセスパッケージの作成](#)を参照してください。

5. **インストール**をクリックします。

インストール操作は、パッケージをインストールし、コンフリクトファイルがあればバックアップします。

注記: プロセスパッケージは、Rational Change インストールセッション内のすべてのデータベースの `ccm_admin` 権限を持っている場合にのみインストールできます。セントラルサーバーモードでは、セントラル CR データベースの `ccm_admin` 権限が必要となります。

自分の権限を調べるには、**アドミニストレーション**アクションの**ユーザー**タブで、自分のユーザー名をクリックして権限を表示します。

詳細については、[パッケージ インストーラ タブ](#)を参照してください。

パッケージのアンインストール

パッケージをアンインストールすると、そのパッケージは非アクティブになります。パッケージをアンインストールしてもそのパッケージは削除されません。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**パッケージ インストーラ** タブをクリックします。
3. **インストール済みパッケージ** ボックスで、アンインストールするパッケージをクリックします。

注意！パッケージは、必ずインストールした順序と逆の順序でアンインストールしてください。

4. **アンインストール**をクリックします。

詳細については、[パッケージインストーラタブ](#)を参照してください。

CR Process グラフィック ファイルの作成とインストール

カスタマイズ CR Process で使用する CR Process グラフィック ファイルを作成してインストールできます。使用しているウェブブラウザでサポートされている、.gif、.jpg、.bmp などのフォーマットのファイルを使用できます。

1. 市販のグラフィック エディタを使用して CR Process グラフィックを作成します。
グラフィックにわかりやすい名前 (`my_new_process.gif`) を付けます。グラフィック ファイル名は、CR Process レベル プロパティを定義するとき **イメージ** ボックスで使用します。
2. ディレクトリ `CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥package_templates` に移動します。
3. グラフィック ファイルを格納する `my_newtemplate` というディレクトリ構造を作成します。ディレクトリ構造には、出荷時の `dev_template` ディレクトリなどのサブディレクトリが必要です。
4. `my_new_process.gif` ファイルを一時的な場所から `my_new_template¥trapeze¥ptimages` ディレクトリへコピーします。

パッケージテンプレート ディレクトリは、後にプロセス パッケージを作成するとき「マー ジ」して使用します。詳細については、[プロセスパッケージの作成](#)を参照してください。

プロセス パッケージの作成

CR Process の変更をインストールするため、プロセス パッケージを作成する必要があります。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **パッケージの作成**をクリックします。

注記: パッケージを作成すると、Rational Change はこの CR Process ファイルを使用してプロセス内の各ライフサイクルの構成ファイル エントリ、テンプレート、および他のファイルを作成します。

3. **パッケージ テンプレート** リストで、任意の適用可能パッケージ テンプレートをクリックします。

パッケージ テンプレートの作成例は、[ウェブ タイプの作成、カスタマイズ、インストール](#) および [CR Process グラフィック ファイルの作成とインストール](#) を参照してください。

4. **作成**をクリックします。

この操作が終了したら、[パッケージのインストール](#) に示すようにパッケージをインストールできます。

詳細については、[CR Process オプション](#) を参照してください。

Rational Change のデバッグ

イベント ログ ダイアログボックスを使用してデバッグのオン/オフとログ ファイルの管理を行います。

このページを表示するには、**ホーム** ロケーションの **サーバー モニタリング** リストで **イベント ログ** をクリックします。

構成変更を含む Rational Change の更新

構成変更（リリース番号の追加や pt.cfg ファイルの手動編集など）を行った後で、Rational Change に構成データを再読み込みする必要があります。

このファイルの詳細については、[pt.cfg ファイルの編集](#)を参照してください。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**一般**タブをクリックします。
3. **構成データ** ボックスで、**ロード**をクリックします。

詳細については、[一般タブ](#)を参照してください。

今日のメッセージの更新

ログインダイアログボックスに表示される今日のメッセージを変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**一般**タブをクリックします。
3. 今日のメッセージボックスで、**メッセージの定義**をクリックします。
4. **テキスト**または **HTML** を選択し、メッセージを入力します。
5. **OK** をクリックします。

pt.cfg ファイルの編集

pt.cfg ファイルには、すべての Rational Change セッションの Rational Change 設定があります。pt.cfg ファイルを編集することにより、GUI を使用してアクセスできない設定を変更できます。

1. pt.cfg ファイルを編集します。このファイルは以下の場所にあります。

```
CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥wsconfig
```

2. 設定（たとえば、システム設定）を探して変更します。

```
...
# comment describing the setting
#
[CCM_SYSTEM] [PARAMETER_NAME] your_integer_value
[/PARAMETER_NAME] [/CCM_SYSTEM]
#
...
```

3. pt.cfg ファイルを保存します。
4. [構成変更を含む Rational Change の更新](#)を行います。

CR をセントラル データベースに移行

Rational Change をセントラル サーバーモードでインストールした場合、直ちに新しい CR を提出できるようになります。既存の CR (セントラル サーバーモードの使用以前に開発データベースで作成された CR) を見えるようにするには、セントラル CR データベースに移行する必要があります。

注記: 移行処理には時間がかかります。大きなデータベースでは、CR の移行に数時間から数日間かかる場合もあります。

CR の移行処理中に DCM パッケージを受け取ると、以降の時間がさらに長くなります。

CR の移行処理中も Rational Change は使用できます。セントラル CR データベースと開発データベースのどちらも有効です。セントラル CR データベースに移行された CR は、直ちにユーザーから見えるようになり、編集も可能です。最新の CR から順に転送されます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **サーバー** タブで、**プロパティ**をクリックします。
3. **プロパティ** タブの下で **CR 移行** をクリックします。
4. 移行したい CR が格納されているデータベースを選択します。
5. CR 移行の完了通知を受けるかどうかを指定します。この機能を使用するためには、ご使用のセントラルサーバーが SMTP サーバー経由でメールを送信するように設定されている必要があります。

完了通知を受ける場合は、電子メールアドレスが正しいことを確認してください。

6. **移行**をクリックします。

CR 移行 ウィンドウに移行の進捗状況が表示されます。ウィンドウを閉じても移行は継続されます。進捗状況を確認するためにウィンドウを開いたり閉じたりできます。

移行を停止したい場合は、**停止**をクリックします。停止した移行は、後で再開できます。同じデータベースをもう一度移行すると、停止した箇所から移行が再開されます。ネットワークの問題等で移行が失敗した場合は、問題が発生した箇所から移行が再開されます。

CR 移行が完了したら、`ccmdb update_statistics` コマンドを実行してセントラル CR データベースを最適化する必要があります。このコマンドは、移行の速度が遅くなった場合などに、CR 移行処理の途中で実行することもできます。このコマンドを実行することで、パフォーマンスを向上させることができます。

レポートの作成

レポートビルダを使用して CR、タスク、オブジェクトの追跡に必要なすべての情報を含むレポートを組み立てることができます。

レポートには、選択セットの項目に関する情報が含まれます。レポートの定義では、選択セットの生成に使用するクエリを定義し、各選択セット項目に対して表示する属性を選択し、レポートのレイアウトを定義する必要があります。関連付けられた CR、タスク、オブジェクトに関する情報を表示する関係レポートを定義することもできます。

ReportBuilder または *CR Process Admin* ロールでレポートを定義すると、そのレポートはユーザーインターフェイスを使用してログインしたユーザーのために **レポート** ダイアログボックス内の **システム** フォルダに表示されます。システム フォルダのレポート名の下にフォーマットも追加されます。

主要レポート定義操作について説明します。

- [レポートの作成](#)
- [関係レポートの作成](#)
- [レポートのインストール](#)

詳細な例については、[レポート作成例](#)を参照してください。

レポートの作成

レポートビルダを使用してレポートを作成する方法の概略を、順を追って説明します。エラーを防止するために、以下のとおりの順序でステップを実行してください。

1. レポートの構成を計画します。

たとえば、使用している **CR Process** に基づき、**CR**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれに関するレポートにするか、レポートにどの属性を選択するか、必要とする値がある場合はどの値を計算するかを決めます。レポートの構成要素を決めるには、レポートに含めたい情報を特定する必要があります。

たとえば、サブレポートまたは関係レポートが必要かどうかを決定します。サブレポートと関係レポートは、いずれもコンテキスト項目に関連する項目を参照できる点で似ています。たとえば、コンテキスト項目が **CR** ならば、その関連タスクを参照したい場合があるはずですが、ただし、サブレポートと関係レポートには、以下のような相違点があります。

- 関係レポートの定義は最上位レポートの定義とよく似ています。ただし、関係レポートは、個別クエリやメインプレートをもちません。一方、サブレポートはコンテキスト項目を参照する自身のクエリを持ちます。実はサブレポートは、前もって定義された別のレポートであり、単に他のレポートに含まれているだけです。
- 複数の関係レポートは互いに線状に連鎖させることができます。つまり、各項目は単独の関係項目を示すこととなります。サブレポートは複数の関連項目についてのレポートを可能とします。これは、1つのコンテキスト項目について複数のサブレポートを含めることにより行われます。

したがって、**CR** とそのタスクを表示する場合、関係レポートとサブレポートの両方が使用できます。ただし、**CR** をそのタスクおよび添付ファイルとともに表示するためには、サブレポートを使用するべきでしょう。関係レポートでは、どちらか1種類（タスクか、または添付ファイルのいずれかで、同時に両方は不可）しか表示できないからです。

2. [Rational Change セッションの開始](#)を行います。

3. プロセス パッケージをまだインストールしていない場合はインストールします。

プロセス パッケージには、レポート可能な **CR Process** の属性のリストがあります。プロセス パッケージをインストールしなければ、属性リストは空白です。詳細については、[パッケージのインストール](#)を参照してください。

4. アクションパネルで、**レポートビルダ** をクリックします。

Rational Change を、リモートサーバーを使用するように設定している場合は、このリンクは表示されません。したがって、このサーバーからこの手順を行うことはできません。

レポートビルダ ダイアログボックスが開き、**レポートファイルの選択**サブダイアログボックスが表示されます。

5. レポート名を選択するか、新しいレポート名を入力して新規レポートを作成します。
既存のレポートを変更するには、**利用可能なレポート ファイル** リストでレポート名をクリックし、**編集**をクリックします。
新規レポートを定義するには、新しいレポート名を**新規レポートファイル** ボックスに入力し (xml ファイル名拡張子も含めて)、**作成**をクリックします。
レポート名を入力しない場合、**Rational Change** により、csReportX.xml という名前のレポートが作成されます。XX は **Rational Change** が既存レポート名を使用してレポートを作成するたびに増加していく数字です。
6. レポート対象とする CR、タスク、オブジェクトの選択セットを生成するためのクエリを定義します。
ステップについては、[クエリの定義](#)を参照してください。
7. [レポート一般プロパティの定義](#)を行います。入力したレポート名はユーザーの**システム** レポートおよびフォーマットリストに表示されます。
8. レポートで[使用するテンプレートの選択](#)を行います。
9. [ヘッダーの定義](#)を行います。これは、レポート ページ上部に表示される情報です。
10. [レポート本文の定義](#)を行います。これは、レポート本文に表示される情報です。
11. [フッターの定義](#)を行います。これは、レポート ページ下部に表示される情報です。
12. [チャートをレポートに追加](#)します。これは、レポートの下部に表示されます。
13. [グループ化の定義](#)を行います。グループにより、属性値に基づいてレポートがセクションに分類されます。各グループに対応するグラフィックも定義できます。
14. [ソートの定義](#)を行います。ソートによりレポートに項目を表示する順序が決定します。
注記：ソートは常にグループ化の後に適用されます。したがって、グループ化に選択された属性はソート リストに表示されません。
15. [関係レポートの作成](#)を行います (オプション)。
選択セットに、関連項目のある項目 (タスクが関連付けられている CR など) が含まれている場合、関連項目を表示する関係レポートを定義できます。
16. [レポートのインストール](#)を行います。
詳細な例については、[レポート作成例](#)を参照してください。

クエリの定義

レポートの内容を決めるクエリを定義する必要があります。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**クエリの定義**をクリックします。

クエリの定義ダイアログボックスが表示されます。

2. クエリ条件を選択します。

被演算子、演算子、値を選択し、適切なボタンをクリックします。クエリが完成するまでこのステップを繰り返します。クエリ全体またはクエリの一部を**クエリ ストリング** ボックスに入力することもできます。

3. **更新**をクリックします。

関連トピック

- [クエリの定義 \(例\)](#)

レポート一般プロパティの定義

レポート名や、レポートに表示するオブジェクトのタイプなど、レポート一般プロパティを定義する必要があります。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **一般**タブをクリックします。
3. レポート一般プロパティを定義します。
 - a. **名前**ボックスにレポート名を入力します。

名前は**システム** レポートおよびフォーマットに表示されるため、わかりやすい名前を付けます。
 - b. **タイプ** リストで、**変更依頼**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれかをクリックします。

この選択により、**レポート可能属性**リストの内容が決まります。
 - c. **スタイル** リストで、**ブロック**または**カラム**をクリックします。
 - d. **フォーマット** リストで、生成レポートのフォーマットをクリックします。
 - e. **詳細**ボックスに、レポートの説明を入力します。
4. ページ分割の設定を行います（オプション）。
 - a. **ページ分割**チェックボックスを選択します。

レポートを印刷したり一括遷移に使用したりする場合は、**ページ分割**チェックボックスを選択解除します。選択解除しないと、レポートの印刷やCRの遷移を1度に1ページずつ行わなければなりません。
 - b. **項目 / ページ**に項目数を入力します。
5. HTML レポートに更新ボタンを含める場合は、**再読み込み**ボタンをクリックします。
6. **クエリ制限**ボックスに、検索する最大項目数を入力します。クエリの結果がこの制限を超えた場合、レポートは停止します。
7. **文字列制限**に、属性値の最大文字列長を入力します。この制限を超える属性値は切り捨てられます。
8. **レポート可能属性**リストで、レポートに表示する属性を選択します。

problem_number、**problem_synopsis**、**problem_description** の各属性は、新規レポート作成時、自動的に**レポートの属性**リストに含められます。

属性の準備と設定の詳細については、[属性の作成または変更](#)を参照してください。
9. **更新**をクリックします。

関連トピック

- [一般プロパティの定義 \(例\)](#)

使用するテンプレートの選択

レポートを組み立てるには、使用するテンプレートを選択する必要があります。テンプレートは、ヘッダー、本文、フッターなど、さまざまなレポート要素を表します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **メイン** タブをクリックします。
3. レポートに使用するテンプレートを選択します。
 - a. レポート上部にヘッダーを表示する場合は、**ヘッダー テンプレートを含む**チェックボックスを選択します。
 - b. レポート本文を定義するには、**属性テンプレートを含む**チェックボックスを選択します。
 - c. レポート下部にフッターを表示する場合は、**フッター テンプレートを含む**チェックボックスを選択します。
 - d. レポート下部にチャート図を表示する場合は、**イメージ テンプレートを含む**チェックボックスを選択します。
4. **更新**をクリックします。

関連トピック

- [使用するテンプレートの選択 \(例\)](#)

ヘッダーの定義

レポートにヘッダーを入れる場合は、ヘッダーを定義します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **ヘッダー** タブをクリックします。
3. ヘッダー レイアウトを定義します。
 - a. レポートのタイトルを表示する場合は、**タイトル** チェックボックスを選択します。
タイトルは、レポート生成前にユーザーが付与する名前です。
 - b. 日付を表示する場合は、**日付**チェックボックスを選択します。
 - c. レポート項目数を表示する場合は、**オブジェクト カウント** チェックボックスを選択します。
 - d. レポート名を表示する場合は、**レポート名**チェックボックスを選択します。
 - e. クエリ名を表示する場合は、**クエリ名**チェックボックスを選択します。
 - f. クエリ文字列を表示する場合は、**クエリ スtring** チェックボックスを選択します。
4. ヘッダー メトリック操作を定義します (オプション)。
 - a. **メトリック操作**エリアで、**追加**をクリックします。
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. **メトリック タイプ**の選択リストで、**カラム**または**行とカラム**をクリックします。
 - c. **メトリック操作**の選択リストで、メトリック操作をクリックします。
XXX Metric エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。
メトリックを定義します。
 - d. **メトリック定義**エリアで、**作成**をクリックします。
5. レイアウト エリアの下の**更新**をクリックします。

関連トピック

- [ヘッダーの定義 \(例\)](#)

レポート本文の定義

グラフィックのみを表示させるのでないかぎり、レポートの本文を定義します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **属性**タブをクリックします。
3. 本文のレイアウトを定義します。
 - a. **カラム数**ボックスに、レポートで使用する列の数を入力します。
 - b. レポートの属性と値のペアの周囲を縁取りする場合は、**境界を含む**チェックボックスを選択します。
 - c. ユーザーがレポートの複数の項目を遷移できるようにするには、**一括操作を含む**チェックボックスを選択します。
4. サブレポートを定義します (オプション)。

サブレポートには、あらかじめ定義済みのレポートから取得されたオブジェクトのセットが表示されます。通常、オブジェクトは添付ファイルです (オブジェクトが **CR**、**タスク**、**オブジェクト**である関係レポートオブジェクトと異なります)。サブレポートの使用時期の詳細については、[レポートの作成](#)を参照してください。

- a. **属性テンプレートに含まれるサブレポート** リストの下の**追加**をクリックします。

サブレポートの追加サブダイアログボックスが表示されます。
- b. 生成するサブレポートのタイプに応じて**変更依頼**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれかをクリックします。

この操作により、**レポート選択**リストに正しい選択肢が設定されます。
- c. **レポート選択**リストで、生成するレポートをクリックします。

クエリの定義ダイアログボックスが表示されます。
- d. **クエリの定義**サブダイアログボックスで、サブレポート用のクエリを作成します。

レポート生成対象のオブジェクトのタイプに対応するキーワードを必ず含めてください。たとえば、**CR**、**タスク**、**オブジェクト**のレポートを生成するには、それぞれ `%problem_number`、`%task_number`、`%cvid` をクエリ文字列に含めます。
5. 本文メトリック操作を定義します (オプション)。
 - a. **メトリック操作**エリアで、**追加**をクリックします。

利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. **メトリックタイプ**の**選択**リストで、**行**をクリックします。
 - c. **メトリック操作**の**選択**リストで、メトリック操作をクリックします。

XXX Metric エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。
メトリックを定義します。

- d. メトリック定義エリアで、**作成**をクリックします。
6. レイアウトエリアの下の**更新**をクリックします。

関連トピック

- [本文の定義 \(例\)](#)

フッターの定義

レポートにフッターを入れる場合は、フッターを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **フッター**タブをクリックします。
3. フッターレイアウトを定義します。
 - a. レポートのタイトルを表示する場合は、**タイトル**チェックボックスを選択します。
タイトルは、レポート生成前にユーザーが付与する名前です。
 - b. 日付を表示する場合は、**日付**チェックボックスを選択します。
 - c. レポート項目数を表示する場合は、**オブジェクト カウント**チェックボックスを選択します。
 - d. レポート名を表示する場合は、**レポート名**チェックボックスを選択します。
 - e. クエリ名を表示する場合は、**クエリ名**チェックボックスを選択します。
 - f. クエリ文字列を表示する場合は、**クエリ スtring**チェックボックスを選択します。
4. フッターメトリック操作を定義します（オプション）。
 - a. **メトリック操作**エリアで、**追加**をクリックします。
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. **メトリック タイプ**の選択リストで、**カラム**または**行とカラム**をクリックします。
 - c. **メトリック操作**の選択リストで、メトリック操作をクリックします。
XXX Metric エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。
メトリックを定義します。
 - d. **メトリック定義**エリアで、**作成**をクリックします。
5. レイアウトエリアの下の**更新**をクリックします。

関連トピック

- [フッターの定義 \(例\)](#)

チャートをレポートに追加

レポートにチャートを入れる場合は、イメージテンプレートを定義します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **イメージ**タブをクリックします。
3. **レイアウト**で、**追加**をクリックします。

仮のチャート名 `_New_Chart` がサブダイアログの**レポートに含まれるチャート** ボックスに表示されます。

4. チャートを定義します。
 - a. **タイトル** ボックスで、`_New_Chart` 文字列を選択し、チャート名を入力します。
タイトルが**レポートに含まれるチャート** リストに表示されます。
 - b. **タイプ** リストでチャートタイプをクリックします。
 - c. **ツール** リストでツールをクリックします。
 - d. **属性** リストで、チャートの属性をクリックします。
 - e. **第2属性** リストで、必要に応じてチャートの属性をクリックします。
 - f. **幅 (ピクセル)** ボックスに図の幅を入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
 - g. **高さ (ピクセル)** ボックスに図の高さを入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
5. **更新**をクリックします。

関連トピック

- [チャートをレポートに追加 \(例\)](#)

グループ化の定義

レポートの結果をグループ化する場合は、属性グループを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. グループ化タブをクリックします。
3. グループ化レイアウトを定義します。
 - a. グループ化リストで、グループ化の基準となる属性をクリックします。たとえば、CRを検索し、**product_name**属性を使用してグループ化すると、同じ製品名のCRがレポートでひとまとめに表示されます。
 - b. レポートにグループの項目数を表示する場合は、**グループ カウントを含む**チェックボックスを選択します。
 - c. レポート結果のグループ化に使用する属性をレポートに表示する場合は、**グループ値を含む**チェックボックスを選択します。
4. グループのチャートを選択または作成します（オプション）。

1つ以上のチャートを選択するか、以下の手順に従ってチャートを追加します。

 - a. **グループ化テンプレートに含まれるチャート下の追加**をクリックします。
チャートレイアウトの**グループ化サブダイアログボックス**が表示されます。
仮のチャート名 `_New_Chart` がサブダイアログの**レポートに含まれるチャート**ボックスに表示されます。
 - b. **タイトル**ボックスで、`_New_Chart`文字列を選択し、チャート名を入力します。
 - c. **タイプ**リストでチャートタイプをクリックします。
 - d. **ツール**リストで、ツールをクリックします。
 - e. **属性**リストで、チャートの属性をクリックします。
 - f. **第2属性**リストで、必要に応じてチャートの属性をクリックします。
 - g. **幅（ピクセル）**ボックスに図の幅を入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
 - h. **高さ（ピクセル）**ボックスに図の高さを入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
 - i. **更新**をクリックします。
チャートのタイトルが**グループ化テンプレートに含まれるチャート**リストに表示されます。

5. グループ化メトリック操作を定義します (オプション)。
 - a. メトリック操作エリアで、**追加**をクリックします。
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. メトリックタイプ**の選択**リストで、**カラム**または**行とカラム**をクリックします。
 - c. メトリック操作**の選択**リストで、メトリック操作をクリックします。
XXX Metric エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。
メトリックを定義します。
 - d. メトリック定義エリアで、**作成**をクリックします。
6. レイアウト エリアの下の**更新**をクリックします。

関連トピック

- [グループ化の定義 \(例\)](#)

ソートの定義

レポートの結果をソートする場合は、属性ソートを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. ソートタブをクリックします。
3. 最大3つの属性の値に基づき、項目をレポートに表示する順序を選択します。

注記：グループ化属性はこのタブで選択した属性に優先します。

- a. 属性リストで属性をクリックします。
- b. ソートタイプリストで、属性のタイプをクリックします。
- c. 方向リストで、昇順または降順をクリックします（たとえば、項目を属性値によって昇順に表示するには、昇順をクリックします）。

関連トピック

- [ソートの定義 \(例\)](#)

関係レポートの作成

関係レポートの定義により、関連 CR、タスク、オブジェクトの情報のレイアウトと内容が決まります。関係レポートは、関連の親 CR に続いてレポートに「埋め込まれ」ます。

注記：メイン タブとグループ化タブは関係レポートでは使用できません。また、関係レポートには固有のクエリはありません。

1. レポートビルダダイアログボックスを表示します。
2. [関係レポートの定義](#)を行います。
3. レポートリストで、関係レポート名をクリックします。
4. [関係レポート一般プロパティの定義](#)を行います。
5. [ヘッダーの定義](#)を行います。これは、各関係レポート上部に表示される情報です。
6. [レポート本文の定義](#)を行います。これは、関係レポート本文に表示される情報です。
7. [フッターの定義](#)を行います。これは、各関係レポート下部に表示される情報です。
8. [チャートをレポートに追加](#)します。これは、関係レポートの下部に表示されます。
9. [ソートの定義](#)を行います。ソートによりレポートに項目を表示する順序が決定します。
10. レポートをインストールする準備ができました。[レポートのインストール](#)を参照してください。

関係レポートの定義

関連オブジェクトのレポートを生成する場合は、関係レポートを定義します。

1. サブボタンバーで、**関係レポートの追加**をクリックします。
関係レポートの定義ダイアログボックスが表示されます。
2. レポート名ボックスに**関係レポート名**を入力します。
3. レポートタイプリストで、**変更依頼**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれかをクリックします。
4. 関係を指定します。既存の関係を**選択**リストで、関係レポート項目の親項目との関係をクリックします。関係として、**Associated Task(s)**、**Attachment(s)**、**Duplicate of** があらかじめ定義されています。CR Process で関係属性を作成することにより、新たに関係を作成できます。関係が**レポート関係**ボックスに表示されます。

または、関係名を**レポート関係**ボックスに入力します。入力できる関係タイプの詳細については、Rational Synergy ヘルプの relate コマンドに関する説明を参照してください。

5. **更新**をクリックします。

関連トピック

- [関係レポートの作成 \(例\)](#)

関係レポート一般プロパティの定義

関係レポート名や、レポートに表示するオブジェクトのタイプなど、関係レポート一般プロパティを定義します。

1. レポート可能属性リストで、関係レポートに表示する属性を選択します。
属性の準備と設定の詳細は、[属性の作成または変更](#) を参照してください。
2. 更新をクリックします。

関連トピック

- [関係レポート一般プロパティの定義 \(例\)](#)

レポートのインストール

システム レポートを使用できるようにするには、レポートのパッケージを作成し、インストールしなければなりません。

レポートをインストールするには、以下の手順を行います。

1. サブタンバーの**保存**をクリックします。
2. このレポートの旧バージョンをアンインストールする場合は、サブタンバーの**アンインストール**をクリックします。

この操作により、レポート パッケージが**パッケージ インストーラ** タブの**インストール済みパッケージ** リストから削除されます。

3. ボタンバーの**インストール**をクリックします。

この操作により、レポート パッケージがインストール済みパッケージのリストと**システム レポートとフォーマットのユーザー** リストに追加されます。

関連トピック

- [レポートの保存とインストール \(例\)](#)

レポート作成例

以下に、製品名が **hammer**、**saw**、**drill** である、すべての解決済み CR について、タスク関係レポートを含めた CR レポートを作成する手順を説明します。CR は製品名によってグループ化され、次に依頼タイプによってソートされます。この例は、製品に添付される *dev_process_j* を使用します。

レポート例の図は、*ReportBuilder* ロールで使用されるアクションパネルを示します。他のアクションパネルリンクはアドミンインターフェイスで使用されるものとは異なっていますが、いずれも **レポートビルダ** リンクを使用し、関連ダイアログはすべて同じです。

この例を試すには、以下を実行する必要があります。

1. **hammer**、**saw**、**drill** の値を **product_name** リストボックス属性に追加します。
2. **hammer**、**saw**、および **drill** の製品名を使用して CR を作成します。
3. CR の一部に関連タスクを作成します。
4. 関連タスクを完了します。
5. CR の完了日付を設定します。
6. CR を「完了」状態に遷移させます。

関連トピック

- [レポートの作成 \(例\)](#)
- [関係レポートの作成 \(例\)](#)
- [レポートの保存とインストール \(例\)](#)

レポートの作成 (例)

CR のレポートを定義します。

1. [Rational Change セッションの開始](#)を行います。
2. プロセス パッケージをまだインストールしていない場合はインストールします。
たとえば、dev_process_j という CR Process をインストールします。詳細については、[パッケージのインストール](#)を参照してください。
3. アクションパネルで、**レポート ビルダ** をクリックします。
レポート ビルダ ダイアログボックスが開き、**レポート ファイルの選択**サブダイアログボックスが表示されます。
4. レポート名を作成します。
新しいレポート名を**新規レポートファイル**ボックスに入力し(xml ファイル名拡張子も含めて)、**作成**をクリックします。
5. [クエリの定義 \(例\)](#)を行います。
6. [一般プロパティの定義 \(例\)](#)を行います。
7. [使用するテンプレートの選択 \(例\)](#)を行います。
8. [ヘッダーの定義 \(例\)](#)を行います。これは、レポート上部に表示される情報です。
9. [本文の定義 \(例\)](#)を行います。これは、レポート本文に表示される情報です。
10. [フッターの定義 \(例\)](#)を行います。これは、レポート下部に表示される情報です。
11. [チャートをレポートに追加 \(例\)](#)します。
12. [グループ化の定義 \(例\)](#)を行います。
13. [ソートの定義 \(例\)](#)を行います。
14. [関係レポートの作成 \(例\)](#)を行います。
15. 作成中のレポートを展開する場合は、[レポートの保存とインストール \(例\)](#)を参照してください。

クエリの定義（例）

製品名が **hammer**、**saw**、**drill** のいずれかである解決済み CR を検索するクエリを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**クエリの定義**をクリックします。

クエリの定義ダイアログボックスが表示されます。

2. クエリ条件を選択します。

製品 **hammer**、**saw**、**drill** の全解決済み CR を検索します。

被演算子、演算子、値を選択し、適切なボタンをクリックします。クエリが完成するまでこのステップを繰り返します。クエリ全体またはクエリの一部を**クエリ ストリング**ボックスに入力することもできます。以下のクエリ文字列が必要です。

```
(cvtype='problem')
```

および

```
((product_name='drill') or (product_name='hammer') or  
(product_name='saw'))
```

および

```
(crstatus=' 解決 ')
```

3. **更新**をクリックします。

レポートの作成

下図はクエリ定義の例です。

IBM Rational Change

ホーム (H) | アドミニストレーション (A) | ライフサイクル エディタ (L) | レポートビルダ (R) | ヘルプ (H) | 終了 (E)

レポートビルダ Tools.xml 保存 クローズ インストール アンインストール

レポート: New Report ▾ プロパティ クエリの定義 関係レポートの追加 関係レポートの削除

クエリの定義

属性: CR ID ▾

オペレーター: が次と等しい ▾

値: 追加

(< And Or Not >) 最後の操作をアンドゥ クリア

クエリ スtring:

```
(crtype='problem') and ((product_name='drill') or (product_name='hammer') or (product_name='saw')) and (crstatus='解決')
```

更新 クローズ

一般プロパティの定義（例）

レポートが変更依頼のレポートであること、およびHTML フォーマットであることの指定を含め、レポート一般プロパティを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. 一般タブをクリックします。
3. レポート一般プロパティを定義します。
 - a. 名前ボックスに「Resolved CRs for hardware」と入力します。
 - b. タイプリストで変更依頼をクリックします。
 - c. スタイルリストで、ブロックをクリックします。
 - d. フォーマットリストで、HTML をクリックします。
 - e. 詳細ボックスに、レポートの説明、たとえば「Report on all resolved CRs for hammer, saw, and drill products」と入力します。
4. HTML レポートに再読み込みボタンを表示するために再読み込みチェックボックスを選択します。
5. クエリ制限と文字列制限のデフォルト値をそのまま使用します。
6. レポート可能属性リストで、レポートに表示する属性を選択します。

属性タブで境界を含むを選択します。これにより、属性の間に線を入れる必要がなくなります。

CR ID、Synopsis、Description の各属性は、新規レポート作成時、自動的に選択された属性リストに含まれます。

以下の属性も追加します。

登録日時 (entry_date)

作業完了日 (resolution_date)

CR タイプ (request_type)

重要度 (severity)

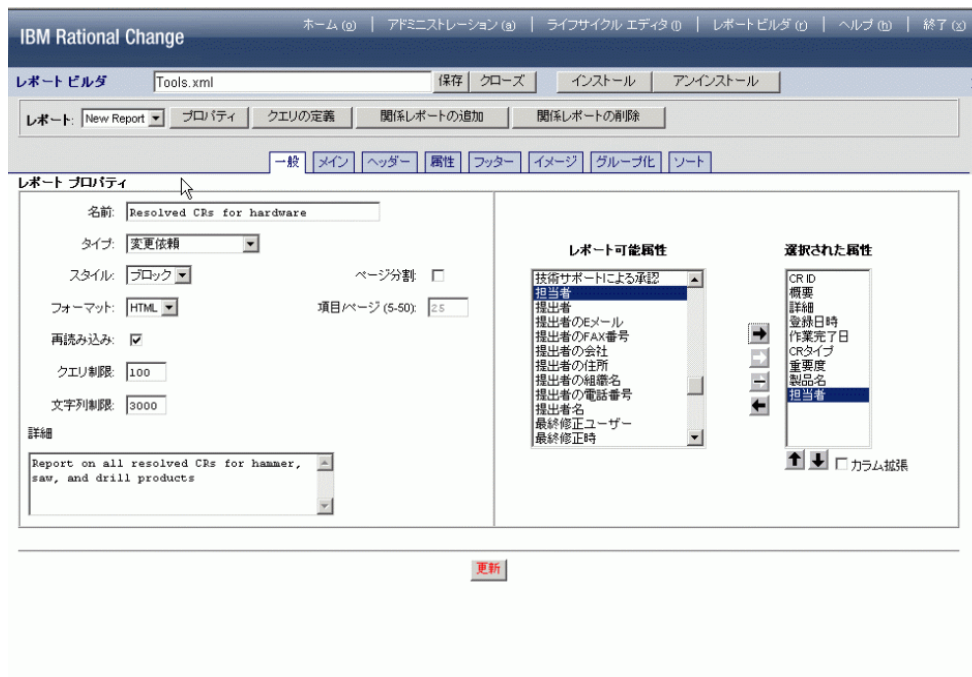
製品名 (product_name)

担当者 (resolver)

problem_synopsis と problem_description についてカラム拡張チェックボックスを選択します。

7. 更新をクリックします。

下図は一般プロパティ定義の例です。

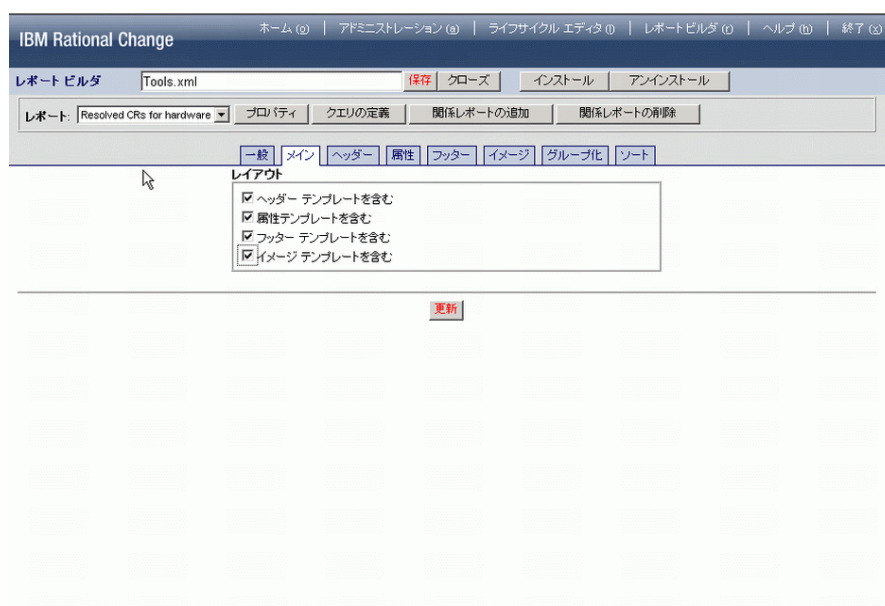


使用するテンプレートの選択（例）

レポートにヘッダー、フッター、本文、イメージを追加します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. メインタブをクリックします。
3. レポートに使用するテンプレートを選択します。
 - a. ヘッダーテンプレートを含むチェックボックスを選択します。
 - b. 属性テンプレートを含むチェックボックスを選択します。
 - c. フッターテンプレートを含むチェックボックスを選択します。
 - d. イメージテンプレートを含むチェックボックスを選択します。
4. 更新をクリックします。

下図はテンプレート定義追加の例です。



ヘッダーの定義（例）

タイトル、日付、オブジェクト数、レポート名をヘッダーに含めます。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. ヘッダータブをクリックします。
3. ヘッダーレイアウトを定義します。
 - a. タイトルチェックボックスを選択します。
 - b. 日付チェックボックスを選択します。
 - c. オブジェクトカウントチェックボックスを選択します。
 - d. レポート名チェックボックスを選択します。
4. CR解決の平均時間（分）を計算するヘッダーメトリック操作を定義します。
 - a. メトリック操作エリアで、追加をクリックします。

利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. メトリックタイプの選択リストで、行とカラムをクリックします。
 - c. メトリック操作の選択リストで、差分の平均をクリックします。

行とカラムの差分平均メトリックエリアが利用可能なメトリック操作の下に表示されます。
 - d. ラベルボックスに、「Average Time to Resolve」と入力します。
 - e. 差分を検索リストで、resolution_date をクリックします。
 - f. からリストで、entry_date をクリックします。
 - g. データタイプリストで日付をクリックします。
 - h. 日付単位リストで分をクリックします。
 - i. メトリック定義エリアで、作成をクリックします。
5. レイアウトエリアの下の更新をクリックします。

下図はヘッダ定義の例です。

The screenshot displays the 'IBM Rational Change' report builder interface. At the top, there are navigation links: 'ホーム (H)', 'アドミニストレーション (A)', 'ライフサイクル エディタ (L)', 'レポートビルダ (R)', 'ヘルプ (H)', and '終了 (X)'. Below this is the 'レポートビルダ' (Report Builder) section with a dropdown menu set to 'Tools.xml' and buttons for '保存' (Save), 'クローズ' (Close), 'インストール' (Install), and 'アンインストール' (Uninstall). The 'レポート' (Report) dropdown is set to 'Resolved CRs for hardware'. Below this are tabs for 'プロパティ' (Properties), 'クエリの定義' (Query Definition), '関係レポートの追加' (Add Related Reports), and '関係レポートの削除' (Remove Related Reports). A secondary set of tabs includes '一般' (General), 'メイン' (Main), 'ヘッダ' (Header), '属性' (Attributes), 'フッター' (Footer), 'イメージ' (Image), 'グループ化' (Grouping), and 'ソート' (Sorting). The 'ヘッダ' (Header) tab is active, showing the following sections:

- レイアウト** (Layout):
 - タイトル (Title)
 - オブジェクト カウント (Object Count)
 - クエリ名 (Query Name)
 - 日付 (Date)
 - レポート名 (Report Name)
 - クエリ ストリング (Query String)
- メトリック操作** (Metric Operation):
 - 定義済みメトリック操作 (Defined Metric Operation): An empty box with '追加' (Add) and '削除' (Remove) buttons.
 - 更新 (Update) button.
- 利用可能なメトリック操作** (Available Metric Operation):
 - 行とカラム (Row and Column) dropdowns.
 - 差分の平均 (Average of Difference) dropdown.
- 行とカラムの差分平均メトリック** (Row and Column Difference Average Metric):
 - ラベル (Label): 'Average Time to Resolve'.
 - 差分を検索 (Search for Difference):
 - resolution_date dropdown.
 - から (From) label.
 - entry_date dropdown.
 - を全行にわたって差し引く (Subtract across all rows) button.
 - データタイプ (Data Type): '日付' (Date) dropdown.
 - 日付単位 (Date Unit): '分' (Minute) dropdown.
 - 作成 (Create) and キャンセル (Cancel) buttons.

本文の定義（例）

本文には、CR の解決に要する時間を表示します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. 属性タブをクリックします。
3. 本文のレイアウトを定義します。
 - a. カラム数ボックスで、デフォルト値（2）をそのまま使用します。
 - b. レポートの属性と値のペアの周囲を縁取りする場合は、境界を含むチェックボックスを選択します。
 - c. 一括操作を含むチェックボックスが選択されている場合は、解除します。
この例では、レポートの CR は解決済みです。
4. 本文メトリック演算を定義します。
 - a. メトリック操作エリアで、追加をクリックします。
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. メトリックタイプの選択リストで、行をクリックします。
 - c. メトリック操作の選択リストで、差分をクリックします。
行差分メトリックエリアが利用可能なメトリック操作の下に表示されます。
 - d. ラベルボックスに、「Time to Resolve」と入力します。
 - e. 差分を検索リストで、resolution_date をクリックします。
 - f. からリストで、entry_date をクリックします。
 - g. データタイプリストで日付をクリックします。
 - h. 日付単位リストで分をクリックします。
 - i. メトリック定義エリアで、作成をクリックします。
5. レイアウトエリアの下の更新をクリックします。

下図は本文定義の例です。

The screenshot displays the 'IBM Rational Change' report builder window. The title bar includes 'IBM Rational Change' and a menu bar with 'ホーム (H)', 'アドミニストレーション (A)', 'ライフサイクル エディタ (E)', 'レポートビルダ (B)', 'ヘルプ (H)', and '終了 (X)'. Below the title bar, there are buttons for '保存 (S)', 'クローズ (C)', 'インストール (I)', and 'アンインストール (U)'. The main area is divided into several sections:

- レポートビルダ (Report Builder):** Shows 'Tools.xml' and buttons for '保存 (S)', 'クローズ (C)', 'インストール (I)', and 'アンインストール (U)'. Below this are buttons for 'プロパティ (P)', 'クエリの定義 (D)', '関係レポートの追加 (A)', and '関係レポートの削除 (D)'. A dropdown menu shows 'レポート: Resolved CRs for hardware'.
- タブ (Tabs):** '一般 (G)', 'メイン (M)', 'ヘッダー (H)', '属性 (A)', 'フッター (F)', 'イメージ (I)', 'グループ化 (G)', and 'ソート (S)'. The '属性 (A)' tab is currently selected.
- レイアウト (Layout):** Includes 'カラム数 (C): 2', '境界を含む (B): ', and '一括操作を含む (I): '. There are '追加 (A)' and '削除 (D)' buttons.
- サブレポート (Sub-report):** '属性テンプレートに含まれるサブレポート (S): レポート選択 (R)'. Includes '追加 (A)' and '削除 (D)' buttons.
- メトリック操作 (Metric Operation):** '定義済みメトリック操作 (D): Time to Resolve'. Includes '追加 (A)' and '削除 (D)' buttons.
- 利用可能なメトリック操作 (Available Metric Operations):** '行 (R)' and '差分 (D)' dropdowns.
- 行差分メトリック (Row Difference Metric):** 'ラベル (L): Time to Resolve'. '差分を検索 (S): resolution_date'. 'から (F): entry_date'. 'データタイプ (D): 日付 (D)'. '日付単位 (U): 分 (M)'. Includes '更新 (U)' and 'キャンセル (C)' buttons.

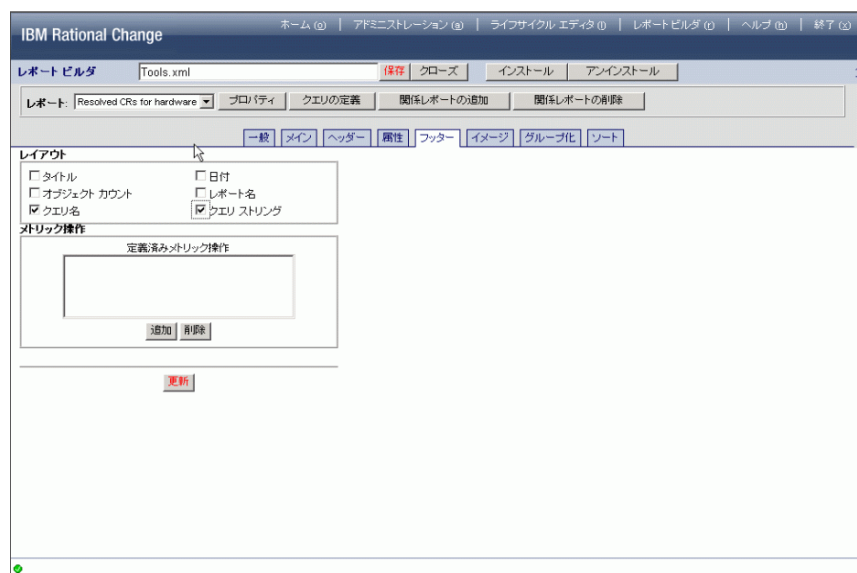
At the bottom of the main area, there is a '更新 (U)' button.

フッターの定義（例）

クエリ名とクエリ文字列をフッターに含めます。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **フッター** タブをクリックします。
3. フッター レイアウトを定義します。
 - a. クエリの名前を表示する場合は、**クエリ名**チェックボックスを選択します。
 - b. クエリ文字列を表示する場合は、**クエリ ストリング** チェックボックスを選択します。
4. **更新**をクリックします。

下図はフッター定義の例です。



チャートをレポートに追加（例）

各製品の解決済み CR の数を示すチャートを追加します。

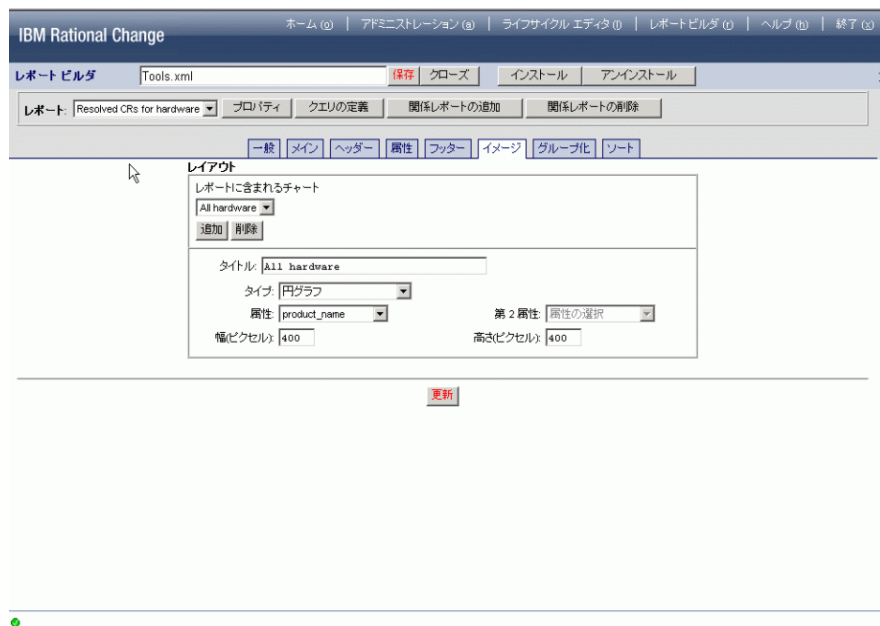
1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **イメージ**タブをクリックします。
3. **レイアウト**で、**追加**をクリックします。

仮のチャート名 `_New_Chart` がサブダイアログの**レポートに含まれるチャート**ボックスに表示されます。

4. チャートを定義します。
 - a. **タイトル**ボックスで、`_New_Chart_`文字列を選択し、「All hardware」と入力します。
 - b. **タイプ**リストで**円グラフ**をクリックします。
 - c. **属性**リストで、**product_name** をクリックしてチャート製品を作成します。
 - d. **幅（ピクセル）**ボックスと**高さ（ピクセル）**ボックスで、デフォルト値（400ピクセル）をそのまま使用します。
5. **更新**をクリックします。

レポートの作成

下図はイメージ定義の例です。

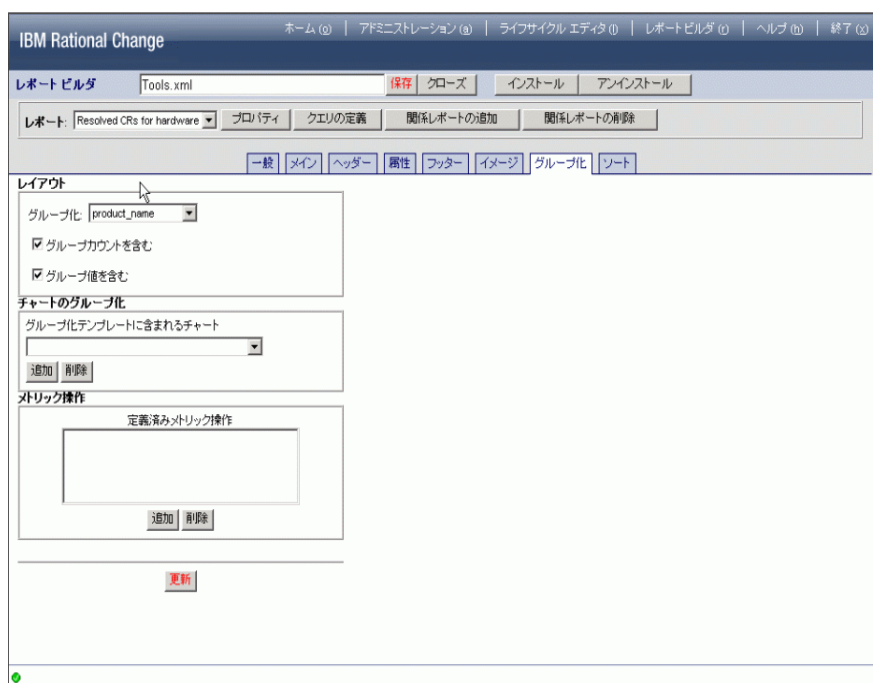


グループ化の定義（例）

結果を製品名によってグループ化します。

1. レポートビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. グループ化タブをクリックします。
3. グループ化レイアウトを定義します。
 - a. グループ化リストで、product_name をクリックします。
 - b. グループカウントを含むチェックボックスを選択します。
 - c. グループ値を含むチェックボックスを選択します。
4. 更新をクリックします。

下図はグループ化定義の例です。

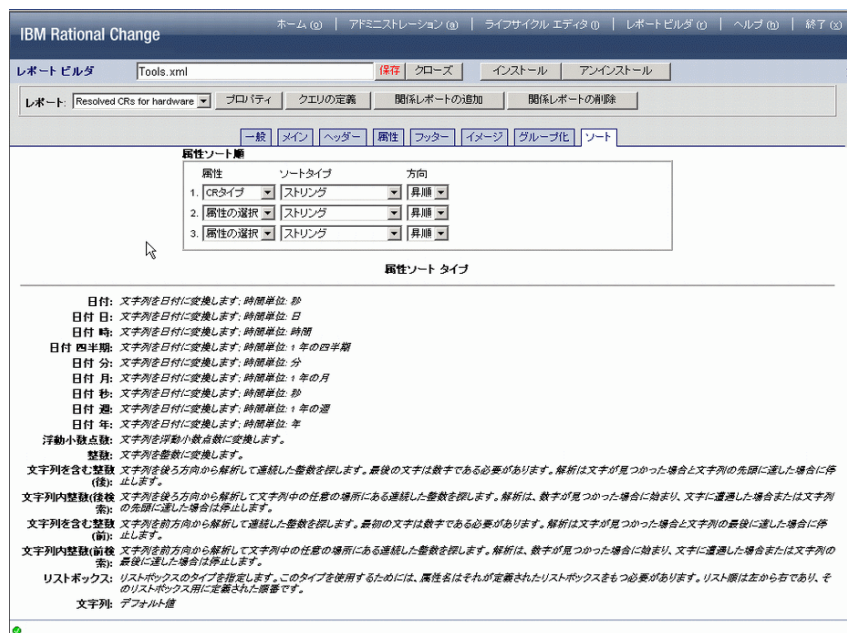


ソートの定義（例）

結果を依頼タイプによってソートします（結果のグループ化後）。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. ソートタブをクリックします。
3. レポートに項目を表示する順序を選択します。
 - a. 属性リストで request_type をクリックします。
 - b. ソートタイプリストでストリングをクリックするか、またはリストボックスの順序を維持するにはリストボックスをクリックします。
 - c. 方向リストで昇順を選択して、製品名によって項目をアルファベット順に表示します。

下図はソート定義の例です。



関係レポートの作成（例）

関連タスクの関係レポートを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスを表示します。
2. [関係レポートの定義（例）](#)を行います。
3. レポートリストで、関係レポート名をクリックします。
4. [関係レポート一般プロパティの定義（例）](#)を行います。
5. [関係レポートヘッダーの定義（例）](#)を行います。これは、各関係レポート上部に表示される情報です。
6. 関係レポート本文に表示する情報を定義します。
ステップについては、[関係レポート本文の定義（例）](#)を参照してください。

関係レポートの定義（例）

関連タスクを表示する関係レポートを定義します。

1. サブボタンバーで、**関係レポートの追加**をクリックします。
関係レポートの定義ダイアログボックスが表示されます。
2. レポート名ボックスに「Associated Tasks」と入力します。
3. レポートタイプリストで、**タスク**をクリックします。
4. 既存の関係リストで、**Associated Task(s)**をクリックします。
関係がレポート関係ボックスに表示されます。
5. **更新**をクリックします。

下図は関係レポート一般プロパティ定義の例です。



関係レポート一般プロパティの定義（例）

表示するタスク属性など、関係レポートの一般プロパティを定義します。

1. レポート リストで、新規関係レポート名をクリックします。
一般タブが表示されます。関係レポートプロパティがすでに定義されています。

2. レポート可能属性リストで、関係レポートに表示する属性を選択します。

以下の属性を追加します。

タスク ID (task_ID)

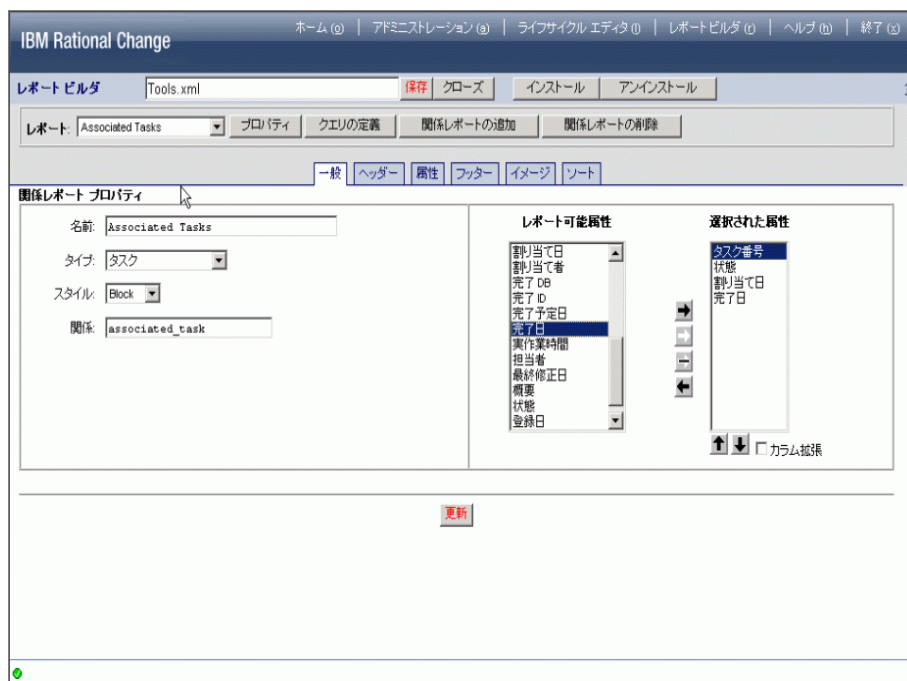
状態 (status)

割り当て日 (assignment_date)

完了日 (completion_date)

3. 更新をクリックします。

下図は関係レポート一般プロパティ定義の例です。



関係レポート ヘッダーの定義 (例)

タイトル、日付、オブジェクト数、レポート名をヘッダーに含めます。

1. レポート リストで、新規関係レポート名をクリックします。
2. レポート ビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
3. ヘッダー タブをクリックします。
4. ヘッダー レイアウトを定義します。
 - a. タイトル チェックボックスを選択します。
 - b. 日付チェックボックスを選択します。
 - c. オブジェクト カウント チェックボックスを選択します。
 - d. レポート名チェックボックスを選択します。
5. 更新をクリックします。

下図は関係レポートのヘッダー定義の例です。



関係レポート本文の定義（例）

タスクを表示するレイアウトを定義します。

1. レポート リストで、新しい関係レポート名をクリックします。
2. レポート ビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
3. 属性タブをクリックします。
4. 境界を含むを選択します。
5. 更新をクリックして設定を保存します。



レポートの保存とインストール（例）

カスタム レポートを使用できるようにするには、レポートのパッケージを作成し、インストールする必要があります。

1. ボタンバーの**保存**をクリックします。
2. ボタンバーの**インストール**をクリックします。
この操作により、レポート パッケージがインストール済みパッケージのリストとシステム レポートのユーザー リストに追加されます。
3. レポートを生成します。
 - a. ユーザーとしてセッションを開始します。
 - b. アクションパネルで、**レポート** ボタンをクリックします。
 - c. **レポート** フォルダから、**システム**をクリックします。
 - d. **システム** レポート リストで、新規レポートをクリックし、次に**実行**をクリックします。
 - e. レポートを表示します。

以下の図に、この手順によって生成されたカスタムレポートの上部と下部を示します。

タイトル: タイトルが定義されていません。
 カウント: 4
 日付: 11/12/2008 16:38:51
 レポート: Resolved CRs for hardware

メトリック操作	
Average Time to Resolve	9.0 minutes

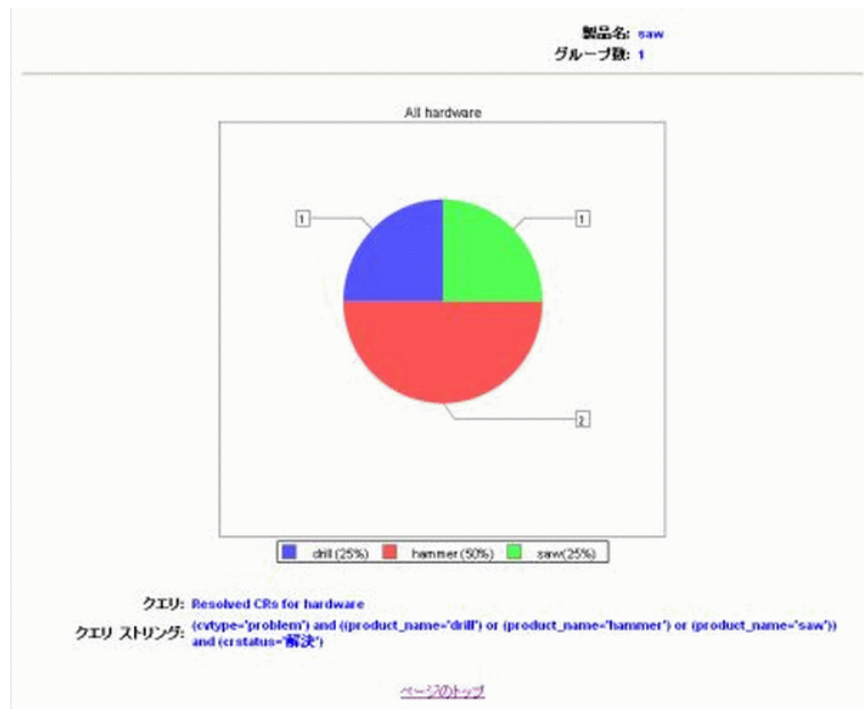
CR ID 11	
概要 CR for drill	
詳細 CR for drill	
登録日時 11/12/2008 16:27:14	作業完了日 11/12/2008 16:37:53
CRタイプ 緊急修繕	重要度 高レベル
製品名 drill	担当者 梶田, 玉祐 (ccn_root)

メトリック操作	
Time to Resolve	11.0 minutes

製品名: drill
グループ数: 1

CR ID 10	
概要 CR for hammer2	
詳細 CR for hammer2	
登録日時 11/12/2008 16:26:56	作業完了日 11/12/2008 16:37:00
CRタイプ アクションアイテム	重要度 最重要
製品名 hammer	担当者 梶田, 玉祐 (ccn_root)

メトリック操作	
Time to Resolve	11.0 minutes



Rational Change プロセスのカスタマイズ

Rational Change のカスタマイズを始める前に[変更依頼プロセスの設計](#)をお読みください。設計情報を読んだら、次の種類の Rational Change カスタマイズを行うことができます。

- [リストボックス値の変更](#)
- [新規ダイアログボックスの定義](#)
- [属性の作成または変更](#)
- [CR Process の作成、変更、削除](#)
- [2つの CR Process ファイルのマージ](#)
- [CR ライフサイクルの追加または変更](#)

注意！ Rational Change はブラウザをベースにしているため、カスタマイズの最中にブラウザのウィンドウを最新の情報に更新しないように注意してください。最新の情報に更新すると変更が失われます。

カスタマイズに役立つ詳細な設計情報については、[Rational Change のカスタマイズの概要](#)を参照してください。

変更依頼プロセスの設計

企業は、変更の追跡と管理を行う 1 つ以上のプロセスを持っています。たとえば、新しい電話線の敷設やワークステーションの移動など、IT 作業を行うプロセスがあるかもしれません。あるいは、ソフトウェア製品の変更を行う別のプロセスも持っているかもしれません。さらに企業は、各組織の変更管理要件を処理する固有のプロセスを持っていることもあります。

Rational Change 変更依頼プロセス (CR Process) には、これらのプロセスの一般情報とモデル、つまりライフサイクルがあります。

CR Process 内の各ライフサイクルは、変更 (すなわち変更依頼) のプロパティと振る舞いを提出から終了まで定義します。この中には、変更依頼 (CR) によって追跡および管理された情報、および誰が、いつ、どのように CR を更新できるかも含まれます。

CR Process の完成度と精度が高ければ高いほど CR 追跡と管理の効果も上がります。したがって、Rational Change の CR Process 編集インターフェイスを使用して独自の CR Process を作成する前に、以下を行ってください。

1. [配布 CR Process の使用](#)
2. [追跡する属性の定義](#)
3. [ロールの概要](#)
4. [状態の概要](#)
5. [遷移の概要](#)
6. [まとめ](#)

配布 CR Process の使用

独自の CR Process を設計する前に、Rational Change に同梱されている定義済み CR Process (例、*dev_process_j* または *ecp_process*) のいずれかをインストールして実験してみてください。こうすることで、どのような機能が利用可能なのかが明らかになり、その結果新しい CR Process を作る代わりに既存の CR Process の修正で済むこともあり得るでしょう。

CR Process の仕組みを理解したら、配布された CR Process レベル情報とライフサイクルを見てそれらがどのように定義されているかを調べることにより、独自の CR Process を作成できるようになります。

カスタム CR Process の計画と導入の詳しい例は、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

追跡する属性の定義

Rational Change が追跡する属性は、CR Process で定義します。つまり、すべてのライフサイクルに対して一段上のレベルで定義します。

以下の手順に従って、追跡する属性を定義します。

1. ダイアログボックス、レポート、あるいはクエリでどの属性を表示するか決定し、それらの種類（例、リストボックスかテキストボックス）を決定します。
2. 各属性について、それを読み書き可能にするか読み取り専用にするかを決めます。また、書き込み可能については、誰のいつの書き込みかによってさらに細かく制御するか、なども決めます。

たとえば、*request description* 属性は、アドミニストレータまたは CR の作者によって、ライフサイクルの任意の時点で編集できるテキストボックスとすることができます。一方、*product name* 属性は、既定の値を持つリストボックスであり、アドミニストレータのみ変更できるようにすることができます。

ロールの概要

Rational Change ユーザーには、セキュリティ ルールの評価時に権限を認めるか否定するロールが割り当てられます。これらの権限には、CR 属性を更新したり特定の遷移を行ったりする権限も含まれます。したがって、CR Process の設計の一環として、Rational Change 操作に必要なロールを決定する作業があります。

当初、各ユーザーにどのロールを割り当てるかを決める必要はありません。しかし、各ロールにどの操作に関連付けるかを決める必要はあります。たとえば、CR の作成を許可するには *enterer* ロールを使用します。*enterer* ロールを割り当てられたユーザーは、CR を作成できるようになります。ユーザーにさらにロール（例、*assigner*）を割り当てれば、そのユーザーの権限が増えます。予約されているアドミニストレータ ロール（例、*pt_admin*）を割り当てると、そのユーザーには無制限の権限が与えられます。

注記： Rational Change は、*User* や *Admin* などのログイン ロールも使用して、ユーザーにどのインターフェイスを提供するかを決定します。これらのログイン ロールとバックエンドの Rational Synergy 権限を混同しないでください。

状態の概要

あるライフサイクル状態を定義する際には、その状態に関して**変更依頼 情報**ダイアログボックスに含めたい属性を決め、その状態をベースに基づくすべてのセキュリティルールを確立する必要があります。

属性

状態を定義するとき、状態固有の**変更依頼 情報**ダイアログボックスを定義できます。その前に、ダイアログボックスにどの属性を表示するかを決定する必要があります。

たとえば、新しく作成した CR では、**変更依頼 情報**ダイアログボックスには CR の簡単な説明と、提出した人の名前だけを表示したい場合があります。CR がそのライフサイクルを進むにしたがって、マネージャの承認を得ているかどうか、依頼の処理を指定された人の名前、依頼の処理に必要な特別の指示など、より多くの情報を表示したいかも知れません。

注記：状態固有のダイアログボックスを定義しなかった場合、ライフサイクル固有のダイアログボックスが表示されます。状態固有のダイアログボックスもライフサイクル固有のダイアログボックスも定義しなかった場合、CR Process レベルのダイアログボックスが表示されます。

セキュリティ ルール

状態のセキュリティには、ロールセキュリティと属性セキュリティの2種類があります。どちらも特定の属性を変更するための要件を規定するために使用します。各状態にどの種類のセキュリティを設定するかを決定する必要があります。

ロールセキュリティは、ユーザーが必要なロールを持っているとき変更できる一連の属性を定義します。たとえば、*in_review* 状態に対して、*verifier* ロールに **synopsis** と **description** が変更可能属性として記載されていて、ユーザー Sam が *verifier* ロールを持っている場合、Sam は CR が *in_review* 状態のときそれらの属性を変更できます。

属性セキュリティは、指定した属性の値がユーザーの ID と一致したとき（つまり、*resolver="tom"*）変更できる一連の属性を定義します。属性は、値がユーザー ID（つまり、属性のウェブタイプが CCM_USER）である必要があります。

属性セキュリティ ルールかロールセキュリティ ルールのいずれかが満たされていれば、対応する一連の属性の変更が可能です。属性セキュリティとロールセキュリティを一緒に使用することもできます。たとえば、CR を提出したユーザー（**submitter**）だけが、CR がまだ *entered* 状態にある間にも、**cr_description** と **severity** 属性を変更できるように設定したりできます。

遷移の概要

遷移は、CR をライフサイクルの中で前または後ろへ移行して CR 状態を変更します。たとえば、*in_review2assigned* 遷移は、CR を *in_review* 状態から *assigned* 状態へ移行します。

遷移状態を定義するとき、含める属性をその状態の**変更依頼 提出**と**変更依頼 遷移**ダイアログボックスで特定し、すべてのセキュリティ ルールはその遷移をベースに規定する必要があります。

属性

遷移を定義するとき、**変更依頼 提出**ダイアログボックスと**変更依頼 遷移**ダイアログボックスを定義できます。その前に、ダイアログボックスにどの属性を表示するか、属性を必須またはオプション（提出と遷移）にするか、あるいは読み取り専用（遷移に関する情報表示のみ）にするかを決定する必要があります。

必須属性は、遷移を実行するため、ユーザーが必ず設定すべき属性です。たとえば、*resolved2concluded* 遷移を行うとき何が行われたかを説明する **conclusion_notes** を提出するようにユーザーに要求できます。

オプションの属性は、ユーザーが設定できますが、遷移を行うために必要ではありません。そのような属性はすでに設定されている場合もありますが、ユーザーが更新できます。たとえば、顧客が問題を提起して解決策を提案する場合があります。解決策が間違っている場合は、*reviewer* または *assigner* がそれを訂正できます。

読み取り専用属性は、CR ID など CR に関する情報を提供します。

セキュリティ ルール

遷移には、ロールセキュリティ、属性セキュリティ、ブランチセキュリティの3種類のセキュリティがあります。いずれも、遷移が許されるかを決定するために使用します。各遷移にどの種類のセキュリティを設定するかを決定する必要があります。

ロールセキュリティは、ユーザーが必要なロールを持っているとき遷移を許可します。たとえば、*entered2review* 遷移が *verifier* ロールを必要とし、ユーザー *sam* が *verifier* ロールを持つ場合、*Sam* は遷移を行うことができます。

属性セキュリティは、指定した属性の値がユーザーの ID と一致したとき（つまり、*resolver="tom"*）遷移を許します。属性は、値がユーザー ID（つまり、属性のウェブタイプが *CCM_USER*）である必要があります。

ブランチセキュリティは、属性が特定の値を持つときのみ遷移を許可します。たとえば、**change_type** 属性が **defect** または **enhancement** に設定できるとき、**change_type** が **defect** に設定されているとき *fix_defect* 遷移を許可し、**change_type** が **enhancement** に設定されているとき *make_enhancement* 遷移を許可できます。

属性セキュリティルールかロールセキュリティルールのいずれかが満たされ、ブランチセキュリティが設定されていない場合、遷移が許可されます。属性セキュリティとロールセキュリティを一緒に使用することもできます。たとえば、CR を提出したユーザー (**submitter**) だけが、CR がまだ *entered* 状態にある間のみ、**cr_description** と **severity** 属性を変更できるように設定したりできます。

ただし、ブランチセキュリティが設定されている場合、a) すべてのブランチルールが満足されていると共に b) 少なくとも 1 つの属性またはロールセキュリティルールが満足されていなければ (1 つ以上設定されている場合) 遷移は許可されません (つまり、「AND」で論理付けされたブランチセキュリティルールが「OR」で論理付けされたロールセキュリティルールおよび属性セキュリティルールと「AND」で論理付けされます)。

まとめ

属性、ロール、状態、遷移を定義したら、これらがどのように統合して 1 つ以上のライフサイクルを構成するかを考えます。たとえば、**assigner** 属性だけでなく、*assigner* ロールも定義したい場合があります。ここで、*assigner* ロールは状態と遷移ロールセキュリティの両方に使用され、**assigner** 属性は、*assigner* の追跡と属性セキュリティの両方に使用されます (つまり、CR を割り当てた人のみ指定属性集の変更や遷移を行うことができます)。

CR Process とライフサイクルを作成し、CR Process が要件に合うことが確認できるまでテストエリアで実験してください。最後に、本番用エリアに CR Process をインストールします。

リストボックス値の変更

リストボックスに対して以下の操作を行うことができます。

- [リストボックスタイプの変更](#)
- [単純リストボックス値の追加、変更、削除](#)
- [依存リストボックス値の追加、変更、または削除](#)
- [リストボックス ソース ファイル値の変更](#)
- [リストボックスの外部管理の設定](#)
- [データベース リストボックス値の変更](#)
- [リストボックス マネージャ インターフェイスを使用しないリストボックス値の管理](#)

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

リストボックス タイプの変更

リストボックス タイプ リストボックス プロパティを変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするかすべてのデータベースをクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストでリストボックスをクリックします。
5. **プロパティ**をクリックします。
6. **リストボックス プロパティのカスタマイズ**サブダイアログの**リストボックス タイプ** エリアでタイプをクリックしてリストボックスのタイプを変更します。
7. **更新**をクリックします。
8. **保存**をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

単純リストボックス値の追加、変更、削除

単純リストボックス値は、そのタイプのリストボックスを選択してから追加、変更、または削除できます。

単純リストボックス値の追加

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするかすべてのデータベースをクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストで単純リストボックス (例、**request_type**) をクリックします。
5. 値ボックス (**リストボックス値の編集**の下) に新しい値を入力します。
6. **追加**をクリックします。
7. **保存**をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

単純リストボックス値の変更

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストで単純リストボックス（例、**request_type**）をクリックします。
5. **リストボックス値の定義**リストで値をクリックします。
6. 値ボックス（**リストボックス値の編集**の下）に新しい値を入力します。
7. **修正**をクリックします。
8. **保存**をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

単純リストボックス値の削除

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストで単純リストボックス（例、**request_type**）をクリックします。
5. **リストボックス値の定義**リストで値をクリックします。
6. **削除**をクリックします。
7. **保存**をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

依存リストボックス値の追加、変更、または削除

依存リストボックス値は、そのタイプのリストボックスを選択してから追加、変更、または削除できます。

依存リストボックス値の追加

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストで依存リストボックス（例、**product_version**）をクリックします。
選択したリストボックスの親リストボックス（例、**product_name**）が親リストボックスボックスに表示されます。
5. **親値の選択**リストで値をクリックします。
6. **依存リストボックス値**ボックスに新しい値を入力します。
7. **追加**をクリックします。
8. **保存**をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

依存リストボックス値の変更

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストで依存リストボックス（例、**product_version**）をクリックします。
選択したリストボックスの親リストボックス（例、**product_name**）が親リストボックスボックスに表示されます。
5. **親値の選択**リストで値をクリックします。
6. **依存リストボックス値**リストで値をクリックします。
7. 値ボックス（**依存リストボックス値**の下）に新しい値を入力します。
8. **修正**をクリックします。

9. 保存をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

依存リストボックス値の削除

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストで依存リストボックス（例、**product_version**）をクリックします。
選択したリストボックスの親リストボックス（例、**product_name**）が親リストボックスボックスに表示されます。
5. **親値の選択**リストで値をクリックします。
6. **依存リストボックス値**リストで値をクリックします。
7. **削除**をクリックします。
8. **保存**をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

リストボックス ソース ファイル値の変更

ファイルリストボックスを選択した後、リストボックスの値を得るソース ファイルを変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストでファイルリストボックス（例、**distribution**）をクリックします。

5. **ファイル リストボックス** オプション ボックスでファイル名を選択するか新しいファイル名 (例、new_distribution_list.txt) を入力します。

注記: リストボックス ファイルは、CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥wsconfig¥templates¥pt¥etc ディレクトリにあります。

6. **更新** をクリックします。

7. **保存** をクリックします。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#) を参照してください。

データベース リストボックス値の変更

データベース リストボックス値は、そのタイプのリストボックスを選択してから変更できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション** をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで **リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象** リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース** をクリックします。
4. **リストボックスの選択** リストでデータベース リストボックス (例、**release**) をクリックします。

詳細については、『Rational Change Customization Reference』の ptcli.cfg 設定を参照してください。

5. **データベース リストボックス** オプション ボックスに別のデータベース属性を入力します。
6. **更新** をクリックします。
7. **保存** をクリックします。

注記: データベース属性の値を編集するには、データベース内で対応付けられている属性の値を変更します。

詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#) を参照してください。

リストボックス マネージャ インターフェイスを使用しないリストボックス値の管理

リストボックス マネージャ インターフェイスを使用せずに、リストボックス値を管理できます。これは、指定したスクリプトによって行います。スクリプトは、データベースや他の製品など、外部データ ソースから、リストボックス値を返します。詳細については[リストボックス値を管理するスクリプト](#)を参照してください。

この方法では、外部データソースへのアクセス権限を持つユーザーのみがリストボックス値の管理を行うため、リストボックスの管理とセキュリティの向上に役立ちます。さらに、子の値が親に依存するだけでなく、親の親、またはユーザーが属するグループなどに依存するような、より複雑な依存関係を構築することもできます。

この手順を開始する前に、実行しようとするスクリプトが以下の場所にあることを確認してください。

```
CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥wsconfig¥scripts¥listbox
```

Rational Change のディレクトリ構造の詳細については、[Rational Change ディレクトリ](#)を参照してください。

リストボックスの外部管理の設定

リストボックスが外部スクリプトの値を使用するように設定できます。依存リストボックスを使用している場合、依存チェーンのすべてのリストボックスが同じまたは異なるスクリプトを使用するように設定できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログボックスで**リストボックス マネージャ** タブをクリックします。
3. **リストボックス編集の対象**リストでデータベースをクリックするか**すべてのデータベース**をクリックします。
4. **リストボックスの選択**リストでリストボックスをクリックします。[更新をクリックします](#)。
 - 非依存リストボックスの場合：
 - a. **プロパティ**をクリックします。
 - b. **リストボックスのカスタマイズ** リストで**外部リストボックス**をクリックします。
 - c. リストボックスからスクリプトを選択します。
 - d. ステップ5を行います。
 - 依存リストボックスの場合：

- a. **リストボックスのカスタマイズ** リストに、依存リストボックスとして定義されていることが示されます。
 - b. リストボックスからスクリプトを選択します。必要に応じて階層内のすべての属性に同じスクリプトを使用するように指定します (オプション)。
 5. **更新**をクリックします。
 6. **保存**をクリックします。
- 詳細については、[リストボックス マネージャ タブ](#)を参照してください。

リストボックス値を管理するスクリプト

スクリプトの作成に役立つスクリプト例が提供されています。スクリプト例は `browserInfo.js` というファイルで、`CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥wsconfig¥scripts¥listbox` に格納されています。このファイルは JavaScript で作成されており、渡されるコンテキスト変数（リストボックス属性の名前、依存チェーンの祖先など）のアクセス方法、および結果を返す方法などが示されています。情報は、宣言された変数メソッドを使用してスクリプトに渡されます。以下の変数名は予約済みなので、再定義はできません。

予約済み変数	タイプ	内容
<code>userName</code>	文字列	表示／編集するユーザーのユーザー名（SC ログイン ID）
<code>userGroups</code>	リスト	ユーザーがメンバーとなっているグループのリスト
<code>changeRequests</code>	配列	1 つ以上の CR および関連属性の名前／値ペア（ACL にリストされた属性用のみに供給される値）
<code>acl</code>	配列	ACL 情報
<code>log</code>	オブジェクト	<code>event.log</code> にメッセージを出力するメソッドを持つオブジェクト
<code>defaultIsGrant</code>	文字列	許可または拒否するデフォルトルール（値は <code>true</code> または <code>false</code> ）
<code>tasks</code>	配列	1 つ以上のタスクおよび関連属性の名前／値ペア
<code>objects</code>	配列	1 つ以上のオブジェクトおよび関連属性の名前／値ペア

注記：外部リストボックス スクリプトは、ユーザーが対応するリストボックスに関する作業を行うと、(オンデマンドで)実行されます。これには2つの考慮点があります。

1. スクリプトは直ちに実行されなければならない。そうしないと、リストボックスがロードされるまで、ユーザーが待つこととなります。
2. 外部リストボックスを含む CR ダイアログは、通常のダイアログボックスより速くロードされる。これは、必要ない場合はリストボックス値が取得されないからです。

新規ダイアログボックスの定義

Rational Change では、変更依頼情報を表示するダイアログボックスを定義できます。表示する属性、表示する位置、その読み書き許可をコントロールできます。

下表に、どのダイアログボックスが CR Process のどのレベルでカスタマイズ可能かを示します。

ダイアログボックス	CR Process (最低優先度)	ライフサイクル固有	状態固有	遷移固有 (最高優先度)
変更依頼情報 (表示)	X	X	X	
変更依頼情報 (提出)				X
遷移				X
完全なレポート	X			
クエリ	X			

注記：ロールベースのダイアログボックスは、同じレベルの他のダイアログボックスに優先します。

ダイアログ定義とレポート定義サブダイアログボックスとタブの詳細は、[ダイアログ定義タブ](#)および[レポート定義タブ](#)を参照してください。

新規ダイアログボックスとレポートの作成は、次の手順に従ってください。

変更依頼 情報ダイアログボックス

- [CR Process 変更依頼 情報 ダイアログボックスの定義](#)
- [ロール固有 CR Process の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)
- [ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)
- [ロール固有、ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)
- [状態固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)
- [ロール固有、状態固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)

変更依頼 提出ダイアログボックスと変更依頼 遷移ダイアログボックス

- [変更依頼 提出ダイアログボックスまたは変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義](#)
- [ロール固有の変更依頼 提出または変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義](#)

完全なレポート

- [完全なレポートの定義](#)

CR Process 変更依頼 情報 ダイアログボックスの定義

現在の CR Process に特有の**変更依頼 情報**ダイアログボックスを定義できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブボタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの編集ダイアログボックスが表示されます。
3. **ダイアログ定義**タブをクリックします。
4. 利用可能な属性リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記：利用可能な属性リストは、CR Process レベルで定義されています。属性を使用してダイアログボックスを定義する前に、属性を定義する必要があります。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

注記：このダイアログボックスで関連オブジェクトの作成、表示、または削除を行いたい場合は、このリストに適切な関係を入れます。

5. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
6. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ダイアログの属性**リストで、属性をクリックします。下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。

注記：属性を関係セキュリティ（ウェブ タイプが CCM_RELATION の属性）に使用したい場合は、**関連オブジェクトおよびオブジェクト関連 / 非関連の作成を許可**をクリックして変更可能にします。

7. **更新**をクリックします。
8. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

9. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

ロール固有 CR Process の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義

現在の CR Process の特定のロールに固有の変更依頼 情報ダイアログボックスを定義できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブボタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。
3. ロール固有の**表示ダイアログの定義**タブを表示します。
 - a. **ロール** タブをクリックします。
 - b. **Rational Change** **ロール** リストで表示されているロールをクリックします。
 - c. **表示ダイアログの定義**をクリックします。
ダイアログ定義タブが表示されます。

4. **利用可能な属性**リストで、**ダイアログボックス**に表示する属性を選択します。

注記：使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

5. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
6. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ロール固有ダイアログ上の属性**リストで、属性をクリックします。
下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
7. **更新**をクリックします。
8. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

9. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義

現在の CR Process の特定のライフサイクルに固有の変更依頼 情報ダイアログボックスを定義できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **ライフサイクル** リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. **編集** (ライフサイクルの隣のボタン) をクリックします。
4. **ダイアログ定義** タブをクリックします。
5. **利用可能な属性** リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記: 使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

6. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
7. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ダイアログの属性** リストで、属性をクリックします。下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
8. **更新**をクリックします。
9. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記: CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

10. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

ロール固有、ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義

現在の CR Process の特定のロールとライフサイクルの組み合わせに特有の変更依頼 情報ダイアログボックスを定義できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **ライフサイクル** リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. **編集** (ライフサイクルの隣のボタン) をクリックします。
4. ロール固有の**表示ダイアログの定義**タブを表示します。
 - c. **ロール** タブをクリックします。
 - d. **Rational Change ロール** リストで表示されているロールをクリックします。
 - e. **表示ダイアログの定義**をクリックします。

ダイアログ定義タブが表示されます。

5. **利用可能な属性**リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記: 使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

6. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ロール固有ダイアログ上の属性**リストで、属性をクリックします。下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
7. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
8. **更新**をクリックします。
9. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記: CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

10. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

状態固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義

現在の CR Process の特定の状態に特有の変更依頼 情報ダイアログボックスを定義できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. ライフサイクル リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. 状態を選択します。
 - a. ライフサイクルの状態タブをクリックします。
 - b. 状態リストで状態をクリックします。
4. [表示ダイアログの定義](#)をクリックします。

状態固有の表示ダイアログの定義サブダイアログボックスが表示されます。
5. 利用可能な属性リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記：使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

6. 変更内容を表示するには、[ダイアログのプレビュー](#)をクリックします。必要に応じて変更を行います。
7. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. [ダイアログの属性](#)リストで、属性をクリックします。下の枠に属性プロパティが表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
8. [更新](#)をクリックします。
9. [CR Process](#) サブボタンバーで名前を付けて保存をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

10. [保存](#)をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

ロール固有、状態固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義

現在の CR Process の特定のロールと状態の組み合わせに特有の変更依頼 情報ダイアログボックスを定義できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **ライフサイクル** リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. 状態を選択します。
 - a. ライフサイクルの**状態**タブをクリックします。
 - b. 状態リストで状態をクリックします。
4. **ロール固有のダイアログを定義**リストで、ロールをクリックします。
ロール固有の**ダイアログ定義**サブダイアログボックスが表示されます。
5. **利用可能な属性**リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記: 使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

6. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
7. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ロール固有ダイアログ上の属性**リストで、属性をクリックします。下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
8. **更新**をクリックします。
9. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記: CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

10. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

変更依頼 提出ダイアログボックスまたは変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義

変更依頼 提出ダイアログボックスは、実際には最初の変更依頼を作成する変更依頼 遷移ダイアログボックスなので、この手順を使用して変更依頼 提出ダイアログボックスまたは変更依頼 遷移ダイアログボックスを定義します。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. ライフサイクル リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. 遷移を選択します。
 - a. ライフサイクルの**遷移**タブをクリックします。
 - b. 遷移リストで遷移をクリックします。

遷移タブにボタンが表示されます。START HERE2 to_state 遷移 (“no state” から “first state” への遷移) を選択するとボタンには**提出ダイアログの定義**と表示され、その他の遷移を選択すると**遷移ダイアログの定義**と表示されます。
4. **提出ダイアログの定義** (または**遷移ダイアログの定義**) をクリックします。

提出ダイアログの定義 (または**遷移ダイアログの定義**) サブダイアログボックスが表示されます。
5. **利用可能な属性**リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記: 使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。
6. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
7. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ダイアログの属性**リストで、属性をクリックします。下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
8. **更新**をクリックします。
9. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記: CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。
10. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

ロール固有の変更依頼 提出または変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義

変更依頼 提出ダイアログボックスは、実際には最初の変更依頼を作成する変更依頼 遷移ダイアログボックスなので、この手順を使用してロール固有の変更依頼 提出ダイアログボックスまたはロール固有の変更依頼 遷移ダイアログボックスを定義します。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **ライフサイクル** リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. 遷移を選択します。
 - a. ライフサイクルの**遷移**タブをクリックします。
 - b. 遷移リストで遷移をクリックします。
4. **ロール固有のダイアログを定義** リストで、ロールをクリックします。

ロール固有の**提出ダイアログの定義**（または**遷移ダイアログの定義**）サブダイアログボックスが表示されます。
5. **利用可能な属性** リストで、ダイアログボックスに表示する属性を選択します。

注記：使用する前に属性を定義しておく必要があります。
詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。

6. 変更内容を表示するには、**ダイアログのプレビュー**をクリックします。必要に応じて変更を行います。
7. 各属性に対して属性プロパティを設定します。
 - a. **ロール固有ダイアログ上の属性** リストで、属性をクリックします。下の枠に**属性プロパティ**が表示されます。
 - b. 属性プロパティを設定します。
8. **更新**をクリックします。
9. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

10. **保存**をクリックします。

詳細については、[ライフサイクルオプション](#)を参照してください。

属性の作成または変更

属性に対して以下の操作を行うことができます。

- [属性の作成](#)
- [属性の変更](#)

詳細については、[属性タブ](#)を参照してください。

CR Process の作成、変更、削除

CR Process は、プロセス レベル プロパティとすべてのライフサイクルを含む作業フローのすべての特性を定義します。

注記：新規 CR Process を作成する場合、CR Process を保存する前に最初の状態を作成し、次に最初の遷移を作成する必要があります。

ライフサイクル エディタ アクションを使用して以下の操作を行うことができます。

- [CR Process ダイアログボックスの表示](#)
- [CR Process ファイルを新しい名前で作成](#)
- [新規 CR Process ファイルの作成](#)
- [CR Process ファイルの削除](#)
- [CR Process プロパティの定義](#)

CR Process を作成したら、[CR ライフサイクルの追加または変更](#)を行います。

これらの操作に使用するダイアログボックスの詳細は、[変更依頼プロセス ファイルの選択](#)を参照してください。

カスタム CR Process の計画と実施の詳しい例は、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

注記：変更を行った後で**更新**をクリックするのは、プロセス ファイルの更新の単なる中間手順です。変更を CR Process ファイルに保存するには、ボタンバーの**保存**をクリックする必要があります。

CR Process ダイアログボックスの表示

CRProcess の変更は、**CRProcess** ダイアログボックスを表示して行います。

1. アクションパネルで**ライフサイクル エディタ**をクリックします。
変更依頼プロセス ファイルの選択ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト内の CR Process ファイルをクリックします。
 - 既存の CR Process を使用している場合は、表示されている CR Process ファイルをクリックしてから**編集**をクリックします。
 - 既存の CR Process を削除したい場合は、表示されている CR Process ファイルをクリックしてから**削除**をクリックします。
 - 新規 CR Process を作成する場合は、**新規ファイル**ボックスに CR Process ファイル名を入力してから**作成**をクリックします。

CR Process ダイアログボックスが表示されます。

詳細については、[CR Process オプション](#)を参照してください。

CR Process ファイルを新しい名前で作成

CR Process ファイルを新しい名前で作成することによってファイル名を変更できます。

1. アクションパネルで**ライフサイクル エディタ**をクリックします。
変更依頼プロセス ファイルの選択ダイアログボックスが表示されます。
2. 表示されている CR Process ファイルをクリックして**編集**をクリックします。
CR Process ダイアログが表示されます。
3. CR Process ファイル名を変更します。

注記：既存のプロセスを変更して新しいプロセスを作成する場合は、CR Process ファイルをコピーして名前を変更します。

 - a. **CR Process** サブボタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの**編集**サブダイアログボックスが表示されます。
 - b. CR Process の**名前**と**ファイル**に新しい値を入力します。
 - c. **更新**をクリックします。
4. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。
5. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process オプション](#)を参照してください。

新規 CR Process ファイルの作成

既存のファイルを選択する代わりに新しい CR Process ファイルを作成できます。

1. アクションパネルで**ライフサイクル エディタ**をクリックします。
変更依頼プロセス ファイルの選択ダイアログボックスが表示されます。
2. **新規ファイル**ボックスにファイル名を入力します。
3. **作成**をクリックします。
CR Process ダイアログボックスが表示されます。
4. CR Process のプロパティを定義します。
詳細については、[CR Process プロパティの定義](#)を参照してください。
5. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。
注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。
6. **保存**をクリックします。
詳細については、[CR Process オプション](#)を参照してください。

CR Process ファイルの削除

Admin ログイン ロールを持っているユーザーは、既存の CR Process ファイルを削除できます。

1. アクションパネルで**ライフサイクル エディタ**をクリックします。
変更依頼プロセス ファイルの選択ダイアログボックスが表示されます。
2. 表示されている CR Process ファイルをクリックして**削除**をクリックします。
3. ファイルを削除することを確認します。

CR Process プロパティの定義

CR Process ファイルを作成したら、そのプロパティを定義する必要があります。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの編集ダイアログボックスが表示されます。
3. 一般プロパティを定義します (オプション)。
 - a. 一般タブをクリックします。
 - b. 名前とファイルを変更し、**Admin** ロールと**イメージ** ファイルを設定します。
 - c. **CR タイプ属性**リストで、適切な属性を選択します。
 - d. **読み取りセキュリティ属性**リストで、属性をクリックします。
 - e. **デフォルト パッケージ テンプレート** リストで、使用するテンプレートをクリックします。
 - f. **関係セキュリティ モード**リストで関係セキュリティ モードをクリックします。
 - g. ベース テンプレート フィールドに別のテンプレートを選択することもできます (オプション)。
 - h. ヘディングの文字色と背景色を選択します。あるいはデフォルト値 (白い背景に黒いテキスト) をそのまま使用します。
 - i. **詳細**を入力します。
 - j. **利用可能なトリガ**をクリックして、使用するトリガを定義します (オプション)。
 - k. **更新**をクリックします。

詳細については、[一般タブ](#)を参照してください。

4. ダイアログボックスの定義を行います (オプション)。
 - a. **CR Process プロパティの編集**サブダイアログボックスで、**ダイアログ定義**タブをクリックします。
 - b. 1つ以上の**変更依頼 情報**ダイアログボックスを定義します。
ステップについては、[CR Process 変更依頼 情報 ダイアログボックスの定義](#) および [ロール固有 CR Process の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)を参照してください。
詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。
5. 属性を定義します (オプション)。

注記： CR Process で使用するすべての属性は、それをライフサイクルで使用する前に **CR Process** レベルで定義する必要があります。

- a. **CR Process** プロパティの**編集**サブダイアログボックスで、**属性**タブをクリックします。
 - b. 1つ以上の属性を定義または変更します。
ステップについては、[属性の作成](#)および[属性の変更](#)を参照してください。
詳細については、[属性タブ](#)を参照してください。
6. レポートを定義します (オプション)。
 - a. **CR Process** プロパティの**編集**サブダイアログボックスで、**レポート定義**タブをクリックします。
 - b. 1つ以上のレポートを定義します。
ステップについては、[完全なレポートの定義](#)を参照してください。
詳細については、[レポート定義タブ](#)を参照してください。
7. Rational Change ロールを定義します (オプション)。
 - a. **CR Process** プロパティの**編集**サブダイアログボックスで、**ロール**タブをクリックします。
 - b. Rational Change ログイン ロールを定義します。
ステップについては、[Rational Change ログイン ロールの作成](#)を参照してください。
詳細については、[ロールタブ](#)を参照してください。
8. ウェブ タイプを定義します (オプション)。
 - a. **CR Process** プロパティの**編集**サブダイアログボックスで、**ウェブ タイプ**タブをクリックします。
 - b. 1つ以上のウェブ タイプを定義します。
ステップについては、[ウェブ タイプの作成、カスタマイズ、インストール](#)を参照してください。
詳細については、[ウェブ タイプタブ](#)を参照してください。
9. Rational Change と Rational Synergy のインテグレーションを定義します (オプション)。
 - a. **CR Process** プロパティの**編集**サブダイアログボックスで、**Rational Synergy** タブをクリックします。
 - b. インテグレーションを設定します。
詳細については、[Synergy タブ](#)を参照してください。
10. CR Process グラフィックを作成します (オプション)。
ステップについては、[CR Process グラフィック ファイルの作成とインストール](#)を参照してください。
11. **更新**をクリックします。

12. ライフサイクルの変更または追加を行う場合は、[CR ライフサイクルの追加または変更](#)へ進んでください。

注記：CR Process ファイルを保存する前に、少なくとも 1 つのライフサイクルを、最初の状態と遷移と共に追加する必要があります。

13. **CR Process** サブボタンバーで名前を付けて保存をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

14. **保存**をクリックします。

詳細については、[CR Process プロパティの編集](#)を参照してください。

CR Process とそのライフサイクルの総合的な作成例は、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

属性の作成

CR Process で使用する新しい属性を作成できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの編集ダイアログボックスが表示されます。
3. **属性**タブをクリックします。
4. **属性**タブで、**作成**をクリックします。

変更依頼属性リストと**名前**ボックスに `_New_Attribute_` という新しい属性が表示されます。

注記：CR Process が子 CR を含む場合、子 CR を作成する「遷移」を定義するとき使用する関係を作成する必要があります。この属性は任意の名前（たとえば、テスト用の子 CR の作成に `cr_test`）を付けることができ、**DB タイプ**の子で**ウェブ タイプ**が `CCM_RELATION` である必要があります。子 CR のライフサイクルの定義に関する詳細は、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

ライフサイクル固有のクエリとレポートフォーマットを作成する場合、名前が `lifecycle`、ラベルが**ライフサイクル**、**DB タイプ**が `string`、そして**ウェブ タイプ**が `CCM_STRING` の属性を作成します。すると、各 CR の `lifecycle` 属性に CR 作成時のライフサイクルが設定され、その属性がすべての提出と遷移ダイアログボックスに表示されます。

5. 属性プロパティを設定します。
 - a. **名前**ボックスで、`_New_Attribute_` を新しい属性の名前に変更します。
 - b. **ラベル** ボックスに、属性のラベル（例、`problem_number` 属性の CR ID）を入力します。
 - c. **DB タイプ** リストでデータベース タイプ（例、`string` または `boolean`）をクリックします。
 - d. **ウェブ タイプ** リストで、属性のウェブ タイプ（例、文字列属性の `CCM_STRING`）をクリックします。
リストボックスを作成するには、**ウェブ タイプ** リストで `CCM_LISTBOX` をクリックします。

ウェブタイプが CCM_LISTBOX の場合、**親**リストで属性をクリックして属性を別の属性に依存させることができます（たとえば、browser_version 「子」属性を browser 「親」属性に依存させる）。

- e. 新しい属性を使用してクエリできるよう**クエリ可能**チェックボックスを選択します（テキスト属性を作成している場合以外）。
- f. 新しい属性を使用してレポートを作成できるよう**レポート可能**チェックボックスを選択します。

6. 更新をクリックします。

詳細については、[属性タブ](#)を参照してください。

属性の変更

CR Process の属性を変更できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。
3. **属性**タブをクリックします。
4. **変更依頼属性**リストで属性をクリックします。
名前ボックスに属性名が表示されます。
5. 属性のプロパティを変更します。
以下のプロパティを変更できます。
 - 名前
 - ラベル
 - 説明
 - ウェブ タイプ
 - DB タイプ
 - アイコン
 - クエリ可能
 - レポート可能
 - ユーザー環境属性
 - すべてのトリガに送信
 - 親
 - 読み取りセキュリティ属性
 - CR タイプ
6. **更新**をクリックします。
詳細については、[属性タブ](#)を参照してください。

ウェブ タイプの作成、カスタマイズ、インストール

ウェブ タイプ タブを使用してリストボックス、文字列、およびテキストボックスなどのダイアログボックス要素用のカスタマイズしたウェブ タイプを作成します。

カスタム ウェブ タイプを作成したら、プロセス パッケージをインストールするときいつでもウェブ タイプを使用できるようにするため、そのウェブ タイプファイルをカスタマイズし、それをインストールするパッケージテンプレートを作成する必要があります。

注記：インストール エリアに作成して、パッケージテンプレートを使用してインストールしていないウェブ タイプコントロール ファイルは、使用しないでください。使用するとプロセス パッケージをインストールするたびにファイルが削除されます。

ウェブ タイプの定義

1. [ウェブ タイプの作成](#)
2. [ウェブ タイプ コントロール ファイルのカスタマイズ](#)
3. [パッケージテンプレートへのウェブ タイプの追加](#)

ここに示すステップは、1つの例に基づいています。以下に示すように、1つではなく5つの選択肢を同時に表示する、新規リストボックスのウェブ タイプを作成し、重要度属性がこのウェブ タイプを使用します。



詳細については、[ウェブ タイプ タブ](#)を参照してください。

ウェブ タイプの作成

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブボタムバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。
3. ウェブ タイプ タブをクリックします。
4. ウェブ タイプ タブで、**作成**をクリックします。

ウェブ タイプ リストと名前ボックスに `_New_Web_Type_` という新しいウェブ タイプが表示されます。

5. ウェブ タイプ プロパティを設定します。
 - a. 名前ボックスで、`_New_Web_Type_` を新しいウェブ タイプの名前 (例、`CCM_LISTBOX_MULTILINE`) に変更します。
 - b. ベース ウェブ タイプ リストで、新しいウェブ タイプのベースとするウェブ タイプ (たとえば、`CCM_LISTBOX_MULTILINE` をウェブ タイプのベースとするには `CCM_LISTBOX` をクリックする) をクリックします。
6. 更新をクリックします。
7. もう一度ウェブ タイプ タブをクリックして新しいタイプを確認します。
8. 新しいウェブ タイプを使用します。
 - a. 属性タブをクリックします。
 - b. 重要度属性のウェブ タイプを新しいウェブ タイプ (`CCM_LISTBOX_MULTILINE`) に設定します。
 - c. 更新をクリックします。
9. 名前を付けて保存をクリックします。
10. dev プロセスのデフォルト名を使用して、保存をクリックします。
11. [プロセスパッケージの作成](#)を行います。

プロセス パッケージでは、ベース ウェブ タイプ コントロール ファイルの複製が、新しい名前 (例、`base.CCM_LISTBOX_MULTILINE`) で以下のディレクトリに含まれます。

```
CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥packages¥install_CR_Process_name¥  
wsconfig¥templates¥pt¥include¥attr_controls
```

新しいコントロール ファイルは、常にベース コントロール ファイルと同一です。新しいタイプを使用可能にするには、新しいコントロール ファイルを編集し、編集したファイルを含むパッケージ テンプレートを作成し、CR Process をインストールするとき常にパッケージ テンプレートを「マージ」する必要があります。

ウェブ タイプ コントロール ファイルのカスタマイズ

1. インストール エリアの新しいコントロール ファイル (`base.CCM_LISTBOX_MULTILINE`) をカスタマイズします。

たとえば、リストボックスに 5 つの選択肢を表示したい場合、HTML を編集して SELECT 要素に高さ「5」を指定します。

```
SIZE='1'
```

を検索し、それを `SIZE='5'` に変更します。
2. 修正したパッケージをインストールします。

ステップについては、[パッケージのインストール](#)を参照してください。

3. 新しいウェブ タイプをテストします。

セッションを開始し、重要度属性を使用するダイアログボックスを表示して変更されていることを確認します。

パッケージ テンプレートへのウェブ タイプの追加

ここまで行った変更は、インストールされたパッケージに対してのみです。次は、パッケージをパッケージテンプレートディレクトリへコピーする必要があります。

パッケージテンプレートディレクトリは、後でプロセスパッケージを作成するとき「マージ」して使用します。これにより、カスタム ウェブ タイプが使用可能になります。詳細については、[プロセスパッケージの作成](#)を参照してください。

1. ディレクトリをパッケージテンプレート (例、`CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥package_templates¥dev_template`) に変更します。
2. ウェブ タイプ コントロール ファイルをインストールします。
 - a. `dev_template` ディレクトリの下にコントロール ファイルのサブディレクトリ構造を作成します。

以下のようなサブディレクトリ構造とします。

```
wsconfig¥
  templates¥
    pt¥
      include¥
        attr_controls
```

- b. カスタマイズしたウェブ タイプ コントロール ファイル (`base.CCM_LISTBOX_MULTILINE`) を `CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥packages¥install_CR_Process_name¥wsconfig¥templates¥pt¥include¥attr_controls` ディレクトリから新しい `attr_controls` ディレクトリへコピーします。

3. パッケージがパッケージテンプレートリストにあることを確認します。
 - a. **パッケージの作成**をクリックします。
 - b. パッケージテンプレートリストを確認するには、**パッケージテンプレート** リストボックスをクリックして新しいパッケージを検索します。
 - c. **作成**をクリックします。
 - d. 古いプロセスパッケージをアンインストールして新しいものをインストールします。
 - e. 新しいウェブタイプをテストして、パッケージテンプレートが意図したとおりに機能することを確認します。

完全なレポートの定義

CR Process またはライフサイクルで使われるデフォルトのレポートを定義（または変更）できます。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. 完全なレポートを定義するレベルを選択します。

CR Process の完全なレポート（すべてのライフサイクルに適用される）の場合、**CR Process** サブタンバーの**編集**をクリックします。**CR Process** プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。

3. **レポート定義**タブをクリックします。
4. **レポート可能属性**リストで、レポートに表示する属性を選択します。
属性の準備と設定の詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。
5. レポート全体に対して、**ソート順の定義**でソート順序を定義します。
6. **更新**をクリックします。
7. **CR Process** サブタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

8. **保存**をクリックします。

詳細については、[レポート定義タブ](#)を参照してください。

2 つの CR Process ファイルのマージ

2 つの CR Process ファイルをマージしてそのライフサイクルを組み合わせることができます。2 つの CR Process ファイルをマージすると両方のプロセスのすべてのライフサイクルを含む新しい CR Process ファイルが作成されます。マージしたファイルの CRProperties は、最初に選択した CR Process ファイルのプロパティに設定されます。属性値とユーザー リストはマージされ、デフォルト値は最初に選択した CR Process のものになります。

詳細な情報については、マージ操作の完全なアカウントの CR Process マージ ログをご覧ください。

1. アクションパネルで**ライフサイクル エディタ**をクリックします。
変更依頼プロセス ファイルの選択ダイアログボックスが表示されます。
2. デフォルト名を使用したくない場合は、**新規ファイル**ボックスにマージした CR Process の名前を入力します。
3. 2 つの CR Process ファイルをクリックします。
4. **マージ**をクリックします。

CR Process ダイアログボックスが表示されます。

また、新しいファイル名は、次回**変更依頼プロセスとライフサイクル** ダイアログボックスを表示したとき、CR Process ファイルの一覧に表示されます。

5. CR Process のプロパティを定義します。
CR Process ファイルをマージしたら、プロセスの説明など一部のプロセス プロパティを変更する必要があります。詳細については、[CR Process プロパティの定義](#)を参照してください。
6. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。
7. **保存**をクリックします。

詳細については、[変更依頼プロセス ファイルの選択](#)を参照してください。

CR ライフサイクルの追加または変更

CR Process を作成または選択したら、CR Process 内のライフサイクルを変更できます。

注記：以下の手順では、変更後**更新**をクリックするのはライフサイクルの作成の単なる中間手順です。変更を CR Process ファイルに保存するには、ボタンバーの**保存**をクリックする必要があります。

以下の操作は、CR Process ファイルの選択または新規 CR Process ファイルの作成を行った後 **CR Process** ダイアログボックスから行います。

以下のライフサイクル操作を行うことができます。

- [ライフサイクルの追加](#)
- [ライフサイクルの変更](#)

ライフサイクルの追加または変更を行ったら、次の操作を行う必要があります。

1. パッケージを作成します。
ステップについては、[プロセスパッケージの作成](#)を参照してください。
2. 以前インストールしたプロセス CS パッケージをアンインストールします。
ステップについては、[パッケージのアンインストール](#)を参照してください。
3. 新しいプロセス パッケージをインストールします。
ステップについては、[パッケージのインストール](#)を参照してください。

注記：この操作は、すべてのバックエンドセッションを停止して構成データを再読み込みします。

4. 変更したライフサイクルまたは新しいライフサイクルをテストします。

ライフサイクルの追加

自分のプロセス用のカスタマイズ ライフサイクルを作成します。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブボタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。
3. **ライフサイクル** リストの上の、**追加**をクリックします。
ライフサイクルの追加サブダイアログボックスが表示されます。
4. 新しいライフサイクルを定義します。
 - a. **ライフサイクルの追加**サブダイアログボックスで、ライフサイクルの**名前**、**管理ロール** (*pt_admin* など変更依頼管理の Rational Synergy 権限)、および**詳細**を入力します。
 - b. **更新**をクリックします。
新しいライフサイクルが**ライフサイクル** リストボックスに表示されます。
5. 新しいライフサイクルを選択して編集して定義を続けます。
ステップについては、[ライフサイクルの変更](#)を参照してください。
詳細については、[ライフサイクルオプション](#)を参照してください。

ライフサイクルの変更

自分のプロセス用の既存ライフサイクルをカスタマイズします。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **CR Process** サブボタンバーで、**編集**をクリックします。
CR Process プロパティの**編集**ダイアログボックスが表示されます。
3. **ライフサイクル** リストでライフサイクルをクリックし、**編集**をクリックします。
ライフサイクル プロパティの**編集**サブダイアログボックスが表示されます。
4. 一般的なライフサイクルプロパティを設定します。
 - a. **一般**タブをクリックします。
 - b. **名前**を変更して、**Admin** ロールを設定します。
 - c. **ヘディング**の色を設定します。
 - d. **ベース テンプレート** ボックスを展開します。
 - e. テンプレートリストで、使用するベース テンプレートをクリックします。**次の画面**をクリックすると、さらにテンプレートが表示されます。
 - f. **詳細**を入力します。
 - g. **更新**をクリックします。詳細については、[一般タブ](#)を参照してください。
5. 必要に応じてライフサイクル固有属性のリストを変更します。
 - a. **属性**タブをクリックします。
 - b. 矢印を使用して、属性を**ライフサイクルの属性**リストに入れるか、除外します。
 - c. **更新**をクリックします。詳細については、[属性タブ](#)を参照してください。
6. **ライフサイクル固有**ダイアログボックスを作成または変更します (オプション)。
 - a. **ダイアログ定義**タブをクリックします。
 - b. デフォルトの**変更依頼 情報**ダイアログボックスを定義します。
ステップについては、[ライフサイクル固有の変更依頼 情報ダイアログボックスの定義](#)を参照してください。
詳細については、[ダイアログ定義タブ](#)を参照してください。
7. **ライフサイクル固有**の Rational Change ロール マッピングを作成または変更します (オプション)。

- a. **ロール** タブをクリックします。
- b. Rational Change ログイン ロールを定義します。
ステップについては、[Rational Change ログイン ロールの作成](#)を参照してください。
詳細については、[ロールタブ](#)を参照してください。
8. 状態を作成または変更します。
ステップについては、[状態の追加または変更](#)を参照してください。
9. 遷移を作成または変更します。
ステップについては、[遷移の追加、変更、コピー](#)を参照してください。
10. **更新**をクリックします。
11. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。
12. **保存**をクリックします。
詳細については、[ライフサイクル オプション](#)を参照してください。

状態の追加または変更

ライフサイクルの状態を作成またはカスタマイズします。

注記：以下は状態を追加するステップです。状態を変更する場合は、**追加**ボタンではなく**編集**ボタンをクリックしてください。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **ライフサイクル** リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. **ライフサイクル**の下で**状態**タブをクリックします。
4. 各状態を追加します。
 - a. **状態**タブで、**追加**をクリックします。
 - b. **状態の追加**サブダイアログボックスに、状態の**名前**と**詳細**を入力します。
 - c. "**オープン vs クローズ**" **レポート状態の設定**エリアで、**オープン**、**クローズ**、または**無視**をクリックします（無視状態はレポートに表示されません）。
 - d. **更新**をクリックします。
5. 各状態のロールベースのセキュリティルールを追加します。

- a. 状態リストボックスで、状態をクリックします。
 - b. ロールの隣の、**追加**をクリックします。
 - c. **ロールセキュリティの追加**サブダイアログボックスの**ロール名**ボックスにロールを入力するか、隣のリストボックスから既存のロールを選択します。
 - d. そのロールのユーザーが変更可能な属性を選択します。
 - e. **更新**をクリックします。
6. 各状態の属性ベースのセキュリティルールを追加します。
- a. **属性の隣の追加**をクリックします。

注記：状態の属性にセキュリティをすでに設定している場合、既存の属性をクリックしてから**編集**をクリックして、**属性セキュリティの編集**サブダイアログボックスを表示できます。
 - b. **属性セキュリティの追加**サブダイアログボックスの**名前**ボックスにユーザー ID を含むことができる属性の名前を（例、resolver）入力するか、隣のリストボックスから既存の属性を選択します。
 - c. **ロール名**ボックスに名前を入力します。ロールと属性の両方を指定すると、両方のルールが使用されます。
 - d. 属性リストボックスで、ユーザー ID が属性値と一致したユーザーが変更できるようにする属性を選択します。
 - e. **更新**をクリックします。
7. 該当するタスク関連付けチェックボックスを選択します（オプション）。詳細については、[タスク割り当てを許可チェックボックス](#)または[タスクの割り当て解除を許可チェックボックス](#)を参照してください。
8. 各状態の遷移属性を設定します（オプション）。
- a. **遷移属性の設定**をクリックします。
 - b. **遷移属性の指定**ダイアログボックスの**ユーザー**、**日付**、および**コメント**ボックスに変更依頼を遷移したときこの情報を格納する属性の名前を入力します。

注記：すべての遷移コメントは、遷移のログ (transition_log) に追加されます。**コメント** ボックスを使用して別の属性にコメントを保存することもできます。
 - c. **更新**をクリックします。
9. **CR Process** サブボタンバーで**名前を付けて保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

10. 保存をクリックします。

詳細については、[ライフサイクル オプション](#)を参照してください。

遷移の追加、変更、コピー

ライフサイクル遷移を作成、カスタマイズ、またはコピーします。

注記：以下は、遷移を追加するステップです。遷移を変更する場合は、**追加**ボタンではなく**編集**ボタンをクリックしてください。

1. [CR Process ダイアログボックスの表示](#)を行います。
2. **ライフサイクル** リストで、ライフサイクルをクリックします。
3. **ライフサイクル**の下で**遷移**タブをクリックします。
4. 妥当ならば通常の遷移を追加します。

通常の遷移は提出、状態間の遷移、または親子 CR 関係を作る遷移です。

注記：**遷移の追加**ダイアログボックスの一部のオプションは、CR Process が子 CR またはコピーした CR を含む場合にのみ使用します。子 CR のライフサイクルの定義に関する詳細は、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

- a. **遷移**タブで、**追加**をクリックします。
- b. **遷移の追加**サブダイアログボックスに、遷移の**ラベル**と**詳細**を入力します。
通常、カスタマイズする場合は最初の遷移にラベル**提出**を付け、子 CR コピー遷移にラベル**作成**を付けます。
- c. **遷移元の状態**リストボックスで、遷移の開始状態をクリックします。
提出遷移を定義する場合、START_HERE をクリックします。子 CR を作成するために子 CR コピー遷移を定義する場合は、COPY をクリックします。その他の種類の遷移では、以前定義した状態をクリックします。
- d. 子 CR を作成するために遷移を定義する場合、**To Lifecycle** リストで遷移先のライフサイクルをクリックするか、Default Lifecycle (現在のライフサイクル) をそのまま使用します。
- e. **遷移先の状態**リストボックスで、遷移の終了状態をクリックします。
提出遷移または子 CR コピー遷移を定義する場合は、to_state をクリックします (例、entered)。他のタイプの遷移の場合は、以前に定義したいいずれか1つの状態をクリックします。

- f. 子 CR コピー遷移を定義する場合、**コピー関係**リストで子 CR を親 CR に関連付ける関係をクリックします。

関係は、遷移を定義する前に作成しておく必要があります。詳細については、[属性の作成](#)を参照してください。

子 CR コピー遷移名は `COPYrelation_name2to_state` となります。カスタマイズしたダイアログボックス定義に `relation_name` 属性を入れた場合は、ダイアログボックスに**作成**と**表示** UI コントロールが表示されます。
 - g. 遷移にダイアログを必要とする場合は、**ダイアログが必要**オプションを選択します。
 - h. 遷移をダイアログに表示する場合は、**インターフェイスに遷移を表示**オプションを選択します。インターフェイスに表示されない遷移は、API から表示できます。

第 1 遷移を指定する場合は、**第 1 遷移**オプションを選択します。第 1 遷移は、ある状態からのライフサイクルでは標準的な方法です。第 1 遷移を選択すると、CR の遷移のリストの最初に太字で表示されます。

インターフェイスに遷移を表示オプションを選択していないと、第 1 遷移は指定できません。

旧リリースの Rational Change を使用している場合、または遷移リンクの順序付けが名前付けのスキームに依存していた場合は、リンクの順序が第 1 遷移のプロパティとラベルに応じて変更されます。1 つの**遷移元の状態**に対して 1 つの第 1 遷移のみ指定できます。遷移の一般的なランク付けはありません。
 - i. **更新**をクリックします。
5. 妥当ならばコピー（複製）遷移を追加します。
- コピー遷移は、親子 CR 関係を作らずに CR の複製を作成する遷移です。
- a. **遷移**タブで、**追加**をクリックします。
 - b. **遷移の追加**サブダイアログボックスに、遷移の**ラベル**と**詳細**を入力します。

通常、カスタマイズする場合はコピー遷移にラベル**コピー**を付けます。
 - c. **遷移元の状態**リストボックスで、`COPY`をクリックします。
 - d. **遷移先の状態**リストボックスで、`to_state`をクリックします。
 - e. **コピー関係**リストボックスで、`NO_RELATION` をクリックします。

このコピー遷移は、**親子関係を作らずに現在の CR を新しい CR へコピー**します。コピー遷移名は `COPYNO_RELATION2to_state` となります。カスタマイズしたダイアログボックス定義に `NO_RELATION` 属性を入れた場合は、ダイアログボックスに**コピー** UI コントロールが表示されます。
 - f. **更新**をクリックします。

6. **遷移**リストで、遷移をクリックします。
START_HERE をクリックして**変更依頼 提出** ダイアログボックスを作成します。
7. 新規または修正遷移の遷移ダイアログボックスを定義または変更します。
ステップについては、[変更依頼 提出ダイアログボックスまたは変更依頼 遷移ダイアログボックスの定義](#)を参照してください。
8. 遷移のロールベースのセキュリティルールを追加します。
 - a. **ロール**の隣の、**追加**をクリックします。
 - b. **ロールセキュリティの追加**サブダイアログボックスの**名前**ボックスにロールを入力するか、隣のリストボックスから既存のロールを選択します。
 - c. **更新**をクリックします。
9. 必要に応じて遷移の属性ベースのセキュリティルールを追加します。
 - a. **属性**の隣の**追加**をクリックします。
 - b. **属性セキュリティの追加**サブダイアログボックスの**名前**ボックスに属性名を入力するか、隣のリストボックスから既存のロールを選択します。
 - c. **ロール名**ボックスに名前を入力します。ロールと属性の両方を指定すると、両方のルールが使用されます。
 - d. **更新**をクリックします。
10. 必要に応じて遷移のブランチベースのセキュリティルールを追加します。
 - a. **ブランチ**の隣の**追加**をクリックします。
 - b. **ブランチセキュリティの追加**サブダイアログボックスの**名前**ボックスに属性名を入力するか、隣のリストボックスから既存のロールを選択します。
 - c. オペレータを選択します（が次と等しい、または、が次と異なる）。
 - d. 遷移を行うために属性が等しい（または等しくない）必要がある値を入力します。
 - e. ロールベースのセキュリティも適用したい場合、**ロール名**ボックスにロール名を入力するか、隣のリストボックスから既存のロールを選択します。
 - f. **更新**をクリックします。
11. **CR Process** サブボタンバーで**名前**を付けて**保存**をクリックします。

注記：CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。
12. **保存**をクリックします。
詳細については、[ライフサイクル オプション](#)を参照してください。

グループ セキュリティ ルールの概要

グループの実装と管理は、IBM® Rational® Directory Server を使用して行います。このセクションでは、グループの定義とグループ セキュリティ ルールの設計を行うために、考慮すべき情報について説明します。

グループ セキュリティを実装する前に、ライフサイクルを含む、CR Process の設計と定義を行ってください。グループ セキュリティ機能では、セキュリティを実装するため、ルールを組み合わせて使用します。[グループ セキュリティルールの設計](#)をお読みください。設計情報を読んだら、次の種類のセキュリティ カスタマイズを行うことができます。

- [グループ管理](#)
- [ACL の管理](#)

カスタマイズに役立つ詳細な設計情報については、[Rational Change のカスタマイズの概要](#)を参照してください。

グループ セキュリティの管理についての詳細は、『Rational Directory Server Administration Guide』を参照してください。のドキュメントは、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/rsdp/v1r0m0/index.jsp> で入手できます。グループ セキュリティ機能の使用方法については、Rational Directory Server ヘルプを参照してください。

グループ セキュリティ ルールの設計

グループ セキュリティ ルールの実装を考えているなら、すでに変更追跡システムの特定の部分にアクセス規則が必要であると認識しているかもしれません。**Rational Change** での情報の表示方法をコントロールしたい状況について、以下にいくつかの例を示します。

- 社内に複数の製品ラインがあり、ある製品の問題情報をその製品に関わる従業員のみに表示したいと考える場合。
- 社内で契約社員を雇用している場合。契約社員は自分が担当する CR 内の問題を修正するため、**Rational Change** にアクセスする必要があります。しかし、この契約社員が他の CR へアクセスすることは禁止したい場合があります。
- タスクへの読み取り／書き込みアクセスをコントロールする必要がある場合。製品部門の全員に読み取り権限を与え、開発ラボの担当者のみに書き込み権限を与えたい場合があります。

さまざまなレベルでグループ セキュリティを設定できます。ほとんどルールを設定しないことも、あるいは誰がどの情報にアクセスできるかを厳密に制限することもできます。最良の結果を得るには、この章の説明を読んでグループ セキュリティについてよく理解いただき、少しのルールを定義することから始めてください。これによって、ルールの機能を理解し、さらにルールを定義する前に少しのルールをテストできます。

グループ セキュリティを正しく設定して管理するためには、以下の手順を記載される順番に実行してください。

1. [グループ セキュリティの概要](#)
2. [情報の使用方法の特定](#)
3. [グループの定義](#)
4. [ルールの定義](#)
5. [まとめ](#)

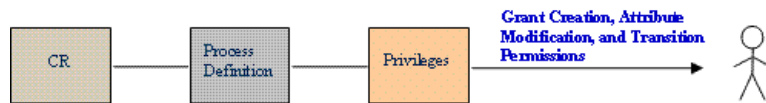
グループセキュリティの概要

Rational Change では、ユーザー定義ルールの作成、修正を行い、ユーザーの権限および CR 属性値に従って変更依頼を遷移させることができます。ライフサイクルセキュリティとグループセキュリティの設定により、さらに詳細なセキュリティ機能を提供しています。これらのセキュリティ機能は、ユーザーのグループメンバーシップに従って、CR への読み取りおよび書き込み権限を認めるか否定することによって実現されます。

ライフサイクルセキュリティ

ライフサイクルセキュリティは、CR に設定された属性値とユーザーの権限のいずれかまたは両方に従って、CR の作成、修正、遷移を許可するユーザーを定義するものです。権限は、セキュリティルールの指定時に定義します。たとえば、assigner 権限を持ったユーザーのみが CR を entered 状態から assigned へ遷移させることができるとするセキュリティルールは、assigner 権限を定義しています。セキュリティルールは、状態または CR の特定の属性をベースにすることもできます。たとえば、CR の状態が entered で、enterer 属性が現在のユーザーと等しい場合、現在のユーザーは CR の synopsis、severity、description 属性を修正できます。

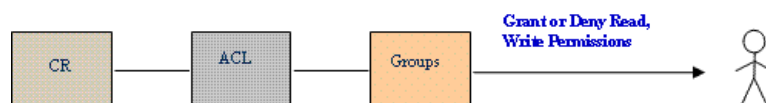
ライフサイクルセキュリティルールは、通常 SC ライフサイクルエディタを使用して定義し、CR Process 定義ファイル内に保存します。ユーザーにはデータベース内の一連の権限が割り当てられます。これらの権限は、ライフサイクル定義によって CR に対応付けられ、最終的にユーザーに対して作成、属性の修正、遷移の許可などを制御します。



グループセキュリティ

ライフサイクルセキュリティは、CR に設定された属性値と現在のユーザーのグループメンバーシップに従って、CR の読み取り／書き込み権限を定義するものです。CR の個々の属性への書き込みアクセスを制御するライフサイクルセキュリティとは異なり、グループセキュリティの書き込み権限は全般的な CR への書き込みアクセスを制御します。ユーザーは一連のグループに割り当てられます。アクセスコントロールリスト (ACL) に定義されたルールに従って、グループが CR 権限に関連付けられます。ACL は、指定したグループとユーザーのいずれかまたは両方に対して実行されるルールを提供します。

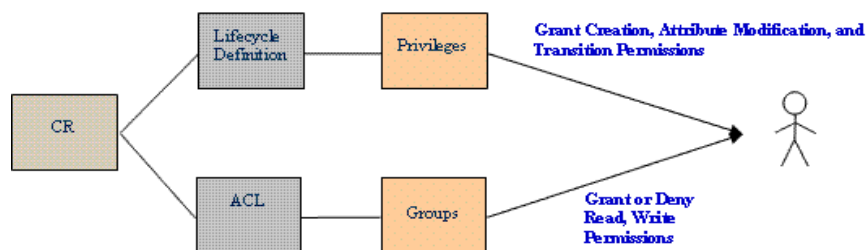
グループ セキュリティ ルールは、CRProcess とライフサイクルの定義時に設定されたセキュリティルール（ロールセキュリティルールと属性セキュリティルール）を変更することはありません。これらのルール間に矛盾があった場合は、必ずより厳格なルールに従います。



ライフサイクル セキュリティとグループ セキュリティの併用

ライフサイクルセキュリティとグループセキュリティは補完しあって包括的なセキュリティソリューションを提供します。

- グループセキュリティが CR への読み取りアクセスを決定する。
- CR が読み取り可能な場合、グループセキュリティが CR の書き込みアクセスを決定する。
- CR が書き込み可能な場合、ライフサイクルセキュリティが以下を決定する。
 - 利用可能な作成（CR 提出）フォーム
 - 修正可能な属性
 - 利用可能な遷移



情報の使用方法の特定

セキュリティ ルールの定義を開始する前に、Rational Change が収集した情報をどのように使用するかを知っておく必要があります。情報にアクセスする必要がある担当者が、セキュリティ ルールの実装後に確実に情報にアクセスできるようにしなければなりません。同様に、収集した情報が社外秘または部外秘であるか、ある組織にとって重要な情報であるかも考慮する必要があります。これらのことを知っておくことは、特定のグループおよびルールを設定して情報へのアクセスタイプを制御する上で役に立ちます。

グループの定義

グループセキュリティを設定する理由の 1 つとして、情報へのアクセス権を持つユーザーのより正確な制御があげられます。このため、最初のステップは、情報へのアクセスを許可または禁止するユーザーの体系化です。多くのケースで、定義するユーザー グループは、社内の異なる部署に所属していることがあります。まず社内の組織に応じたグループを定義し、次に特定の情報へのアクセスが必要な少人数のグループを定義するか、表示できる情報を制限するグループを設定します。

セキュリティを必要とする属性の定義

Rational Change が追跡する属性は、CR Process で定義されています。グループセキュリティを定義するときに、属性、または属性セットを選択できます。変更依頼、タスク、オブジェクトに対してグループセキュリティを設定できます。

以下のステップを行い、必要なセキュリティのタイプを決定します。

1. アクセス権を規定したい属性を決定します。
2. 属性ごとに、属性が影響を及ぼすグループを決定します。
3. 属性ごとに、表示可能、修正可能、表示と修正が可能なユーザーなど、必要なルールを決定します。

ルールの定義

グループと属性を特定したら、セキュリティ ニーズに応じたルールまたはアクセス コントロール リスト (ACL) を対応付ける必要があります。ACL は、読み取り／書き込み権限を制御するルールを集めたものです。ACL によって、ユーザーのグループに適した特定のルールを定義できます。各 ACL には、スコープ、権限、ユーザー／グループの 3 つのコンポーネントがあります。

スコープ

ルールごとに、ルールのスコープ、つまりルールが適用される CR、タスク、オブジェクトを定義する必要があります。特定のオブジェクトに ACL を定義するようなアプリケーションとは異なり、Rational Change はすべての CR 用に 1 つのグローバル ACL、タスク用に 1 つ、オブジェクト用に 1 つを定義し、ACL 内のそれぞれのルールが個々に適用されます。スコープは 1 つの等号文 `attribute = value` によって設定されます。この条件に一致するすべての CR、タスク、オブジェクトがこのルールによって管理されます。

デフォルト ルールは、ルールに一致しないすべての CR、タスク、またはオブジェクトに対して読み取り／書き込みを禁止しています。必要に応じてこのデフォルト ルールを修正できます。

権限

ルールごとに権限のタイプ、および権限を認めるか否定するかを定義する必要があります。ユーザーに許可と拒否の両方のルールを付与した場合、拒否ルールが実施されます。使用可能なオプションは以下のとおりです。

- 読み取り：CR、タスク、オブジェクトを表示できる権限。ユーザーが読み取りアクセス権を持っていない場合、CR またはタスクが存在しないと通知され、レポートおよび検索では、結果から CR またはタスクが除外されます。
- 書き込み：CR を編集できる権限。ただし、アクセス権を付与することは、CR を修正可能にするとは限りません。他の要因によって書き込み権限が阻害される場合があります。
 - a. CR 表示フォーム (ダイアログ ボックス) は、読み込み権限を使用して定義することができる。
 - b. 分散型 Rational Change によってルールが実施されているので、このデータベースでは CR を修正できない。たとえば、CR R#1900 のコントロールが、R データベースから W データベースに転送されたとします。これによって、R データベースではこの CR を修正できなくなります。
 - c. ライフサイクルセキュリティによって、ユーザーが属性を修正できる権限が認められていない。たとえば、ある CR が Synergy グループによる修正が可能であり、ユーザーがそのグループに属しているとします。しかし、ライフサイクルセキュリティによって、assigner 権限を持つユーザーのみが割り当て状態の

CR の属性 x 、 y 、 z を修正できると規定されており、ユーザーが `assigner` 権限を持っていない場合、このユーザーはこれらを修正することはできません。

- 読み取り／書き込み：CR の読み取り、書き込みが可能な権限。この組み合わせの権限により、他のコンポーネントが同じだった場合に読み取りと書き込みに個々のルールを必要としないので、ACL の維持管理作業を減らすことができます。

ユーザー／グループ

スコープおよび権限を定義したら、ルールごとにルールの適用対象とするユーザー／グループを少なくとも1つ指定する必要があります。

- **グループ**：グループに対してルールが適用されます。
- **ユーザー**：特定のユーザーに固有のルールを作成できます。これは、適用対象グループに属さないユーザー（短期契約のコンサルタント等）に一時的に権限を認めたり否定する場合に有用です。ルールにはユーザーとグループを混合して含めることができます。
- **{everyone}**：すべての **Rational Change** ユーザーを表すために使用する特殊目的のID。これは、拒否セキュリティ モデルを実装するために役立ちます。つまり、**{everyone}** に権限を与え、次に拒否するユーザー／グループを指定します。

たとえば、5つの製品を持つ会社の CR ACL を下表に示します。2つの製品ライン内に4つの製品があり、2つの製品ラインにまたがる製品（インテグレーション）が1つあります。この例では、DOORS 製品ラインに最も厳格なセキュリティがあり、次が Synergy 製品、そしてインテグレーションには最も緩やかなセキュリティがあります。

属性	スコープ 値	アクセス	アクション	ユーザー、グループ
Product_Line	Synergy	許可	読み取り	{everyone}
Product_Line	Synergy	拒否	読み取り	契約社員、ゲスト
Product_Line	DOORS	許可	読み取り	DOORS, CCB
Product	CM	許可	書き込み	Synergy 開発者、CCB
Product	Change	許可	書き込み	Synergy 開発者、CCB
Product	RM	許可	書き込み	Synergy 開発責任者、CCB
Product	XT	許可	書き込み	XT 開発責任者、CCB
Product	インテグレーション	許可	読み取り／書き込み	開発者、契約社員、CCB
一致しないすべての変更依頼		拒否	読み取り／書き込み	該当なし

ACL の定義および維持管理の詳細については、[ACLの管理](#)を参照してください。

まとめ

Rational Change で使用されるグループセキュリティ機能の概要について理解されたことと思います。グループセキュリティルールの定義を開始する前に、使用している CR Process とライフサイクルを確認してください。定義するグループセキュリティルールは、これらのルールの最上位で実装されます。新しい制限を追加する前に、すでに設定されているルールを確認し、それらのルールが適切に機能しているかを確認してください。

グループ管理

以下のグループ管理操作を行うことができます。

- [グループのメンバーの表示](#)
- [リストに表示されるユーザー数の変更](#)

グループのメンバーの表示

グループのメンバーはグループ タブに表示できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**グループ** タブをクリックします。
3. **利用可能なグループ** ダイアログボックスで、グループを選択します。

グループ メンバー リストにメンバーが表示されます。

詳細については、[グループ タブ](#)を参照してください。

リストに表示されるユーザー数の変更

ユーザー数が多い場合、表示数を減らしてユーザー リストの読み込みにかかる時間を短縮できます。このオプションでは、指定数より多い場合にリストを読み込まないように設定できます。数値を設定したら、大きなユーザー リストを読み込む代わりに、フィルタによって特定のユーザーを選択できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ボタンバーで、**一般** タブをクリックします。
3. **ユーザー リスト動作設定** エリアで、表示するユーザー数を入力します。リスト内のユーザー数がこの数値以上になると、自動的に**フィルタ** タブが表示されます。
4. **適用** をクリックします。

詳細については、[ユーザーおよびグループ リスト動作設定エリア](#)を参照してください。

ACL の管理

以下の操作により、アクセス コントロール リストの作成と管理を行うことができます。

- [ACL の定義](#)
- [ACL の編集](#)

ACL の定義

変更依頼、タスク、オブジェクトに、個別の ACL を定義できます。

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログ ボックスで **ACL** タブをクリックします。
3. **アクセス コントロール リスト管理** ページで、作成するアクセス コントロール リストのタイプのチェック ボックスを選択します。

4. **編集**リンクをクリックします。

ルール of 定義に使用したフォームが表示されます。

5. **追加**をクリックしてルールの定義を開始します。
6. **属性**リストで、適切な属性を選択します。すべての属性を合致させるには**すべての属性**を選択します。特定の属性を使用したい場合は**属性の選択**をクリックします。

属性の選択をクリックすると **ACL ルール用の属性選択**ダイアログが表示されます。

- a. **利用可能な属性**リストをスクロールします。必要な属性を選択したら、**追加**をクリックして属性を**選択された属性**リストに移動します。必要な属性がすべてわかっている場合は、ここですべてを選択します。すべてがわからない場合は、後で属性にルールを追加できます。
 - b. 必要な属性をすべてリストに追加したら、**OK** をクリックします。
ダイアログが閉じてフォームに戻ります。
7. **属性**リストで、いま追加した属性を選択します。
属性の組み合わせなど、さらに詳細な属性の実装機能については、[属性リスト](#)を参照してください。
 8. **値**リストで、ルールの適切な値を選択します。
 9. **アクセス**リストで、適切な値を選択します。
 10. **アクション**リストで、適切な値を選択します。
 11. **ユーザー、グループ** ボックスで、ユーザーのユーザー ID か、定義したグループの名前を入力します。複数項目を入力する場合はカンマで区切ります。
 12. **追加**リンクをクリックして他のルールを追加します。必要な ACL をすべて定義できるまで、ステップ 6 ~ 12 を繰り返します。
 13. **保存**をクリックして、変更を保存してダイアログを閉じます。

詳細については、[ACL タブ](#)を参照してください。

ACL の編集

1. アクションパネルで、**アドミニストレーション**をクリックします。
2. **アドミニストレーション** ダイアログ ボックスで **ACL** タブをクリックします。
3. **アクセス コントロール リスト管理** ページで、作成するアクセス コントロール リストのタイプのチェック ボックスを選択します。
4. **編集** リンクをクリックします。
ルール の定義 に使用した フォーム が表示 されます。
5. 多くのルールがある場合は、**フィルタ** ボックスを使用して編集したい属性を表示します。
6. 必要に応じて属性を変更します。既存の属性を編集し、**追加** リンクをクリックして新しいルールを追加するか、**削除** リンクをクリックしてルールを削除できます。
新しいルールの追加については、[ACL の定義](#) のステップ 6 ～ 11 を参照してください。
7. **保存** をクリックして、変更を保存してダイアログを閉じます。

詳細については [ACL タブ](#) を参照してください。

ダイアログボックス

Admin でログインし、アクションパネルでアクション ボタンをクリックすると、ダイアログパネルで以下のダイアログボックスを表示できます。

注記: リモートサーバーにログオンしている場合は、一部のアクションが表示されないこともあります。

- ホーム操作 ([ホーム](#))
- アドミニストレーション操作 ([アドミニストレーション](#))
- ライフサイクル エディタ操作 ([変更依頼プロセスファイルの選択](#))
 - [CR Process オプション](#)
 - [ライフサイクル オプション](#)
- レポート ビルダ操作 ([レポートの作成](#))
- ヘルプ 操作

アドミニストレーション

アドミニストレーション ダイアログボックスを使用して、設定の確認と、Rational Change 管理操作を行います。

このダイアログボックスを表示するには、**アドミニストレーション** ボタンをクリックします。

このダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

ボタンバー

ヘルプ ボタン

このボタンをクリックして、ダイアログボックスとタブに対応するヘルプを表示します。

タブ

アドミニストレーション タブには以下のものがあります。

注記： Rational Change インストレーションを、リモートサーバーを使用するように設定している場合は、**アドミニストレーション** ページには**サーバー** タブと**パッケージ インストーラ** タブのみが表示されます。

- [一般タブ](#)
- [サーバー タブ](#)
- [ユーザー タブ](#)
- [グループ タブ](#)
- [ACL タブ](#)
- [検索タブ](#)
- [CR の同期タブ](#)
- [リストボックス マネージャ タブ](#)
- [パッケージ インストーラ タブ](#)

一般タブ

一般タブを使用して、Rational Synergy とともに使用される Rational Change の設定、日付とユーザー名フォーマットの設定、ユーザーおよびグループ リスト動作設定の変更、構成データの再読み込み、電子メール提出の処理、電子メール変更依頼提出フォームの表示またはテストを行います。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に**一般タブ**をクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

Rational Synergy インテグレーション エリア

Rational Synergy インテグレーションを無効化チェックボックス

このチェックボックスを選択して、Rational Change の Rational Synergy インテグレーションを無効にします。

注記：ユーザーがインテグレーションを使用するには、pt.cfg ファイルで JAVA_APPLET_ROLES で定義されたロールを持つ必要があります。

Rational Synergy ダイアログの起動を無効化チェックボックス

このチェックボックスを選択して、Rational Change からの Rational Synergy ダイアログボックスの起動を無効にします。

適用ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

E メール送信 エリア

SMTP サーバー フィールド

メールを送信するサーバーを定義します。

送信元アドレス フィールド

送信元とする電子メールアドレスを設定します。

適用ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

ユーザーおよびグループ リスト動作設定エリア

すべてのタブを無効 チェックボックス

アドミニストレーションタブとグループタブのユーザー リストに、すべてのユーザー名が読み込まれないようにします。

ユーザー数がこの指定値より少なければ [すべて] タブを先に表示 フィールド

アドミニストレーションタブとグループタブのユーザー リストから表示されるユーザー名のしきい値を設定します。ユーザー数が設定したしきい値を超えると、フィルタータブが表示されます。指定値以内の場合は、すべてタブが表示されます。

適用ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

日付フォーマット エリア

フォーマット リスト (ラベルなし)

リストから表示したい日付フォーマットを選択します。

適用ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

ユーザー名表示 エリア

フォーマット リスト (ラベルなし)

リストから使用したい名前フォーマットを選択します。このフォーマット設定は、表示される内容のみに影響し、ユーザー属性に保存される内容には影響しません。お気に入りユーザーの選択ダイアログボックス、レポートおよび表示ダイアログボックス、クエリビルダダイアログボックス、遷移ログ、およびユーザー管理情報の名前表示に影響がでます。

適用ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

構成エリア

ロードボタン

この操作は Rational Change 構成ファイルを再読み込みします。このボタンをクリックして、Rational Change インターフェイスを Rational Synergy で行われた構成（例、Release Table）の変更で更新します。

サーバー タブ

サーバー タブを使用してサーバー構成を変更します。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に**サーバー タブ**をクリックします。

このページでは以下のオプションを使用できます。

注記：表示されるタブは、インストレーションのタイプによって異なります。

- [プロパティ タブ](#)
- [セントラルサーバー タブ](#)
- [リモートサーバー タブ](#)

プロパティ タブ

保存ボタン

このボタンをクリックして、サーバー プロパティの変更を保存します。

セッションプールのサイズ変更間隔 XX 分ボックス

使用できる Rational Synergy セッション数を変更する間隔を分数で入力します。

アクティブ ユーザー数に基づいてプールのサイズ変更を行うことにより、リソースを正しく割り当てることができます。プールが拡大すると新しい Rational Synergy セッションが開始し、縮小すると既存の Rational Synergy セッションが切断されます。

プールのサイズ変更を頻繁に行うと、より正確に現在のシステム要求に合わせることができます。しかし、プールのサイズ変更はサーバーがセッションの開始または終了を行う可能性があるためリソースを消費します。

以下に、セッションプールをサイズ変更したときどのようにセッションが開始および終了されるかを説明します。サイズ変更は、常に最小/最大セッション設定によって制限されることに注意してください。

データベースの2つのホスト A と B に対してサイズ変更を行った場合は、以下のようになります。

セッションの開始

- ホスト A と B がしきい値以内 (\leq) または両方ともしきい値を超えている場合、優先度が高いホストが優先される。優先度が同じ場合は、負荷（セッション数）が少ないホストが優先される。
- 1つのホストだけがしきい値を超えている場合、他方のホストが優先される。

セッションの終了

- ホスト A と B がしきい値以内 (\leq) または両方ともしきい値を超えている場合、優先度が低いホストが優先される。優先度が同じ場合は、より古いセッションが優先される。
- 1つのホストだけがしきい値を超えている場合、そのホストが優先される。

非活動ユーザーのタイムアウト時間 XX 分ボックス

その時間経過すると非活動ユーザーのセッションをアクティブであるとカウントするのを止める時間を分数で入力します。

接続再試行回数 XX 回ボックス

Rational Synergy セッションがビジーのために Rational Synergy 要求が失敗するまでの再試行回数を入力します。

オプションの開始引数ボックス

オプションのセッション開始引数を入力します。

たとえば、ホスト (-h hostname) 引数を設定できます。ホストを設定すると、パフォーマンスを改善するため Rational Synergy エンジンを実行するデータベース サーバーで実行できます。あるいは、Rational Change が Windows にインストールされている場合に Rational Synergy エンジンを実行できます。

データベース グループ

リモート サーバーを使用している場合：

Rational Synergy データベースの Rational Change 設定を追加、削除、および変更できます。**追加**または表示されているデータベースをクリックすると右のフレームに[データベース構成サブダイアログボックス](#)が表示されます。DCM 用に初期化されていないデータベース、およびセントラル サーバー データベースは、追加できません。

削除をクリックすると Rational Change のデータベース リストからデータベースが削除されます。

データベースを削除する場合は、データベース内の CR からタスクへの関係をどう処理するか、つまり削除するか保持するか、を指定する必要があります。

セントラル サーバーを使用している場合：

Rational Synergy データベースの Rational Change 設定を追加、削除、および変更できます。**追加**または表示されているデータベースをクリックすると右のフレームに[データベース構成サブダイアログボックス](#)が表示されます。DCM 用に初期化されていないデータベースは追加できません。セントラル CR データベースが一覧表示されていない場合、次に追加するデータベースはセントラル サーバーのデータベースとみなされます。

削除をクリックすると Rational Change のデータベース リストからデータベースが削除されます。

ホスト グループ

ホスト設定の追加、削除、および変更が可能です。**追加**または表示されているホストをクリックすると右のフレームに[ホスト構成サブダイアログボックス](#)が表示されます。**削除**をクリックすると Rational Change のホスト リストからホストが削除されます。

Rational Synergy セッション ユーザーの編集ボタン

このボタンをクリックして、右フレームに、[Rational Synergy セッション ユーザー プロパティ サブダイアログボックス](#)を表示します。

情報ボタン

このボタンをクリックして、[情報サブダイアログボックス](#)を表示します。

サブダイアログボックス エリア

プロパティ エリアのボタンのいずれかをクリックすると、右フレームに以下のサブダイアログボックスが表示されます。

- [データベース構成サブダイアログボックス](#)
- [ホスト構成サブダイアログボックス](#)
- [Rational Synergy セッション ユーザー プロパティ サブダイアログボックス](#)
- [情報サブダイアログボックス](#)

データベース構成サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用してデータベース プロパティを変更します。

リスト表示されているデータベースをクリックしてこのサブダイアログボックスを表示します。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

データベース ボックス

データベースへのパスを表示します。Windows の場合、このパスは UNC のパスである必要があります。

状態ボタン

有効をクリックするとデータベースが有効になり、**無効**をクリックすると無効になります。

状況メッセージボックス

データベースの状態情報を表示します。

ラベルボックス

ログイン ページに表示されているとおりにデータベース ラベルを示します。既存のラベルを置き換えるにはラベルを入力します。

詳細ボックス

データベースの説明を示します。データベースを追加するか、既存の説明を変更する場合は説明を入力します。

最小セッションボックス

データベースで実行できる最小セッション数を示します。データベースを追加するか、既存の値を変更する場合は値を入力します。

最大セッションボックス

データベースで実行できる最大セッション数を示します。データベースを追加するか、既存の値を変更する場合は値を入力します。

ユーザー数 / セッション ボックス

セッションごとのユーザー数の比率を示します（セッションの使用が連続していないので、ユーザーはセッションを共有できます）。データベースを追加するか、既存の値を変更する場合は値を入力します。

ホスト構成サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用してホストプロパティを変更します。
表示されているホストをクリックしてこのサブダイアログボックスを表示します。
このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

ホストボックス

ホストの名前を示します。

状態ボタン

有効をクリックするとホストが有効になり、**無効**をクリックすると無効になります。

注記：ホストは、サーバーからも無効にできます。

状況メッセージボックス

データベースの状態情報を表示します。

詳細ボックス

ホストの説明を示します。ホストを追加するか、既存の説明を変更する場合は説明を入力します。

最大セッションボックス

ホストで実行できる最大セッション数を示します。ホストを追加するか、既存の値を変更する場合は値を入力します。

優先度リスト

セッションを実行するために選択するホストの優先度を示します。小さい数字ほど優先度が高くなります。ホストを追加するか、既存の値を変更する場合は値を選択します。

しきい値リスト

低優先度ホストでセッションを開始する前に、そのホストで実行できるセッションを示します。ホストを追加するか、既存の値を変更する場合は値を入力します。

Rational Synergy セッション ユーザー プロパティ サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用して、セッション ユーザーの名前とパスワードを変更します。

Rational Synergy セッション ユーザーは、バックエンド Synergy セッションを実行できる OS ユーザーです。このユーザーは、最小限の OS 権限と Synergy 権限を持っている必要があります。

このサブダイアログボックスを表示するには、**Rational Synergy セッション ユーザーの編集** をクリックします。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

ユーザー名ボックス

Rational Synergy セッションのユーザー名を入力します。

パスワード ボックス

Rational Synergy セッション ユーザーのパスワードを入力します。

パスワードの確認ボックス

Rational Synergy セッション ユーザーのパスワードを再入力します。

情報サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用して、アクティブおよび非アクティブ ユーザーの説明および現在のサーバー設定を表示します。

このサブダイアログボックスを表示するには、**情報** をクリックします。

セントラル サーバー タブ

本サーバーの名前ボックス

接続するセントラル サーバーの名前を入力します。

セントラル サーバー URL ボックス

ログオンするセントラル サーバーの名前を入力します。登録後、その名前をクリックして、セントラル サーバーのログオン ページを開くことができます。

登録 ボタン

このボタンをクリックして、サーバー プロパティの変更を保存します。

登録解除 ボタン

登録している場合、このボタンをクリックしてダイアログボックスを開き、リモートサーバーのセントラル サーバーとの登録を解除できます。

リモート サーバー タブ

このサブダイアログボックスを使用して、セントラル サーバーからリモート サーバーの追加と削除を行います。

本サーバーの名前カラム

接続するリモート サーバーの名前を表示します。

アドレス カラム

接続するリモート サーバーの URL を表示します。名前を入力した後、このカラムをクリックすると、リモート サーバーのログオン ページが開きます。

状況カラム

接続するサーバーの状況を表示します。

応答時間 (MS) カラム

可能な場合、最新の依頼の応答時間 (ミリ秒) を表示します。

データベースカラム

プロキシと関連付けられているデータベースを表示します。

また、各データベースの名前、パス、状況、状況メッセージを表示します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、リモートサーバーを削除します。

リモートサーバーの追加リンク

このリンクをクリックして、リモートサーバーを追加します。

ユーザー タブ

ユーザー タブを使用して、ユーザー情報を表示し、読み取りセキュリティの値を変更します。ユーザーとグループの管理には Rational Directory Administration (RDA) インターフェイスを使用するようになりました。したがって、ここに表示される情報は読み取り専用です。ただし、ユーザーのデータベースからの削除、および RDA へのエクスポートは行うことができます。リモート サーバーを使用している場合、このタブは表示されません。

注記：すべてのロールは、Rational Synergy (Synergy バックエンド) ロールです。

このページの使用方法については、[管理作業の実行](#)を参照してください。

このページを表示するには、[アドミニストレーション](#)をクリックし、次にユーザー タブをクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

保存ボタン

このボタンをクリックしてユーザー管理の変更を保存します。

ユーザー管理ダイアログボックス

すべてタブ リスト

RDS サーバーの Rational Synergy ユーザー名を持つすべてのユーザーのリストを表示します。

注記：指定したしきい値によっては、すべてタブは使用できない場合があります。

1 人のユーザーをクリックして、そのユーザーのプロパティ (姓、名、メールアドレス、読み取りセキュリティ、権限) を表示します。この複数のユーザーをクリックして、[複数ユーザー権限エリア](#)を表示します。

1 人または複数のユーザーをクリックし、次に[ユーザーをデータベースから削除](#)をクリックして[ユーザーをデータベースから削除サブダイアログボックス](#)を表示します。表示されるデータベース情報は、インストレーションのタイプによって異なります。

フィルタ タブ リスト

クリックして一部のユーザー、グループ、または権限を表示します。リストからフィルタ フィールドを指定して、合致させる文字列を入力するか、リストから権限名を選択して、フィルタ リストを生成します。このタブを使用して、特定権限を持つユーザーをリストできます。

1 人のユーザーをクリックして、そのユーザーのプロパティを表示します。複数のユーザーをクリックして、[複数ユーザー権限エリア](#)を表示します。

1 人または複数のユーザーをクリックし、次に[ユーザーをデータベースから削除](#)をクリックして[ユーザーをデータベースから削除サブダイアログボックス](#)を表示します。表示されるデータベース情報は、インストレーションのタイプによって異なります。

属性値と一致するユーザーを表示（「*」は任意の文字列）リスト

ユーザーをフィルタリングする条件をリストします。

テキスト フィールド（ラベルなし）

ユーザーをフィルタリングする文字列を入力します。

実行ボタン

このボタンをクリックしてフィルタリング操作を実行します。

ユーザーをデータベースから削除ボタン

ユーザー リストから 1 人または複数のユーザーを選択した後、このボタンをクリックして[ユーザーをデータベースから削除サブダイアログボックス](#)を表示します。表示されるデータベース情報は、インストールのタイプによって異なります。

データベース ユーザーのエクスポート ボタン

このボタンをクリックして、[データベース ユーザーのエクスポート サブダイアログボックス](#)を表示します。

データベース スコープ ボタン（スタンドアロン モードのみ）

このボタンをクリックして、[データベース スコープ サブダイアログボックス](#)を表示します。

権限ごとのユーザー レポート ボタン

このボタンをクリックして、[権限ごとのユーザーレポート サブダイアログボックス](#)を表示します。

ユーザー編集エリア

このエリアを使用してユーザーのプロパティと割り当てられているロールを変更します。

このエリアを表示するには、[アドミニストレーション](#) ボタン、[ユーザー](#) タブをクリックし、次に[ユーザー](#) リストで 1 人のユーザーをクリックします。

このエリアでは、以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

このボタンをクリックして、ユーザー プロパティとロール設定を更新します。

注記: これらのユーザー管理の変更を適用するには、[ユーザー](#) タブを終了する前に、[ユーザー管理](#) ダイアログボックスで [保存](#) をクリックします。

ユーザー プロパティ サブダイアログボックス

ユーザー ID ボックス

一意のユーザー名を示します。

姓ボックス

ユーザーの姓を表示します。

名ボックス

ユーザーの名を表示します。

E メール ボックス

ユーザーの電子メールアドレスを表示します。

読み取りセキュリティ値ボックス

ユーザーの読み取りセキュリティ値を表示または入力します。

読み取りセキュリティ値を設定すると、ユーザーは、読み取りセキュリティ値がこの値に設定されている CR（および CR の添付）のみ表示できます。CR のほか、CR に関連付けられているタスクとオブジェクトにも、同じセキュリティルールが適用されます。

詳細については、[読み取りセキュリティ属性チェックボックス](#)を参照してください。

権限サブダイアログボックス

権限 / データベース カラム / 行

ユーザーに割り当てることのできる Rational Synergy 権限と、権限が有効なデータベースを示します。

注記: *ccm_admin* Rational Synergy 権限を持っているデータベースのみ表示できます。

データベース チェックボックス

各データベースにおける指定したユーザーへの権限割り当てを示します。各ユーザーの権限とデータベースの組み合わせを選択します。

すべて カラム チェックボックスは、行全体の状態を示す 3 つの状態を持ちます。それぞれ選択、選択解除、および灰色背景付き選択です。

チェックボックスの状態の意味は、以下のとおりです。

- 「選択」状態ユーザーは、すべてのデータベースで権限を持ちます。
- 「選択解除」状態ユーザーは、どのデータベースでも権限を持ちません。
- 「灰色背景付き選択」状態ユーザーは、1 つ以上のデータベースで権限を持ちますが、すべてのデータベースで権限を持つわけではありません。

複数ユーザー権限エリア

このエリアを使用して、複数のユーザーの Rational Synergy 権限を変更します。

このエリアを表示するには、**アドミニストレーション** ボタン、次に**ユーザー タブ**をクリックし、次に**ユーザー** リストで複数ユーザーをクリックします。

このエリアでは、以下のオプションを使用できます。

注記: これらのユーザー管理の変更を適用するには、**ユーザー タブ**を終了する前に**ユーザー管理**ダイアログボックスで**保存**をクリックします。

追加ボタン

このボタンをクリックして、選択したロールをユーザーの既存ロールセットに追加します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、選択したロールをユーザーの既存ロールセットから削除します。

設定ボタン

このボタンをクリックして、ユーザーの既存ロールセットを選択したロールで置き換えます。

複数ユーザー権限サブダイアログボックス

権限/データベース カラム/行

ユーザーに割り当てることのできる Rational Synergy 権限と、権限が有効なデータベースを示します。

注記: `ccm_admin` Rational Synergy 権限を持っているデータベースのみ表示できます。

データベース チェックボックス

各データベースにおける指定したユーザーへの権限割り当てを示します。ユーザーの権限とデータベースの組み合わせを選択します。

すべて カラム チェックボックスは、行全体の状態を示す 3 つの状態を持ちます。それぞれ選択、選択解除、および灰色背景付き選択です。

チェックボックスの状態の意味は、以下のとおりです。

- 「選択」状態ユーザーは、すべてのデータベースで権限を持ちます。
- 「選択解除」状態ユーザーは、どのデータベースでも権限を持ちません。
- 「灰色背景付き選択」状態ユーザーは、1 つ以上のデータベースで権限を持ちますが、すべてのデータベースで権限を持つわけではありません。

ユーザーをデータベースから削除サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用して、選択したデータベースから Rational Synergy のロール割り当て/権限を削除します。これによって、Rational Change と Rational Synergy からユーザーを効率的に削除できます。表示されるデータベース情報は、インスタレーションのタイプによって異なります。

このサブダイアログボックスを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、**ユーザー** タブをクリックし、次に**ユーザー** リストで 1 人または複数のユーザーをクリックし、**ユーザーをデータベースから削除**をクリックします。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

削除ボタン

このボタンをクリックして削除を行います。

注記：これらの変更を適用するには、**ユーザー タブ**を終了する前に**ユーザー管理**ダイアログボックスで**保存**をクリックします。

データベース リスト

このボタンをクリックして、選択したユーザーをすべてのデータベースから削除します。
データベースを選択するにはそのチェックボックスを選択します。

すべてを選択リンク

このリンクをクリックしてすべてのデータベースを選択します。

すべてをクリア リンク

このリンクをクリックしてすべてのデータベースの選択を解除します。

データベース ユーザーのエクスポート サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用して、他のアプリケーションで使用できるユーザーのテキストファイルを作成します。このファイルは、RDS にユーザーをエクスポートするために使用する、XML 形式ファイルです。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

パスワード ボックス

エクスポートするユーザーのデフォルトのユーザー パスワードを示します。パスワードは、後でユーザーごとに変更できます。

E メール ボックス

デフォルトの電子メールアドレスを示します。このアドレスは、後でユーザーごとに変更できます。

データベース エリア

Rational Directory Server にエクスポート可能なユーザーの、データベース リストを表示します。

すべてを選択リンク

このリンクをクリックしてすべてのデータベースを選択します。

すべてをクリア リンク

このリンクをクリックしてすべてのデータベースの選択を解除します。

サブダイアログボックスの下部

エクスポート ボタン

このボタンをクリックして、ファイルを作成します。

データベース スコープ サブダイアログボックス

このサブダイアログボックスを使用して、**ユーザー管理**ダイアログボックスにどのデータベースを表示するかを定義します。このダイアログボックスは、スタンドアロンモードでのみ表示されます。

データベース ボックス (ラベルなし)

表示するデータベースを選択します。

すべてを選択ボタン

すべてのデータベースを選択します。

更新ボタン

表示されているデータベースを更新します。

権限ごとのユーザーレポート サブダイアログボックス

権限ごとのユーザーレポート サブダイアログボックスを使用して、1 つまたはすべてのデータベース内の指定した権限を持つすべてのユーザー、または1 つまたは複数の権限を持つすべてのユーザーを示すレポートを定義して生成します。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

特定権限のあるユーザーの検索リスト

レポートに含める権限を選択するか、**任意の権限**を指定して、少なくとも1つの権限を持つすべてのユーザーを示すレポートを生成します。

データベース: リスト

Rational Change インストレーションのすべてのアクティブなデータベースを示します。アクティブ データベースは、[データベース スコープ サブダイアログボックス](#)で**有効**になっているデータベースです。

1 つまたは複数のデータベースをクリックして、データベース スコープを設定します。

すべてを選択ボタン

このボタンをクリックして、すべてのアクティブ データベースを含めます。

ユーザーの権限リスト チェックボックス

このチェックボックスをクリックして、データベースごとにユーザーのロールを明示的にリストして表示します。

レポート実行 ボタン

このボタンをクリックしてレポートを生成します。同じウィンドウにレポートが表示されます。

グループ タブ

グループタブを使用して、セキュリティ ルールとともに使用されるグループを表示します。ユーザーとグループの管理には Rational Directory Administration (RDA) インターフェイスを使用するようになりました。したがって、ここに表示される情報は読み取り専用です。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に**グループ** タブをクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

グループを表示エリア

追加可能なグループリスト

このエリアを使用して、RDS サーバーで定義されているグループを表示します。

すべてタブ リスト

RDS サーバーのすべてのグループのリストを表示します。

注記： 指定したしきい値によっては、**すべて**タブは使用できない場合があります。

フィルタ タブ リスト

クリックして、グループのフィルタリング（表示するグループを減らす）を行います。

名前と一致するグループを表示テキスト フィールド

グループをフィルタリングする文字列を入力します。

実行ボタン

このボタンをクリックしてフィルタリング操作を実行します。

グループ メンバー ボックス

選択したグループのメンバーを示します。

ACL タブ

ACL タブを使用して、アクセス コントロール リスト (ACL) のセキュリティルールを管理します。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に**ACL**タブをクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

アクセス コントロール リスト管理エリア

有効チェック ボックス

このチェックボックスをクリックして ACL を有効または無効にします。

アクセス コントロール リスト リスト

変更依頼、タスク、オブジェクトを表示します。

編集リンク

このリンクをクリックして [ACL の定義](#) または [ACL の編集](#)を行います。

アクセス コントロール リスト管理 > ACL_name ダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスを使用して、前ページで選択した項目 (変更依頼、タスク、またはオブジェクト) のルールを設定できます。すべてのルールを表示するか、あるいは指定どおりにルールをフィルタリングできます。

(フィルタ) テキストフィールド (ラベルなし)

ACL リストのフィルタリング時に一致させる文字列を入力します。

フィルタ ボタン

このボタンをクリックして、フィルタリング操作を実行します。

全表示ボタン

このボタンをクリックしてすべての ACL を表示します。

属性ラベル

このラベルをクリックして、ルールを属性によってソートします。

属性リスト

ルールを定義する属性をクリックします。1つまたは複数の属性または属性セットを使用できます。

リストに属性を追加するには、**属性の選択**をクリックします。オブジェクトへのグローバルな読み取りまたは書き込みアクセスを設定するには、**すべての属性**スコープを使用します。

属性をカスタマイズしてより複雑なルールを作成できます。ルールに複数の属性を使用したり、以下で説明するように置き換え文字列を使用することもできます。以下のようなカスタム属性を作成できます。

複数の属性／値ペア：+ および - 演算子を使用して、属性を組み合わせることができます。これにより、複雑なルールを作成して結果を1つのルールに格納できます。以下のルールは、Synergy Support グループに対して、Synergy 製品のすべての不具合 CR の読み取りおよび書き込みを許可しています。

属性	スコープ 値	アクセス	アクション	ユーザー、グループ
Product_Line Type	Synergy Defect	許可	読み取り/ 書き込み	Synergy Support

属性値 = グループ値置き換え：属性値がグループ値と同じである、すべてのインスタンスを定義する1つのルールを作成できます。このためには、属性値とユーザー／グループ名に {substitution} 値を使用します。これにより、以下に示すように、グループに対してグループ固有の情報へのアクセスを簡単に許可できます。

属性	スコープ 値	アクセス	アクション	ユーザー、グループ
Responsible_Group	{substitution}	許可	読み取り/ 書き込み	{substitution}

サブストリング解析：属性値がグループ値と完全に一致していないが、他を導き出すために一方のサブストリングを使用できる場合、またはまったく使用できない場合、この機能を使用できます。

以下の例では、ACL は「Product_Line」をサブストリングとして使用して、CR の読み取りと書き込みを許可するグループのリストを作成しています。

- 最初のルールは、Product_Line=DOORS であれば、DOORS_PM、DOORS_PD、DOORS_Support に読み取り／書き込みアクセスを許可します。
- 2 つ目のルールは、「External」製品ラインを持つ CR と「ext_」で始まる Contractor_Group が、ext_group によって読み取り可能であると定義しています。
- 3 つ目のルールは、CR 属性値が Group のサブストリングである例を示しています。
- 最後のルールは、ユーザー／グループのリストではなくスコープに {substitution} を使用する例を示しています。Public_nnn というを Product_Line 属性値を持つ CR は、誰でも読み取り／書き込みアクセスが許可されます。

属性	スコープ 値	アクセス	アクション	ユーザー、グループ
Product_Line	{substitution}	許可	読み取り／ 書き込み	{substitution}_PM, {substitution}_PD, {substitution}_Support
Product_Line Contractor_Group	External ext_{substitution}	許可	読み取り	{substitution}
Product_Line Contractor_Group	External ext_{substitution}	許可	読み取り	{substitution}_Group
Product_Line	Public_{substitution}	許可	読み取り／ 書き込み	{everyone}

値ラベル

クリックして、ルールを値によってソートします。

値リスト

一致させたい属性の値をクリックします。新しい値を入力して、{substitution} を使用したルールを定義することもできます。

アクセスラベル

クリックして、ルールをアクセス権によってソートします。

アクセスリスト

設定するアクセス権をクリックします。

アクションラベル

クリックして、ルールをアクションによってソートします。

アクションリスト

設定するアクション権をクリックします。

ユーザー、グループラベル

クリックして、リスト内の最初のエントリによってルールをソートします。

ユーザー、グループボックス

ユーザー／グループの名前を入力します。名前にはユーザー ID（ログイン名）を使用します。グループには正確な名前を入力します。

追加リンク

このリンクをクリックして新しいルールを追加します。

削除リンク

このリンクをクリックしてルールを削除します。

保存ボタン

クリックして変更を保存します。

キャンセルボタン

クリックして、変更をキャンセルしてダイアログ ボックスを閉じます。

一般ルール - 条件と一致しない項目 エリア

このエリアでは、変更依頼、タスク、オブジェクトに対する全般的なアクセス権を設定できません。

アクセスリスト

クリックして、他のルールを持たないすべての変更依頼、タスク、オブジェクトに対するアクセス権を設定します。

ACL ルール用の属性選択 ダイアログ ボックス

利用可能な属性リスト

クリックして、アクセス権を設定したい属性を選択します。

選択された属性リスト

属性 リストに表示したい属性を示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストに移動します。

削除 ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストから除外します。

OK ボタン

このボタンをクリックして変更を保存します。

キャンセルボタン

このボタンをクリックして、変更をキャンセルしてダイアログ ボックスを閉じます。

検索タブ

検索 タブを使用して索引作成操作の状態の表示、索引の手動作成、検索オプションの設定を行います。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に**検索**タブをクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

状況 タブ

最終索引更新日時テキスト

最後に索引が更新された時刻を表示します。索引が完全に更新されていない場合は、更新日時の代わりに **なし** と表示されます。

次回索引更新日時 テキスト

次回索引の更新がスケジュールされている時刻を表示します。索引が完全に更新されていない場合は、更新予定日時の代わりに **NA** と表示されます。

インデクサの状況: テキスト

索引作成操作が現在実行中であるか示します。

現在索引のあるデータベース: テキスト

現在索引のあるデータベースを表示します。それ以外は空白となります。

索引を更新ボタン

このボタンをクリックして、手動で検索索引を更新します。

索引を再生成ボタン

このボタンをクリックして、検索索引を作成します。

注意! この操作は、インストール用に**すべてのデータベース**にわたって索引を作成します。この処理には時間がかかります。索引作成中は検索結果が正しく表示されないことがあります

データベース カラム

すべてのアクティブ データベースのリストを表示します。

最終索引更新 カラム

最後に各データベースが更新された時刻を表示します。データベースが完全に更新されていない場合は、更新予定日時の代わりに **NA** と表示されます。

結果フォーマット タブ

CR タブ

利用可能な属性リスト

クリックして検索結果に表示したい属性を示します。

選択された属性リスト

検索結果に表示するよう選択した属性を表示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストにコピーします。

削除 ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストから削除します。

上 ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性をリスト内で上に移動します。検索結果のカラムでは、**選択された属性** リストでの表示順のとおりに表示されます。

下ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性をリスト内で下に移動します。検索結果のカラムでは、**選択された属性** リストでの表示順のとおりに表示されます。

保存ボタン

このボタンをクリックして、CR とタスクの両属性への変更を保存します。

タスク タブ

利用可能な属性リスト

クリックして検索結果に表示したい属性を示します。

選択された属性リスト

検索結果に表示するよう選択した属性を表示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストにコピーします。

削除 ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストから削除します。

上 ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性をリスト内で上に移動します。検索結果のカラムでは、**選択された属性** リストでの表示順のとおりに表示されます。

下ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性をリスト内で下に移動します。検索結果のカラムでは、**選択された属性** リストでの表示順のとおりに表示されます。

保存ボタン

このボタンをクリックして、CR とタスクの両属性への変更を保存します。

CR の同期タブ

CR の同期タブを使用して、データベース間で、CR とタスクを手動で同期させます。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に **CR の同期** タブをクリックします。この **ゴーストCR** タブは、セントラルサーバー モードのみ表示されます。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

状況タブ

名前

すべての利用可能タスク データベースのリストを表示します。

同期を要する変更

同期されていない変更の数を表示します。

最新の同期日時

データベース間で最後に CR が同期された時刻を表示します。CR が完全に更新されていない場合は、更新日時の代わりに**なし**と表示されます。

すべての CR を再同期ボタン

このボタンをクリックして、すべてのデータベース間でゴースト CR を更新します。

属性タブ

利用可能な属性リスト

このリストをクリックして、Synergy CR に基づくメンバーの更新操作に使用する属性を選択します。

選択された属性リスト

メンバーの更新操作で使用するために選択した属性を表示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストにコピーします。

削除ボタン

このボタンをクリックして、属性を**選択された属性**リストから削除します。

保存ボタン

このボタンをクリックして CR 属性の変更を保存します。

パッケージ インストーラ タブ

パッケージ インストーラ タブを使用して Rational Change パッケージのインストールまたはアンインストールを行います。

パッケージの詳しい説明については、[パッケージ](#)を参照してください。このダイアログボックスの使用方法については、[パッケージのインストール](#)、[アンインストール](#)、[作成](#)を参照してください。

このページを表示するには、**アドミニストレーション** ボタンをクリックし、次に**パッケージ インストーラ** タブをクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

パッケージ ディレクトリへのルートパス ボックス

Rational Change パッケージ ディレクトリへのパスを示します。

パッケージ スコープ リスト

表示されているパッケージタイプをクリックして、そのタイプのみを**利用可能なパッケージ**ボックスに表示します。

利用可能なパッケージ ボックス

使用可能だがまだインストールされていないすべての Rational Change パッケージを示します。

インストール済みパッケージ ボックス

すでにインストールされているすべての Rational Change パッケージを示します。

インストール ボタン

このボタンをクリックして、**利用可能なパッケージ**から選択したパッケージをインストールします。

インストール操作は、パッケージをインストールして上書きしたファイルのバックアップを行います。

注記：プロセス パッケージは、Rational Change インストール内でのすべてのデータベースの `ccm_admin` 権限を持っている場合にのみインストールできます。

自分の権限を調べるには、**アドミニストレーション** アクシオンの **ユーザー** タブで、自分のユーザー名をクリックして権限を表示します。

削除 ボタン

このボタンをクリックして、**利用可能なパッケージ**から選択したパッケージを削除します。

アンインストール ボタン

このボタンをクリックして、**インストール済みパッケージ**から選択したパッケージをアンインストールします。

インストール ログ ボタン

このボタンをクリックして、選択したパッケージのインストールおよびアンインストール履歴を表示します。

インストール情報 ボックス

パッケージの README とバージョンを示します。

リストボックス マネージャ タブ

リストボックス マネージャ タブを使用して単純、ファイル、データベース、および依存リストボックス値を変更します。リストボックスは、すべてのデータベース用または個々のデータベース用に定義できます。セントラル サーバーが認識するデータベースのみが表示されます。

左のフレームでリストボックスを選択すると、右のフレームがそのリストボックスに関する情報で更新されます。このページの使用方法については、[リストボックス値の変更](#)を参照してください。

このページを表示するには、**アドミニストレーション**をクリックし、次に**リストボックス マネージャ タブ**をクリックします。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

リストボックス編集の対象 XXX リスト

表示されているデータベースをクリックして、そのデータベースのリストボックス値の変更を開始します。デフォルト値は**すべてのデータベース**で、データベースを選択していてもリストボックスの変更を行うごとに値が**すべてのデータベース**に戻ります。

データベース固有の変更は、最上位レベルのリストボックスで行います。たとえば、OS バージョン リストボックスを変更するには、データベースを選択し、ハードウェア リストボックスを選択し、OS リストボックスを選択し、OS バージョン リストボックスを選択します。

保存ボタン

このボタンをクリックして、リストボックス値の変更を保存します。

キャンセルボタン

このボタンをクリックして、変更を破棄して既存のリストボックス カスタマイズ データを再読み込みします。

リストボックス依存の表示ボタン

このボタンをクリックして、新しいウィンドウにリストボックス依存関係を表示します。

リストボックス依存値の表示ボタン

このボタンをクリックして、新しいウィンドウにすべての依存リストボックスの値を表示します。

リストボックスの選択エリア

属性オプション ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックスの選択**に属性タイプ リストボックスを表示します。

その他 オプション ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックスの選択**に非属性タイプ リストボックスを表示します。

サブリストボックスオプション ボタン

クリックして**リストボックスの選択**にサブリストボックスを表示します。

リストボックス選択リスト (ラベルなし)

すべての定義済みリストボックスを示します。リストボックスをクリックして、タイプに応じた値またはプロパティを表示します。

プロパティ ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性の[リストボックス プロパティのカスタマイズ エリア](#)を表示します。

サブリストのソート ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックスの選択**内のサブリストボックスをソートします。

リストボックス値のカスタマイズ エリア：単純リストボックス

リストボックス値の定義 リスト

選択したリストボックスのすべての値を示します。表示されている値をクリックして、このリストボックスの下の値ボックスに値を表示します。

値ボックス (ラベルなし)

リストボックス値の定義 リストボックスで選択した値を示します。値を追加する場合には値を入力します。

追加 ボタン

このボタンをクリックして、値ボックスに表示されている値を追加します。

修正 ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックス値の定義** リストボックスで選択した値を変更します。

削除 ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックス値の定義** リストボックスで選択した値を削除します。

リストボックス値のカスタマイズ エリア：ファイル リストボックス

ファイル リストボックス タイプ属性をクリックして[リストボックス プロパティのカスタマイズ エリア](#)を表示します。

リストボックス値のカスタマイズ エリア：外部リストボックス

スクリプトの選択リスト

選択可能なスクリプトを示します。表示されるスクリプトは、CHANGE_APP_HOME/
WEB-INF/wsconfig/scripts/listbox にある必要があります。

依存チェーンの一部である外部属性を選択した場合は、[リストボックス プロパティのカスタマイズエリア：依存リストボックス値](#)が表示されます。

リストボックス値のカスタマイズ エリア：依存リストボックス

親リストボックス ボックス

リストボックスの**選択**で選択した依存リストボックスの親リストボックスを示します。

親値の選択リスト

親リストボックスの値を示します。依存リストボックス値を設定する前に表示されている値を選択する必要があります。値を削除するには、**削除**をクリックします。

依存リストボックス値リスト

リストボックスの**選択**で選択した依存リストボックスの値を示します。表示されている値をクリックして選択します。値を削除するには、**削除**をクリックします。

値ボックス (ラベルなし)

値を削除または変更する場合、**依存リストボックス値**で選択した値を示します。値を追加または変更する場合は値を入力します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、**値**ボックスに表示されている値を追加します。

修正ボタン

このボタンをクリックして、**依存リストボックス値**リストボックスで選択した値を変更します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、**依存リストボックス値**リストボックスで選択した値を削除します。

リストボックス値のカスタマイズ エリア：データベース リストボックス

データベース リストボックスタイプ属性をクリックして、[リストボックス プロパティのカスタマイズエリア](#)を表示します。

リストボックス プロパティのカスタマイズ エリア

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

単純リストボックスボタン

このボタンをクリックして、リストボックスを単純リストにします。

ファイル リストボックス ボタン

このボタンをクリックして、リストボックスにファイルの値を使用します。

ファイル リストボックス リスト (ラベルなし)

表示されているファイルをクリックして、リストボックス値に使用します。

外部リストボックス ボタン

このボタンをクリックして、リストボックス値に外部データ ソースを使用します。

スクリプト リスト (ラベルなし)

表示されているスクリプトをクリックして、スクリプトをリストボックス値のソースにします。

データベース リストボックス ボタン

このボタンをクリックして、値をデータベース内の属性に対応付けます。

ファイル リストボックス ボックス (ラベルなし)

リストボックス値のソースとして使用するデータベース属性の名前を入力します。

リストボックス値のカスタマイズ エリア：サブリストボックス値の定義

サブリストボックス値の定義リスト

選択したリストボックスのすべての値を示します。表示されている値をクリックして、このリストボックスの下の値ボックスに値を表示します。

値ボックス (ラベルなし)

リストボックス値の定義 リストボックスで選択した値を示します。値を追加する場合には値を入力します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、**値**ボックスに表示されている値を追加します。

修正ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックス値の定義** リストボックスで選択した値を変更します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、**リストボックス値の定義** リストボックスで選択した値を削除します。

サブリストボックス名の変更 ボックス

リストボックスの新しい名前を入力します。

設定 ボタン

このボタンをクリックして、**値**ボックスに新しい名前を追加します。

リストボックス プロパティのカスタマイズ エリア：依存リストボックス値

依存リストボックス ボックス

外部リストボックスを使用する依存チェーンを設定するガイダンスを提供します。

外部リストボックス チェック ボックス

このチェックボックスをチェックして、スクリプトを使用してリスボックス値を外部管理します。

外部リストボックス リスト

依存値を設定するために実行可能なスクリプトを示します。

階層中のすべての属性に同じスクリプトを適用 チェック ボックス

このチェックボックスをチェックして、階層内のすべての属性に同じスクリプトを適用します。階層内のすべての属性に同じスクリプトを適用しない場合は、各属性にナビゲートしてスクリプトを設定する必要があります。

リストボックス依存チェーン ボックス

依存チェーン内のすべての属性のリストを示します。

追加 ボタン

このボタンをクリックして、**値**ボックスに表示されている値を追加します。

レポート ファイルの選択

レポートファイルの選択ダイアログボックスを使用してカスタム レポートを選択、作成、または削除します。

このダイアログボックスの使用方法については、[レポートの作成](#)を参照してください。

このダイアログボックスを表示するには、**レポート ビルダ**をクリックします。

変更依頼プロセス ファイルの選択

変更依頼プロセスの選択ダイアログボックスを使用して CR Process の選択または作成を行います。

このダイアログボックスの使用方法については、[CR Process の作成、変更、削除](#)を参照してください。

このダイアログボックスを表示するには、**ライフサイクル エディタ**をクリックします。

このダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

ボタンバー

ヘルプ ボタン

このボタンをクリックして、ダイアログボックスに対応するヘルプを表示します。

変更依頼プロセス ファイルの選択エリア

変更依頼プロセス ディレクトリ ボックス

プロセス ファイル ディレクトリへのパスを示します。

このボックスのパスは、新規プロセス ファイルの保存場所と既存プロセスファイルを選択できる場所を示します。

新規ファイル ボックス

新規プロセスファイル名（xml ファイル名拡張子も含む）を入力します。

作成ボタン

このボタンをクリックして、プロセス ファイルを作成します。

CR Process リスト（ラベルなし）

表示されているプロセスファイルをクリックして、**編集**をクリックしてプロセス ファイルを更新します。

同梱のファイルは、dev_process_j.xml です。

編集ボタン

このボタンをクリックして、既存プロセスファイルを編集し、ダイアログパネルに [CR Process](#) ダイアログボックスを表示します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、既存のプロセス ファイルを削除します。

マージ ボタン

このボタンをクリックして、選択した2つの CR Process ファイルをマージします。表示されている2つのプロセス ファイルをクリックし、**新規ファイル** ボックスに新しいプロセス名を入力し、**マージ**をクリックして、ファイルをマージします。

デフォルトで、マージしたファイルの名前は2つの CR Process 名をマージして作られます。別のファイル名を使用する場合は、**新規ファイル**ボックスに新しい名前を入力してから**マージ**をクリックします。

CR Process は、CR 提出の最初の状態と遷移を定義している場合にのみ保存できます。

CR Process

CR Process ダイアログボックスを使用して以下の操作を行います。

- [CR Process レベル操作](#)
- [ライフサイクル編集操作](#)

このダイアログボックスを表示するには、以下の手順に従います。

1. アクションパネルで**ライフサイクル エディタ**をクリックします。
変更依頼プロセス ファイルの選択ダイアログボックスが表示されます。

2. CR Process ファイルを選択するか作成します。

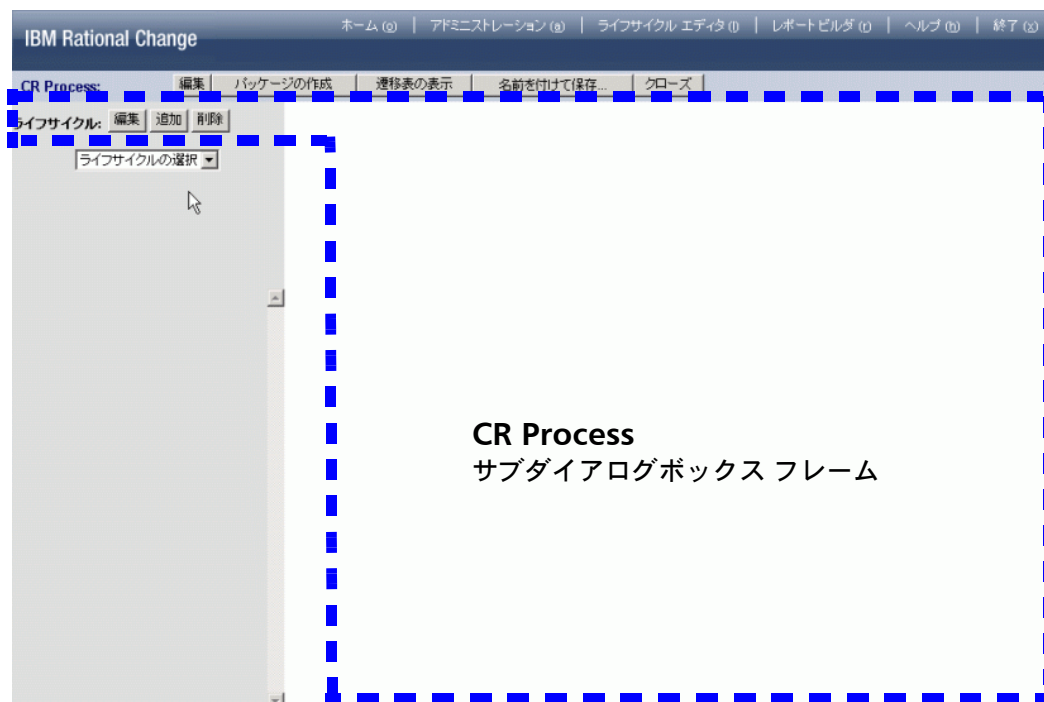
CR Process リストでファイルをクリックし、**編集**をクリックします。

または

ファイル名を**新規ファイル**ボックスに入力し (xml ファイル名拡張子も含めて)、**作成**をクリックします。

CR Process レベル操作

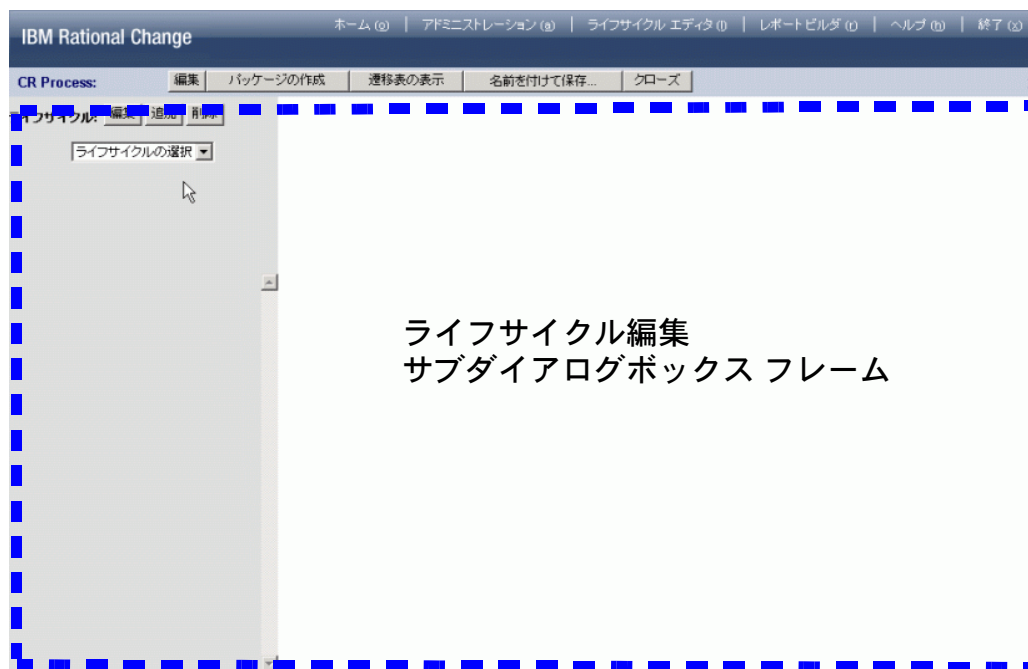
CR Process レベル操作は、下図で青の点線で囲まれたボタンバーとサブダイアログボックスフレームを使用して行います。



関連するダイアログボックス オプションの説明については、[CR Process オプション](#)を参照してください。オプションの使用方法については、[CR Process の作成、変更、削除](#)を参照してください。

ライフサイクル編集操作

CR Process 内のライフサイクルの作成と変更は、下図で青の点線で囲まれたフレームを使用しています。



関連するダイアログボックス オプションの説明については、[ライフサイクル オプション](#)を参照してください。オプションの使用方法については、[CR ライフサイクルの追加または変更](#)を参照してください。

CR Process オプション

CR Process ダイアログボックスを使用して、CR Process プロパティの変更またはパッケージの作成を行います。

CR Process ダイアログボックスには、以下の CR Process レベル オプションがあります。

ボタンバー

編集ボタン

このボタンをクリックして、[CR Process プロパティの編集](#)を表示します。

パッケージの作成ボタン

このボタンをクリックして、現在の CR Process の[変更依頼パッケージの作成](#)を表示します。

遷移表の表示ボタン

このボタンをクリックして、各ライフサイクルとその遷移を示すウィンドウを表示します。

名前を付けて保存ボタン

このボタンをクリックして、変更を CR Process ファイルに保存します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして、CR Process ファイルの変更を破棄します。

ヘルプ ボタン

このボタンをクリックして、ダイアログボックスに対応するヘルプを表示します。

サブダイアログボックス エリア

右のフレームに以下の CR Process サブダイアログボックスが表示されます。表示されるサブダイアログボックスは、ボタンバーでクリックするボタンによって異なります。

- [CR Process プロパティの編集](#)
- [変更依頼パッケージの作成](#)

CR Process プロパティの編集

このサブダイアログボックスを使用して CR Process プロパティを変更します。

注意！ Rational Change はブラウザをベースにしているため、カスタマイズの最中にブラウザのウィンドウを最新の情報に更新しないように注意してください。最新の情報に更新すると変更が失われます。

このサブダイアログボックスには、以下のタブがあります。

- [一般タブ](#) (デフォルト ページ)
- [ダイアログ定義タブ](#)
- [属性タブ](#)
- [レポート定義タブ](#)
- [ロール タブ](#)
- [ウェブタイプ タブ](#)
- [Synergy タブ](#)

一般タブ

このタブを使用して CR Process の一般情報を定義します。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

名前ボックス

CR Process 名を入力します。

ファイル ボックス

CR Process ファイル名を入力します。

管理ボックス

管理ロールを入力します。

イメージ ボックス

CR Process イメージ ファイルの名前を入力します。

デフォルト パッケージ テンプレート リスト

使用するパッケージ テンプレートの名前を指定します。

関係セキュリティ モード リスト

関係セキュリティのオプションをクリックします。

関係セキュリティ モードでは、関係に状態のセキュリティ ルールを適用する方法をコントロールできます。

状態のセキュリティ ルールの**修正可能属性**に、関係を入れることができます。関係を変更できるということは、関係を持つダイアログでユーザーが CR の関連を付けたり外したりできることを意味します。

たとえば、以下の特性を持つ親子 CR を定義すると仮定します。

- 親 CR が *assigned* 状態のとき、親 CR は *cr_child* 関係を使用して子 CR 関係の作成および削除（子 CR との関連付けの設定および解除）ができる。
- 子 CR が *entered_child_cr* 状態のとき、子 CR は *has_cr_child* 関係を使用して親 CR 関係の作成および削除（親 CR との関連付けの設定および解除）ができる。
- *assigned* 状態の CR を変更するには、ユーザーは *assigner* 権限が必要で *cr_child* 関係は **修正可能属性**に含まれる。
- *entered_child_cr* 状態の CR を変更するには、ユーザーは *assigner_child_cr* 権限が必要で、*has_cr_child* 関係は **修正可能属性**に含まれる。

この例では、関係セキュリティモードには次のセキュリティオプションがありません。

関係セキュリティを適用しない

ユーザーは、セキュリティルールに関わらず任意の状態ですべての親子 CR 関係の作成および削除ができます。これはデフォルト設定です。

関係セキュリティを両オブジェクトに適用する

親 CR と子 CR 両方のセキュリティルールに一致している場合のみ、ユーザーは子 CR との関係を親 CR から作成および削除できます。

関係セキュリティをソース オブジェクトにのみ適用する

親 CR のセキュリティルールに一致している場合のみ、ユーザーは子 CR との関係を親 CR から作成および削除できます。

関係セキュリティを対象オブジェクトにのみ適用する

子 CR のセキュリティルールに一致している場合のみ、ユーザーは子 CR との関係を親 CR から作成および削除できます。

ヘディング背景色リスト

標準 HTML 色名または 16 進数値を入力して、作成されるダイアログボックスのヘディングの背景色を設定します。パレットをクリックして色を選択します。

デフォルトの色は白です。

ヘディング テキスト色リスト

標準 HTML 色名または 16 進数値を入力して、作成されるダイアログボックスのヘディングのテキスト色を設定します。パレットをクリックして色を選択します。

デフォルトの色は黒です。

ベーステンプレート ボックス

このボックスをクリックして、ベーステンプレートに関する情報を展開して表示します。

表示リスト

変更依頼 情報 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートの名前をクリックします。

提出 リスト

変更依頼 提出 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートの名前をクリックします。

コピー リスト

コピー ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートの名前をクリックします。

遷移 リスト

遷移 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートの名前をクリックします。

クエリ リスト

クエリ ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートの名前をクリックします。

詳細ボックス

CR Process の説明を入力します。

一般修正スクリプト ボックス

使用するスクリプト名を入力します。

利用可能なトリガ ボタン

このボタンをクリックして、パッケージテンプレートとその関連トリガのリスト、およびその使用方法を表示します。

トリガの詳細については、[インプロセストリガの実行](#)を参照してください。

遷移時と提出時に行われた修正にも適用するチェックボックス

このチェックボックスを選択して、遷移時と提出時に行われた修正にも適用します。

ダイアログ定義タブ

以下は、**ダイアログ定義** オプションの一般的な説明です。これらのオプションは、機能にアクセスする方法によって異なります（たとえば、**CR Process の編集** ダイアログボックスからアクセスするか、ライフサイクル編集の**ロール** タブからアクセスするかなど）。

このタブ（またはサブダイアログボックス）には、内容により以下の見出しが付いています。

ダイアログ定義タブ

CR Process 固有またはライフサイクル固有ダイアログボックスを定義します。

状態固有の表示ダイアログの定義サブダイアログボックス

状態固有の**変更依頼 情報** ダイアログボックスを定義します。

提出ダイアログの定義サブダイアログボックス

ライフサイクル固有の**変更依頼 提出** ダイアログボックスを定義します。

遷移ダイアログの定義サブダイアログボックス

ライフサイクル固有の**変更依頼 遷移** ダイアログボックスを定義します。

コピー ダイアログの定義サブダイアログボックス

親オブジェクト プロパティを子オブジェクトへコピーするための、ライフサイクル固有の**コピー** ダイアログボックスを定義します。

このタブ（またはサブダイアログボックス）を使用して **CR Process** 固有、ライフサイクル固有、または状態固有ダイアログボックス テンプレートを定義します。ダイアログボックスはロール固有にできます。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

このボタンをクリックしてライフサイクルを更新します。

ダイアログの削除ボタン

このボタンをクリックして、定義されたダイアログボックスを削除します。

このオプションは、遷移用のものを含めて **CR Process** またはライフサイクル固有ダイアログボックス、状態固有ダイアログボックス、またはロール固有ダイアログボックスで使用できます。

ダイアログのプレビュー ボタン

このボタンをクリックして、定義されたフォーム例を表示します。フォームのすべての詳細は表示されませんが、ダイアログが適切にレイアウトされ、コントロールの高さと幅が正しく設定されているかを確認できます。

このオプションは、遷移用のものを含めて **CR Process** またはライフサイクル固有ダイアログボックス、状態固有ダイアログボックス、またはロール固有ダイアログボックスで使用できます。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして、ライフサイクルの変更を破棄します。

利用可能な属性リスト

ダイアログボックスで使用できるすべての属性を示します。

ダイアログの属性リスト

ダイアログボックスで使用しているすべての属性を示します。

このリストボックスで属性を選択すると、下のフレームに属性の詳細情報が表示されません。ラジオボタンを使用して必要な属性を必須、変更可能、または読み取り専用に設定します。

注記：このダイアログボックスで関連オブジェクトの作成、表示、または削除を行いたい場合は、このリストに適切な関係を入れます。

関係属性に関係セキュリティを適用するには、[修正可能オプションボタン](#)をクリックします。

ロール固有ダイアログ上の属性リスト

ダイアログボックスで使用しているすべての属性を示します。このラベルは、ダイアログボックスがロール固有のときのみ *role_name* が表示されます。

このリストボックスで属性を選択すると、下のフレームに属性の詳細情報が表示されます。ラジオボタンを使用して必要な属性を必須、変更可能、または読み取り専用に設定します。



このボタンをクリックして、ダイアログボックスに1つ以上の属性を追加します。



このボタンをクリックして、ダイアログボックスに空白のセルを追加します。



このボタンをクリックして、ダイアログボックスに線 (<HR>) を入れます。



このボタンをクリックして、展開/折り畳み可能なセクションの開始点を定義します。これには終了矢印 (下記) も必要です。



このボタンをクリックして、展開/折り畳み可能なセクションの終了点を定義します。これには開始矢印 (上記) も必要です。



このボタンをクリックして、ダイアログボックスに静的 HTML を追加します。ベーステンプレートを修正せずに提出、表示、または遷移ダイアログボックスに静的 HTML または JavaScript を追加できます。



このボタンをクリックして、ダイアログボックスにベースライン レポートを追加します。



このボタンをクリックして、ダイアログボックスから属性を削除します。



このボタンをクリックして、ダイアログボックス内で選択した属性を上に移動します。



このボタンをクリックして、ダイアログボックス内で選択した属性を下に移動します。

デフォルトからのコピー ボタン

このボタンをクリックして、属性をデフォルトの Rational Change ダイアログボックス定義から新しい変更依頼情報ダイアログボックスへコピーします。このオプションは、CR Process およびライフサイクル ロール固有ダイアログボックスでのみ使用できます。

属性プロパティ エリア

名前ボックス

データベース内の属性の名前を示します (例、os_version)。

ラベルボックス

生成されたテンプレートで属性のラベルとして使用するテキストを示します (例、**Operating System Version**)。

DB タイプ リスト

Rational Synergy データベース内の属性のタイプを示します (例、string)。

ウェブ タイプ リスト

Rational Change が属性の表示に使用する定義タグを示します (例、CCM_LISTBOX)。

デフォルト値ボックス

属性のデフォルト値を入力します (コピー ダイアログの定義および提出ダイアログの定義サブダイアログボックスでのみ使用できます)。

幅ボックス

ダイアログボックス内の属性の幅を入力します。

高さボックス

ダイアログボックス内の属性の高さを入力します。

カラム拡張チェックボックス

このチェックボックスを選択して、ダイアログボックスの行全体 (すべてのカラム) にわたる属性を指定します。

HTML フラグメント ボックス

ダイアログボックスに表示する静的 HTML または JavaScript を入力します。エラーチェックは行われません。このため、ダイアログボックスに静的 HTML または JavaScript を追加したことにより、ダイアログボックスが読み込まれなくなったり、JavaScript エラーが発生する可能性があります ({HTML_TEXT} 擬似属性でのみ使用可能)。

初期状態トグル

展開オプションをクリックして、情報を展開表示にします。**折りたたみ**をクリックして、情報を折りたたみ表示にします。

必須オプション ボタン

このボタンをクリックして、遷移の実行に対して属性を必須に設定します (**遷移ダイアログの定義**および**提出ダイアログの定義**サブダイアログボックスでのみ使用できます)。

オプション オプション ボタン

このボタンをクリックして、遷移の実行に対して属性を省略可能に設定します (**遷移ダイアログの定義**および**提出ダイアログの定義**サブダイアログボックスでのみ使用できます)。

修正可能 オプション ボタン

このボタンをクリックして、属性を修正可能にします（**ダイアログ定義**タブおよびサブダイアログボックスでのみ使用できます）。

読み取り専用 オプション ボタン

このボタンをクリックして、属性を読み取り専用にします。

関連オブジェクトおよびオブジェクト関連 / 非関連の作成を許可 オプション ボタン

このボタンをクリックして、associated_task などの関係で属性を「変更可能」にします。

関連オブジェクトの表示のみを許可 オプション ボタン

このボタンをクリックして、associated_task などの関係で属性を「読み取り専用」にします。

属性タブ

このタブを使用して CR Process とそのライフサイクルのすべての属性と UI コントロールを定義します。

注記： UI コントロールは、名前の先頭がアンダスコアですべて大文字です（例、_CREATE_TASK）。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

更新 ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

変更依頼属性エリア

変更依頼属性リスト

Rational Synergy データベースに含まれている属性、またはライフサイクル固有の属性を示します。属性をクリックしてそのプロパティを変更するか属性を削除します。

作成 ボタン

このボタンをクリックして属性を追加します。

削除 ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性を削除します。

使用箇所の検索 ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性が使用されている場所を表示します。

属性プロパティ エリア

注記: 完全なレポートで使用されている CR Process 属性を変更する場合、属性が完全なレポートで一貫していることを確認してください。

名前ボックス

データベース内の属性の名前を示します (例、os_version)。

ラベルボックス

生成されたテンプレートで属性のラベルとして使用するテキストを示します (例、**Operating System Version**)。

ウェブ タイプ リスト

Rational Change が属性の表示に使用する定義タグを示します (例、CCM_LISTBOX)。

DB タイプ リスト

Rational Synergy データベース内の属性のタイプを示します (例、string)。

ブラウズ可能として設定: チェックボックス

このチェックボックスを選択して、属性をブラウズ可能に設定します。

アイコン シンボル

このチェックボックスを選択して、ブラウズ可能クエリに表示するアイコンを選択します。

クエリ可能チェックボックス

このチェックボックスを選択して、属性をクエリに含めます。

レポート可能チェックボックス

このチェックボックスを選択して、属性をレポートに含めます

読み取りセキュリティ属性チェックボックス

このチェックボックスを選択して、属性を読み取りセキュリティに使用します。この属性は1つの属性にのみ選択できます。

読み取りセキュリティでは、ユーザーが CR (および CR の添付) を変更依頼 情報ダイアログボックス、クエリ、およびレポートに表示する機能を制限できます。読み取り専用属性を選択してからユーザーの[読み取りセキュリティ値ボックス](#)に属性値を定義すると、ユーザーは CR Process 読み取りセキュリティ属性値がユーザーの読み取りセキュリティ値と一致する CR に対してのみ、変更依頼 情報ダイアログボックス、クエリ、およびレポートを表示できます。CR のほか、CR に関連付けられているタスクとオブジェクトにも、同じセキュリティルールが適用されます。

読み取りセキュリティを設定する前に以下のことに注意してください。

* ユーザーの[読み取りセキュリティ値](#)が設定されていないか、またはユーザーの[読み取りセキュリティ値](#)が設定されているが CR Process で読み取りセキュリティ属性が定義されていない場合、そのユーザーはすべての CR を表示できます。

たとえば、読み取りセキュリティを実施するため、`company_id`を作成したと仮定します。この属性の目的は、ユーザーに自社が提出した CR の表示のみ許可することです。

`company_id` 読み取りセキュリティ属性の設定は以下のように行います。

`company_id` 属性を作成し、**読み取りセキュリティ属性**チェックボックスを選択します。

ユーザー タブで、読み取りセキュリティを適用したい各ユーザーに対して**読み取りセキュリティ値**を設定します。

値を設定した後は、ユーザーが CR を提出したときに `company_id` がユーザーの読み取りセキュリティ値に設定されます。また、ユーザーは自分の読み取りセキュリティ値がある CR のみ表示できます。

したがって、ユーザー `mary` の読み取りセキュリティ値が TBC Corp の場合（アドミニストレータに割り当てられた）、彼が CR を提出すると `company_id` 属性には自動的に値 TBC Corp が割り当てられます。また、`mary` は、`company_id` が TBC Corp の CR のみ表示できます。

ユーザー環境属性チェックボックス

このチェックボックスを選択して、ユーザーが、自分の**環境**タブにこの属性をあらかじめ設定できるようにします。

親リスト

属性の親リストボックスを定義します。

依存の表示ボタン

このボタンをクリックして、リストボックスの親子依存関係を表示します。

トリガ エリア

事後条件スクリプト ボックス

選択した属性の条件後トリガ定義の 1 つまたは複数のファイル名を別々の行に入力します。

属性のトリガは、属性の値が変わったとき実行 (`exec()`) されるコマンドを含むファイルです。正常終了したコマンドは 0 (ゼロ) を返さなければなりません。

注記：属性が `CCM_RELATION` タイプの場合、トリガはユーザーが関係（関連）の作成または解除を行うと実行されます。

たとえば、**変更依頼 情報**ダイアログボックスで属性の値が変更されたとき `my_script` Perl スクリプトを実行するには、**事後条件スクリプト**ボックスに以下の文字列を入力します。

```
perl my_script
```

注記：トリガ ファイルは、
`CHANGE_APP_HOME\WEB-INF\wsconfig\triggers`
 ディレクトリに入れる必要があります。

また、スクリプトの実行に必要なインタプリタが使用可能でなければなりません。たとえば、Perl スクリプトを実行するには、perl が自分のパス内にあるか triggers ディレクトリにインストールされている必要があります。

遷移時と提出時に行われた修正にも適用するチェックボックス

提出または遷移時に属性が変更されてもトリガを実行する場合に選択します。このチェックボックスを選択解除すると、トリガは**変更依頼 情報**または**タスク情報**ダイアログボックスから属性を変更したときのみ実行されます。

レポート定義タブ

このタブを使用してデフォルトの完全なレポートを定義します。

注記：このページは、属性のリストを除いてライフサイクル固有のレポート定義ページと同じです。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

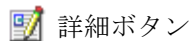
このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

名前ボックス

レポートの名前を入力します。



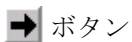
このボタンをクリックして CR Process の説明を入力します。

レポート可能属性リスト

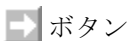
レポートで使用できるすべての属性を示します。

選択された属性 タブ

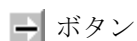
レポートで使用しているすべての属性を示します。



このボタンをクリックして、レポートに 1 つ以上の属性を追加します。



このボタンをクリックして、レポートに空白のセルを追加します。



ボタン

このボタンをクリックして、レポートに線 (<HR>) を入れます。



ボタン

このボタンをクリックして、レポートから属性を削除します。



ボタン

このボタンをクリックして、レポート内で選択した属性を上に移動します。



ボタン

このボタンをクリックして、レポート内で選択した属性を下に移動します。

ソート順の定義エリア

レポート内の3つの属性のソート順を定義します。

属性をクリックし、ソートのタイプ（文字列、整数、日付、リストボックスのいずれか）をクリックします。最後にソート方向（昇順または降順）を選択します。ソートでは、最初に選択する属性が2番目の属性よりも優先されます。同様に、2番目の属性は3番目の属性よりも優先されます。

注記： リストボックスでソートすると、値はリストボックスで定義された順序でソートされます。たとえば、severity 属性のリストボックスは、その値の順序 (Showstopper、Severe、Medium、および Minor) でソートされます。

カラム拡張チェックボックス

このチェックボックスを選択して、属性がレポートの行全体（すべてのカラム）にわたるようにします。説明のためにはこのチェックボックスを選択するとよいでしょう。

ロール タブ

このタブを使用して Rational Change ログイン ロールを定義し、それに Rational Synergy 権限（ロール）を対応付けます。

ユーザーは Rational Change にログインするためには少なくとも1つの Rational Synergy 権限を持つ必要があります。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

Rational Change ロール リスト

現在の CR Process のすべての Rational Change ログイン ロールを示します。1つまたは複数の Rational Synergy 権限をクリックして追加します。

Rational Synergy ロール リスト

使用できる Rational Synergy 権限を示します。1 つまたは複数のロールをクリックして選択します。

マッピング設定ボタン

このボタンをクリックして、**Rational Synergy** ロールを **Rational Change** ロールに対応付けます。

作成ボタン

このボタンをクリックして新しい Rational Change ロールを作成します。**Rational Change** ロール リストおよび名前ボックスに `_New_Role_` 名が表示されます。仮の名を編集して新しいロールを作成します。

削除ボタン

Rational Change ロール リストでロールをクリックしてから、このボタンをクリックしてロールを削除します。

表示ダイアログの定義ボタン

このボタンをクリックして、選択した Rational Change ロールの [ダイアログ定義タブ](#) を表示します。

すべてのロール ボックス

このボックスを選択して、すべての Rational Synergy 権限を選択します。Rational Change ユーザーは、Synergy ロールを持っていればログインできます。

名前ボックス

選択した Rational Change ロール名を示します。

詳細ボックス

選択した Rational Change ロールの説明を示します。

ウェブ タイプ タブ

このタブを使用してダイアログボックスの専用ウェブ タイプを定義します。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

カスタム ウェブ タイプ リスト

現在の CR Process のすべての Rational Change ウェブ タイプを示します。

作成ボタン

このボタンをクリックして、新しい Rational Change ウェブ タイプを作成します。カスタム ウェブ タイプに `_New_Web_Type_` 名が表示されます。一時名を編集して新しい名前を作成します。

削除ボタン

カスタム ウェブ タイプ リストでウェブタイプをクリックしてから、このボタンをクリックしウェブタイプを削除します。

使用箇所の検索ボタン

このボタンをクリックして、ウェブタイプが使用されている場所を表示します。

名前ボックス

選択した Rational Change ウェブ タイプ名を示します。

ベース ウェブ タイプ リスト

表示されているウェブタイプをクリックして、既存のウェブタイプを新しいウェブタイプへコピーします。

注記： GUI を使用したウェブタイプの作成では、ベース ウェブ タイプ コントロール ファイルがコピーされ、指定した名前が与えられるだけです。ウェブタイプをカスタマイズするには、新しいコントロール ファイルを手動で編集する必要があります。詳細については、[ウェブタイプの作成、カスタマイズ、インストール](#)を参照してください。

変更依頼パッケージの作成

このサブダイアログボックスを使用して現在の CR Process の変更依頼パッケージを作成します。

このサブダイアログボックスでは、以下のオプションを使用できます。

CR プロセス ボックス

現在の CR Process XML ファイルの名前を示します。

パッケージ名ボックス

CR Process パッケージのデフォルト名を示します。

パッケージパス ボックス

CR Process パッケージの作成先を示します。

パッケージ テンプレート リスト

表示されているディレクトリ (パッケージ テンプレート) をクリックしてディレクトリの内容を作成するパッケージにマージします。

パッケージ テンプレートは、プロセス パッケージに追加できる非 XML ファイル (デフォルト構成ファイルやイメージファイルなど) を含む骨組みディレクトリです。プロ

セス パッケージを作成するとき、テンプレート構成ファイル内の値が、作成する構成ファイルにマージされます。

たとえば、出荷されている dev_process_j パッケージ ファイルには、dev_template.cfg 構成ファイルと dev_process_j.gif イメージファイルを含む dev_template パッケージ テンプレート ディレクトリがあります。

パッケージ テンプレートを作成するには、package_templates ディレクトリ内にディレクトリを作成します。新しく作成したディレクトリ内に、プロセス パッケージとマージしたいファイルを含む Rational Change ディレクトリ構造を作成します。

注記：パッケージ テンプレート 構成ファイル名は、パッケージ テンプレート名と一致している必要があります。

詳細ボックス

CR Process パッケージを説明します。

作成ボタン

このボタンをクリックして、パッケージを作成します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

Synergy タブ

このタブを使用して、Rational Synergy インテグレーション使用時に特有の設定を定義します。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

Rational Synergy インテグレーションの活動化チェックボックス

このチェックボックスは、Rational Change を Rational Synergy と一緒に使用するときを選択します。この設定は、ライフサイクルがインテグレーションをオンにしてもユーザーがオフに変更できるため、他のインテグレーション設定を無効にします。

出荷されたすべてのライフサイクルはインテグレーションが有効になっています。すべてのカスタム ライフサイクルのインテグレーションは、最初は無効となっています。

インテグレーション ログイン ロール リスト

他の Rational ツールからログインするためのデフォルト ロールをクリックします。

"自分に割り当てられた CR" クエリを入力

ユーザーに現在割り当てられている CR のリストを表示するためのクエリを入力します。

インプロセス トリガの実行

Rational Change プロセス内で、いくつかのトリガを実行できます。このためには、BSF (Bean Scripting Framework) トリガを使用する必要があります。BSF トリガは、以下のよう
に、実行形式名に「bsf」を付けて定義します。

```
bsf my_trigger.js arg1 arg2
```

bsf は、インプロセスで実行する BSF トリガであることを意味します。パス内に bsf の付
いた実行形式ファイルがない場合は、トリガは無視されます。BSF トリガのファイル拡張
子は、スクリプトの実行に使用するスクリプト言語を示します。

トリガの詳細については、ヘルプページから、「トリガ API」を参照してください。

ライフサイクル オプション

CR Process ダイアログボックスのライフサイクルフレームを使用してライフサイクルの作成、変更、および削除を行います。

注意！ Rational Change はブラウザをベースにしているため、カスタマイズの最中にブラウザのウィンドウを最新の情報に更新しないでください。最新の情報に更新すると変更が失われます。

CR Process ダイアログボックスには、以下のライフサイクル オプションがあります。

ライフサイクル エリア

編集ボタン

このボタンをクリックして、[ライフサイクルプロパティの編集](#)を表示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、[ライフサイクルの追加](#)を表示します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、選択したライフサイクルを削除します。

ライフサイクル リスト

表示されているライフサイクルをクリックして、**ライフサイクル情報の編集**サブダイアログボックスを表示します。

タブ

[状態タブ](#)

このタブをクリックして、選択したライフサイクルの状態を表示します。

[遷移タブ](#)

このタブをクリックして、選択したライフサイクルの遷移を表示します。

サブダイアログボックス

ライフサイクル オプションには以下のサブダイアログボックスがあります。これらのほとんどは、他の選択を行ったあと表示可能になります。

- [属性セキュリティの追加 \(状態\)](#)
- [属性セキュリティの追加 \(遷移\)](#)
- [ブランチセキュリティの追加 \(遷移\)](#)
- [ライフサイクルの追加](#)
- [ロールセキュリティの追加 \(状態\)](#)

- [ロールセキュリティの追加 \(遷移\)](#)
- [状態の追加](#)
- [遷移の追加](#)
- [ダイアログ定義タブ](#)
- [属性セキュリティの編集 \(状態\)](#)
- [CR Process 属性セキュリティの編集 \(遷移\)](#)
- [ブランチセキュリティの編集](#)
- [ライフサイクルプロパティの編集](#)
- [ロールセキュリティの編集 \(状態\)](#)
- [ロールセキュリティの編集 \(遷移\)](#)
- [状態情報の編集](#)
- [遷移情報の編集](#)
- [事前遷移トリガ サブダイアログボックス](#)
- [事後遷移トリガ](#)
- [遷移属性名を指定](#)

状態タブ

このタブを使用して、ライフサイクル状態の作成、削除、および変更を行います。

注意！複数のライフサイクルを定義する場合、各ライフサイクルが一意の状態名を使用するよう注意してください。

状態の選択

編集ボタン

このボタンをクリックして、選択した状態の[状態情報の編集](#)を表示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、[状態の追加](#)を表示します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、選択した状態を削除します。

状態リスト

表示されている状態をクリックして、左のフレームに状態のオプションを表示します。

ラベルボックス

状態のラベルを示します。

セキュリティ エリア

タスク割り当てを許可チェックボックス

このチェックボックスを選択して、ユーザーがタスクと選択状態の変更依頼を関連付けることを許可します。

タスクの割り当て解除を許可チェックボックス

このチェックボックスを選択して、ユーザーがタスクと選択状態の変更依頼の関連付けを解除することを許可します。

ロール リスト

表示されているロールをクリックして、[ロールセキュリティの編集 \(状態\)](#)を表示します。

追加 (ロール) ボタン

このボタンをクリックして、[ロールセキュリティの追加 \(状態\)](#)を表示します。

削除 (ロール) ボタン

このボタンをクリックして、選択したロールをロールベース セキュリティ ルールから削除します。

属性リスト

表示されている属性をクリックして、[属性セキュリティの編集 \(状態\)](#)を表示します。

追加 (属性) ボタン

このボタンをクリックして、[属性セキュリティの追加 \(状態\)](#)を表示します。

削除 (属性) ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性を属性ベース セキュリティ ルールから削除します。

詳細エリア

遷移属性の設定 ボタン

このボタンをクリックして、[遷移属性名を指定](#)を表示します。

表示ダイアログの定義 ボタン

このボタンをクリックして、[ダイアログ定義タブ](#)を表示します。

ロール固有のダイアログを定義リスト

表示されているロールをクリックして、現在の状態のロール固有 [ダイアログ定義タブ](#)を表示します。

遷移 タブ

このタブを使用してライフサイクル遷移の作成、削除、および変更を行います。提出とコピー（子 CR の）も遷移の一種なのでここで定義します。

注記： 遷移を作成する前に状態を作成する必要があります。

遷移の選択

編集ボタン

このボタンをクリックして、選択した遷移の[遷移情報の編集](#)を表示します。

追加ボタン

このボタンをクリックして、[遷移の追加](#)を表示します。

削除ボタン

このボタンをクリックして、選択した遷移をセキュリティルールから削除します。

遷移リスト

表示されている遷移をクリックして、左のフレームに遷移のオプションを表示します。

注記： **変更依頼 提出**ダイアログボックスを定義するには、START_HERE2 *first_state* 遷移を選択してから**提出ダイアログの定義**をクリックします。

名前ボックス

自動的に生成される遷移名 (*from_state* + "2" + *to_state*) を示します。

ラベルボックス

遷移のラベルを示します。

遷移元ボックス

変更依頼の遷移元の状態を示します。

遷移先ボックス

変更依頼の遷移先の状態を示します。

提出ダイアログの定義ボタン

このボタンをクリックして、右フレームに[ダイアログ定義タブ](#)を表示します。このボタンは、START_HERE2 *first_state* 遷移にのみ表示されます。

コピー ダイアログの定義ボタン

このボタンをクリックして、右フレームに[ダイアログ定義タブ](#)を表示します。このボタンは、選択した親 CR 属性を子 CR へコピーする COPYrelation_name2 *first_child_state* 遷移にのみ表示されます。

コピー ダイアログボックスは、子 CR の**提出** (START_HERE2 *first_child_state*) ダイアログボックスから自動的に作成されます。したがって、**コピー** ダイアログボック

スを手動で作成する必要はありません。しかし、**コピー** ダイアログボックス属性プロパティを更新して親 CR から継承されるようにする必要があります。

詳細については、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

遷移ダイアログの定義 ボタン

このボタンをクリックして、右フレームに[ダイアログ定義タブ](#)を表示します。このボタンは、START_HERE2first_state 以外のすべての遷移で表示されます。

ロール固有のダイアログを定義 リスト

表示されているロールをクリックして、現在の遷移のロール固有[ダイアログ定義タブ](#)を表示します。

セキュリティ エリア

ロール リスト

表示されているロールをクリックして、[ロールセキュリティの編集 \(遷移\)](#)を表示します。

追加 (ロール) ボタン

このボタンをクリックして、[ロールセキュリティの追加 \(遷移\)](#)を表示します。

削除 (ロール) ボタン

このボタンをクリックして、選択したロールをロールベース セキュリティ ルールから削除します。

属性 リスト

表示されている属性をクリックして、[CR Process 属性セキュリティの編集 \(遷移\)](#)を表示します。

追加 (属性) ボタン

このボタンをクリックして、[ユーザーが指定 Rational Synergy 権限 \(ロール\) を持つことを要求することもできます。](#)を表示します。

削除 (属性) ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性を属性ベース セキュリティ ルールから削除します。

ブランチ セキュリティ リスト

表示されている属性をクリックして、[ユーザーが指定 Rational Synergy 権限 \(ロール\) を持つことを要求することもできます。](#)を表示します。

追加 (属性) ボタン

このボタンをクリックして、[ブランチセキュリティの追加 \(遷移\)](#)を表示します。

削除 (属性) ボタン

このボタンをクリックして、選択した属性をブランチ セキュリティ ルールから削除します。

詳細エリア

事前遷移ボタン

このボタンをクリックして、[事後遷移トリガ](#)を表示します。

事後遷移ボタン

このボタンをクリックして、[事前遷移トリガ サブダイアログボックス](#)を表示します。

属性セキュリティの追加（状態）

このサブダイアログボックスを使用して、状態の属性ベース セキュリティルール（ユーザーの ID が **resolver** などの指定した属性の値と一致するとき変更可能な属性のリスト）を定義します。

ユーザーが指定 Rational Synergy 権限（ロール）を持つことを要求することもできます。

属性セキュリティの追加（遷移）

このサブダイアログボックスを使用して、遷移の属性ベースのセキュリティルールを定義します（遷移は、ユーザーの ID が **resolver** のような指定された値と一致した場合に可能となります）。

ユーザーが指定 Rational Synergy 権限（ロール）を持つことを要求することもできます。

ブランチ セキュリティの追加（遷移）

このサブダイアログボックスを使用して、変更依頼オブジェクトの属性が指定された値を持つ（等しい）、または指定された属性と等しくない値を持つ場合にのみ遷移を可能とします。

たとえば、**change_type** 属性を **defect** または **enhancement** に設定して、(1 ステップの) *fix_defect* および *make_enhancement* 遷移がある場合、以下のブランチ セキュリティルールを定義できます。

- 遷移名 *fix_defect* の場合、名前を **change_type** に、また 値を **defect** に設定する。
- 遷移名 *make_enhancement* の場合、名前を **change_type** に、また 値を **enhancement** に設定する。

ユーザーが指定 Rational Synergy 権限（ロール）を持つことを要求することもできます。

ライフサイクルの追加

このサブダイアログボックスを使用して、新しいライフサイクルに名前を付けて説明し、ライフサイクルの *Admin* ロール (*pt_admin* など変更依頼管理用の Rational Synergy 権限) を定義します。

[ライフサイクルの追加](#)も参照してください。

ロール セキュリティの追加 (状態)

このサブダイアログボックスを使用して、状態のロールベース セキュリティ ルール (指定ロールのユーザーが変更可能な属性のリスト) を定義します。

ロール セキュリティの追加 (遷移)

このサブダイアログボックスを使用して、遷移の属性ベースのセキュリティ ルールを定義します (遷移は指定されたロールのユーザーによって許可されます)。

状態の追加

このサブダイアログボックスを使用して、新しい状態に名前を付けて説明します。

オープン、**クローズ**、**無視**は、オープン vs クローズ レポートの生成にのみ必要な (使用される) グループ化指定です。**無視**状態はレポートに表示されません。

遷移の追加

このサブダイアログボックスを使用して、遷移のプロパティ “from” 状態、“to” 状態、および説明を定義します。

提出とコピーは、特別タイプの遷移です。提出遷移は新しい CR を作成します。コピー遷移は、以下のいずれかを行う提出です。

- 子 CR を提出し、関係を作成し、子 CR が親 CR の属性を継承できるようにする。
または

- 親/子関係を作らずにすべてのプロパティを含む現在の CR のコピーを提出する。

コピー遷移を定義する前に、以下のことを行う必要があります。

- 子 CR のコピー遷移を作成する場合、**コピー関係**リストで選択するために関係属性を定義する。
- 子 CR またはコピーした CR の提出遷移 (*START_HERE* から **entered** など、子 CR またはコピーした CR の最初の状態である状態へ) を定義する。

コピー遷移の詳細については、『Rational Change Customization Guide』を参照してください。

属性セキュリティの編集 (状態)

このサブダイアログボックスを使用して、状態の属性ベース セキュリティ ルール (ユーザーの ID が **resolver** などの指定した属性の値と一致するとき変更可能な属性のリスト) を変更します。

ユーザーが指定 Rational Synergy 権限 (ロール) を持つことを要求することもできます。

CR Process 属性セキュリティの編集（遷移）

このサブダイアログボックスを使用して、遷移の属性ベースのセキュリティを変更します（遷移は、ユーザーの ID が **resolver** のような指定された値と一致した場合に可能となります）。ユーザーが指定 Rational Synergy 権限（ロール）を持つことを要求することもできます。

ブランチ セキュリティの編集

サブダイアログボックスオプションの説明については、[ブランチセキュリティの追加（遷移）](#)を参照してください。

ユーザーが指定 Rational Synergy 権限（ロール）を持つことを要求することもできます。

ライフサイクル プロパティの編集

このサブダイアログボックスを使用して、以下のサブダイアログタブのライフサイクル プロパティを変更します。

- [一般タブ](#)
- [ダイアログ定義タブ](#)
- [属性タブ](#)
- [レポート定義タブ](#)
- [ロールタブ](#)

一般タブ

このタブでは以下のオプションを使用できます。

名前ボックス

ライフサイクルの名前を示します。

管理ロールボックス

ライフサイクルのアドミニストレータ ロール (*pt_admin* など変更依頼管理用の Rational Synergy 権限) を示します。

アドミニストレータは、どのような変更依頼、タスク変更、または遷移でも行うことができます。したがって、アドミニストレータが *pt_admin* に設定されていると、*pt_admin* ロールを持つすべてのユーザーはすべての変更または遷移を行うことができます。

ヘディング背景色リスト

標準 HTML 色名または 16 進数値を入力して、作成されるダイアログボックスのヘディングの背景色を設定します。パレットをクリックして色を選択します。

デフォルトの色は、CR Process に定義されている色です。

ヘディング テキスト色 リスト

標準 HTML 色名または 16 進数値を入力して、作成されるダイアログボックスのヘディングのテキスト色を設定します。パレットをクリックして色を選択します。

デフォルトの色は、CR Process に定義されている色です。

ベーステンプレート リスト

変更依頼 情報 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートを示します。

表示 リスト

変更依頼 情報 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートを示します。

提出 リスト

変更依頼 提出 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートを示します。

コピー リスト

コピー ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートを示します。

遷移 リスト

遷移 ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートを示します。

クエリ リスト

クエリ ダイアログボックスの作成に使用するテンプレートを示します。

完全レポート テンプレート ボックス

完全なレポートの作成に使用するテンプレートを示します。

詳細ボックス

ライフサイクルを説明します。

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

ダイアログ定義タブ

このタブを使用して、ライフサイクル固有の**変更依頼 情報**ダイアログボックスを定義します。

タブ オプションの説明については、[ダイアログ定義タブ](#)にある同様の CR Process タブ定義を参照してください。

属性タブ

このタブを使用して、その値が CR Process 値に優先する属性のライフサイクル固有リストを作成します。

このタブでは以下のオプションを使用できます。

利用可能な属性リスト

ライフサイクルで使用できるすべての属性を示します。

ライフサイクルの属性リスト

ライフサイクルで使用しているすべての属性を示します。



このボタンをクリックしてダイアログボックスに1つ以上の属性を追加します。



このボタンをクリックしてダイアログボックスから属性を削除します。

更新ボタン

このボタンをクリックして変更を適用します。

クローズ ボタン

このボタンをクリックして変更を破棄します。

レポート定義タブ

このタブを使用して、ライフサイクル固有の完全レポート テンプレートを定義します。

タブ オプションの説明については、[レポート定義タブ](#)にある同様の CR Process タブ定義を参照してください。

ロール タブ

このタブを使用して Rational Synergy 権限をライフサイクルの Rational Change ロールに対応付けます。

タブ オプションの説明については、[ロール タブ](#)にある同様の CR Process タブ定義を参照してください。

ロール セキュリティの編集 (状態)

このサブダイアログボックスを使用して、状態のロールベース セキュリティ ルール (指定ロールのユーザーが変更可能な属性のリスト) を変更します。

ロール セキュリティの編集 (遷移)

このサブダイアログボックスを使用して、遷移のロールベース セキュリティ ルール (選択した遷移を行えるロールのリスト) を変更します。

状態情報の編集

このサブダイアログボックスを使用して、状態の名前または説明を変更します。" **オープン vs クローズ** " **レポート状態の設定** エリアを使用して、状態をオープン、クローズ、または無視と指定します。

オープン、**クローズ**、**無視**は、オープン vs クローズ レポートの生成にのみ必要な (使用される) グループ化指定です。**無視**状態はレポートに表示されません。

遷移情報の編集

このサブダイアログボックスを使用して遷移のプロパティ、たとえば“from”状態、“to”状態、または説明を変更します。

ダイアログが必要：チェックボックスを使用して、ユーザーが遷移リンクをクリックしたときに直ちに遷移を開始するか（チェックボックスの選択解除）、中間のダイアログボックスを必要とするか（選択）を指定します。

ユーザー インターフェイスに提出／遷移リンクを表示する場合は、**インターフェイスに遷移を表示**オプションを選択します。リンクが表示されていてセキュリティ設定で許可されている場合は、ユーザーは明示的に遷移または提出を行うことができます。表示されていない場合は、API を使用してプログラムからのみ遷移または提出を行うことができます。

デフォルトで、このチェックボックスは選択されています（リンクが表示される）。子オブジェクト作成用の提出または遷移を定義する場合は、このチェックボックスを選択解除します。

選択した遷移を第 1 とする場合は、**第 1 遷移** オプションを選択します。第 1 遷移は、ある状態からのライフサイクルでは標準的な方法です。第 1 遷移を選択すると、CR の遷移のリストの最初に太字で表示されます。

事前遷移トリガ サブダイアログボックス

事前遷移トリガ サブダイアログボックスを使用して、変更依頼を遷移する前に使用するルールを定義できます。

事前遷移トリガには、1 つまたは複数の遷移の事前条件トリガ定義のファイル名が、別々の行にあります。

事前遷移トリガは、CR の提出または遷移後に実行（`exec()`）されるコマンドを含むファイルです。正常終了したコマンドは 0（ゼロ）を返さなければなりません。

たとえば、遷移前に Perl スクリプト `my_script` を実行するには、**事前遷移トリガ**ボックスに以下の文字列を入力します。

```
perl my_script
```

注記：すべてのトリガファイルは、`CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥wsconfig¥triggers` ディレクトリに格納する必要があります。

また、スクリプトの実行に必要なインタプリタが使用可能でなければなりません。たとえば、Perl スクリプトを実行するには、`perl` が自分のパス内にあるか `triggers` ディレクトリにインストールされている必要があります。

事後遷移トリガ

事後遷移トリガには、1つまたは複数の遷移の事後条件トリガ定義のファイル名が、別々の行にあります。

事後遷移トリガは、CR の提出または遷移語に実行 (`exec()`) されるコマンドを含むファイルです。正常終了したコマンドは0 (ゼロ) を返さなければなりません。

たとえば、遷移後に Perl スクリプト `my_script` を実行するには、**事後遷移トリガ**ボックスに以下の文字列を入力します。

```
perl my_script
```

注記：すべてのトリガファイルは、`CHANGE_APP_HOME¥WEB-INF¥wsconfig¥triggers` ディレクトリに格納する必要があります。

また、スクリプトの実行に必要なインタプリタが使用可能でなければなりません。たとえば、Perl スクリプトを実行するには、`perl` が自分のパス内にあるか `triggers` ディレクトリにインストールされている必要があります。

遷移属性名を指定

このサブダイアログボックスを使用して、遷移の日付を格納する属性の名前の変更および遷移を行ったユーザーの ID の変更を行います。

Rational Change のカスタマイズの概要

すべての企業は、変更を管理する独自の方法と製品類を持っています。各製品には、バージョン、ハードウェア プラットフォーム、およびオペレーティング システムなど独自の特徴があります。このために、自由にカスタマイズできる変更追跡ツールとして Rational Change が開発されました。

Rational Change は、各種の便利な機能と共に出荷されますが、ユーザーは自分の製品とリリースおよびその他の固有のプロパティに合わせてツールをカスタマイズしなければならない場合があります。

しかし、カスタマイズを行う前に Rational Change がどのようにユーザーのブラウザで動的な HTML コンテンツを作成するかを知る必要があります。

以下では、Rational Change のコンポーネントとその機能、および Rational Change のディレクトリ構造について説明します。

- [コンポーネント](#)
- [Rational Change ディレクトリ](#)
- [カスタムライフサイクルの配布](#)

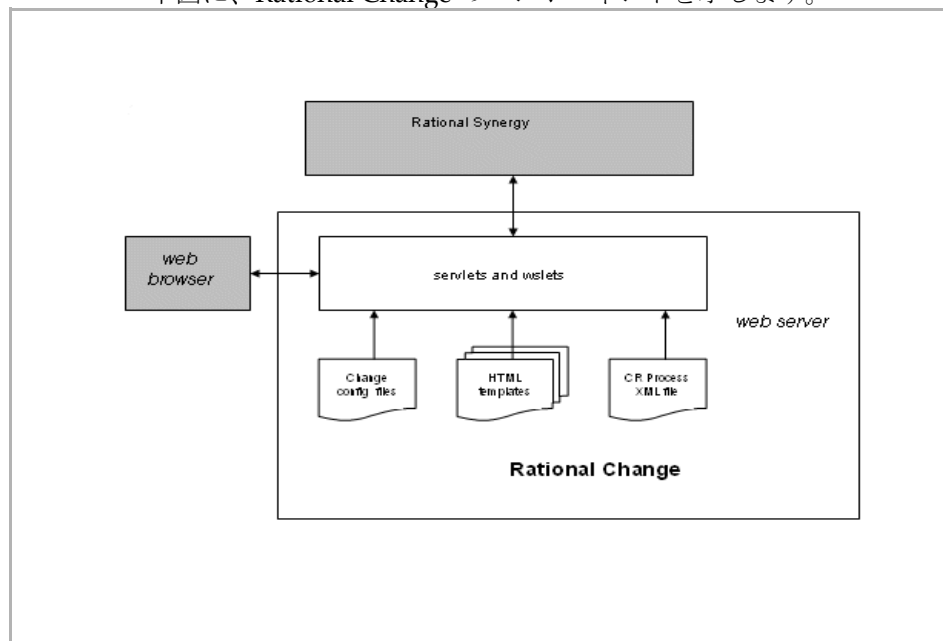
コンポーネント

Rational Change は、ウェブ サーバー上にあり、ウェブ ブラウザを使用してユーザー インターフェイスを展開します。インターフェイスに表示されるデータは、Rational Change ファイルおよび Rational Synergy データベース サーバーから取り出されます。また、Rational Change はユーザーが入力した値およびユーザー インターフェイスで選択した値で、Rational Synergy データベースを更新します。

これらの操作の詳細については、以下のページを参照してください。

- [Rational Synergy](#)
- [ウェブ サーバー](#)
- [HTML テンプレート](#)
- [Wslet](#)
- [サーブレット](#)
- [Rational Change 構成ファイル](#)
- [CRProcess ファイル \(XML\)](#)

下図に、Rational Change のコンポーネントを示します。



Rational Synergy

Rational Synergy は、Rational 製品の中心的なコンポーネントとして、ユーザーの変更依頼および関連オブジェクトのデータを格納します。

Rational Synergy はすべての変更依頼データを管理するため、**product_name** や **request_type** など、すべての変更依頼属性は Rational Synergy データベースと Rational Change インターフェイスで同じ名前を持つ必要があります。

ウェブ サーバー

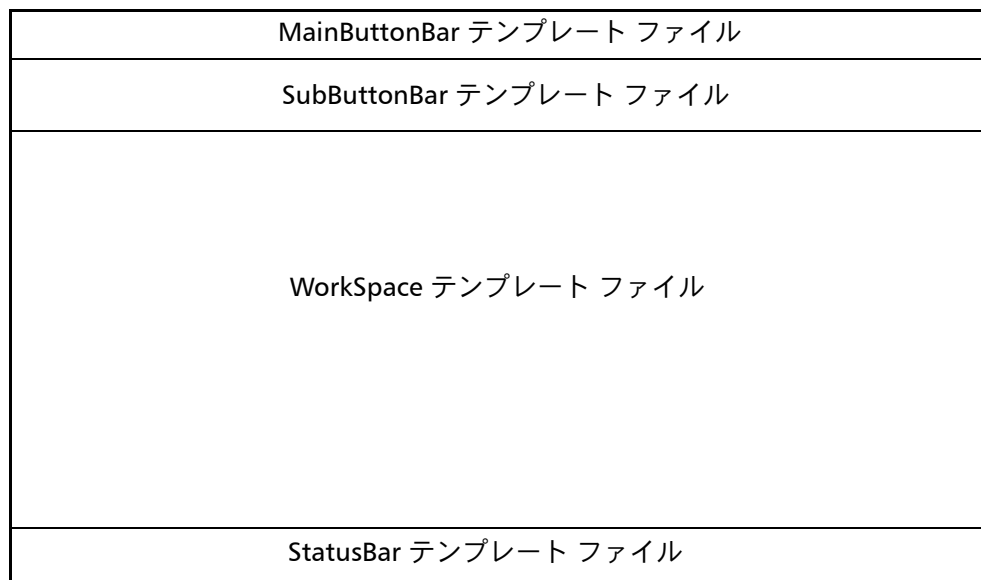
ウェブ サーバーは、ユーザーがウェブ ブラウザ インターフェイスを介して Rational Synergy データベースを扱うことを可能にします。ウェブ サーバーは、ユーザー インターフェイスを生成し、Rational Synergy データベースとのトランザクションを管理します。

インターフェイスの生成とは、新しい変更依頼の提出、既存変更依頼の変更、データベースのクエリ、およびレポートの選択に必要な加工 HTML ページ（フォームともいう）を動的に表示することを意味します。ユーザーが Rational Synergy から情報を要求すると（たとえばクエリを行う）、ウェブ サーバーはデータベースにアクセスして情報を取り出します。ユーザーがフォームの情報を変更すると（たとえば変更依頼を提出）、ウェブ サーバーはデータベースにアクセスして新規または更新情報を送ります。

HTML テンプレート

各 Rational Change フォームまたはレポートは、1つ以上のフレームで構成され、各フレームは HTML テンプレート ファイルから生成されます。

たとえば、メイン Rational Change ウィンドウを生成するには、下図に示すテンプレート類が必要です。



各テンプレート ファイルは、フォームの外観（色、ボタンの場所、ラベルなど）を決定しますが、動的コンテンツは決定しません。たとえば、**変更依頼 提出** ダイアログボックスのテンプレート ファイル（上図の *WorkSpace* フレームを埋める）を開くと、ドロップダウン リストは空です。

サブレット

Java サブレットは、サーバー サイド処理をトリガします。主なサブレットは、以下のとおりです。

- PTweb
PTweb は、ユーザー インターフェイス（Rational Change フォーム）を生成します。
- PTaction
PTaction は、Rational Synergy データベースとやりとりするコマンドを処理します。

Wslet

構成可能なデータ（変更依頼属性の有効な選択のリストなど）と動的データ（クエリの結果など）は、*wslet* を使用して Rational Synergy データベースから取り出されます（Rational Synergy サーバー処理をトリガする Rational 作成のウェブ サブレット）。

Wslet は、HTML テンプレート ファイル内で隠し HTML を使用して準備され、呼び出されます。隠し HTML はブラウザでは表示されず、wslet のパラメータの設定と呼び出しに使用されます。

Rational Change 構成ファイル

Rational Change 構成ファイルは、*Rational Change* の機能と外観の多くをコントロールし、製品名や製品バージョンなど組織の *Rational Change* インストールに固有の情報を含まれます。この情報は、*Rational Change* セッションを開始するときメモリに読み込まれます。

これらのファイルは、`CHANGE_APP_HOME\WEB-INF\ws_config` ディレクトリに格納されています。

CRProcess ファイル (XML)

変更依頼プロセス (CR Process) ファイルは、CR Process パッケージを生成するためのすべての情報を含む XML ファイルです。この XML ファイルの作成、編集、およびインストールに使用するツールは、*Rational Change* アドミニストレーション GUI の一部です。

各 *Rational Change* インストールでは、一度に 1 つの CRProcess ファイルのみインストールできます。

これらのファイルは、`CHANGE_APP_HOME\WEB-INF\cr_process` ディレクトリに格納されています。

ACL ファイル (XML)

ACL は、グループセキュリティを管理するためのすべての情報を含む XML ファイルです。この XML ファイルの作成、編集、およびインストールに使用するツールは、*Rational Change* アドミニストレーション GUI の一部です。

Rational Change のインストール時に、タイプごとに 1 つの ACL ファイル (CR、タスク、オブジェクトに 1 つずつ) がインストールされている必要があります。

これらのファイルは、`CHANGE_APP_HOME\WEB-INF\ws_config\acl` ディレクトリに格納されています。*Rational Change* のディレクトリ構造の詳細については、[Rational Change ディレクトリ](#) を参照してください。

Rational Change ディレクトリ

Rational Change ディレクトリ構造を確認するには、以下の変数を使用します。

CHANGE_HOME

以下の例のように、製品のインストール時に使用される Rational Change インストールディレクトリを示します。

```
C:¥Program Files¥IBM¥Rational¥Change¥5.2 または /usr/local/tc52
```

CHANGE_APP_HOME

以下の例のように、メイン Rational Change ファイルを含む Rational Change インストールディレクトリを示します。

```
C:¥Program Files¥IBM¥Rational¥Change¥5.2¥context¥webapps¥synergy  
または  
/usr/local/tc52/cs_app/webapps/synergy.
```

context ディレクトリ名は、Rational Change のインストール方法によって異なります。WebSphere Application Server Community Edition、WebSphere Application Server、または Jetty で稼働させることができます。

カスタムライフサイクルの配布

カスタマイズを設定してテストした後、該当するユーザーにそれを配布できます。このためには、ライフサイクルを別のサーバーにインストールしたり、別の場所に配信する作業が必要になります。以下を参照して、必要な情報をすべて転送してください。

カスタマイズに属性、状態、遷移、セキュリティルールの変更が含まれている場合は、CR Process XML ファイルのコピーが必要です。このファイルは以下の場所にあります。

```
C:\Program Files\IBM\Rational\Change\5.2\context\webapps\synergy\WEB-INF\cr_process
```

または

```
/usr/local/tc52/context/webapps/synergy/WEB-INF/cr_process
```

context ディレクトリ名は、Rational Change のインストール方法によって異なります。WebSphere Application Server Community Edition、WebSphere Application Server、または Jetty で稼働させることができます。

カスタマイズにカスタム ライフサイクル図、リストボックス値、レポート、トリガ スクリプトが含まれている場合は、カスタマイズしたパッケージ テンプレートをコピーする必要があります。詳細については、Change ナレッジベースをご覧ください。

用語解説

- [CR Process](#)
- [CR Process ファイル](#)
- [local admin ユーザー](#)
- [Rational Change](#)
- [XML](#)
- [アクセスコントロール リスト \(ACL\)](#)
- [アドホックレポート](#)
- [依存リストボックス](#)
- [開発データベース](#)
- [関係レポート](#)
- [完全なレポート](#)
- [クエリ](#)
- [グループ セキュリティ](#)
- [権限](#)
- [ゴースト CR](#)
- [サブレポート](#)
- [選択セット](#)
- [スタンドアロン サーバー](#)
- [セントラル CR データベース](#)
- [セントラル サーバー](#)
- [セントラル サーバー モード](#)
- [タスク](#)
- [単純リストボックス](#)
- [登録](#)
- [パッケージ](#)
- [パッケージ テンプレート](#)
- [ファイル リストボックス](#)
- [フォーマット](#)
- [プロセス](#)
- [プロンプト クエリ](#)

- [ベース テンプレート](#)
- [変更依頼](#)
- [変更依頼 ID](#)
- [メトリック](#)
- [メトリック操作](#)
- [ライフサイクル](#)
- [リモート サーバー](#)
- [レポート](#)
- [ロール](#)

CR Process

CR Process は、組織の変更依頼追跡手法のモデルです。

CR Process は、プロセス固有のパスを示す複数のライフサイクルを使用して定義できます。CR Process は、添付のプロセス パッケージ (dev_process_j.xml) をインストールするか、Admin GUI でプロセスを定義することによって実装します。

CR Process ファイル

CR Process ファイルは、CR Process とその関連ライフサイクルを定義する XML ファイルです。たとえば、dev_process_j.xml CR Process ファイルにより、承認されたサンプル開発プロセスを定義します。

local admin ユーザー

local admin ユーザーは、インストール時に定義される、特殊な Rational Change ユーザー アカウントです。旧リリースの *ChangeAdmin* ユーザーに代わるものです。通常のユーザー アカウントとは異なり、local admin ユーザーは RDS ではなく Rational Change によって直接認証され、特定のバックグラウンド ジョブを実行するために使用されます。

Rational Change

Rational Change は、Rational Synergy と統合された、ウェブベースの総合変更依頼管理システムです。

XML

XML は、変更依頼プロセスを定義するために Rational Change で使用する Extensible Markup Language (拡張マークアップ言語) です。

アクセス コントロール リスト (ACL)

アクセス コントロール リスト (ACL) は、グループ セキュリティで使用される読み取り、書き込み権限をコントロールする一連のルールです。

アドホックレポート

アドホック レポートは、ユーザーがフォーマットを定義しているレポートです。つまり、ユーザーが具体的に属性を選択しています。

フォーマットを選択したときに利用可能な属性または選択された属性のリストボックスが表示される場合、それはアドホック レポートです。システム フォルダ内のレポートなどフォーマットが固定されたレポートは、アドホック レポートではありません。

依存リストボックス

依存リストボックスは、「親」属性の値に依存する値を格納しています。たとえば、product_version リストの値は、product_name 属性値に依存します。

開発データベース

開発データベースは、(CR ではなく) タスクとオブジェクトを含みます。セントラルサーバーに直接接続されるか、リモートサーバーを介して間接的に接続されます。リモートサーバーに接続されている場合は、リモート開発データベースと呼ばれます。

関係レポート

関係レポートは、各レポート項目の関連 CR、タスク、オブジェクトを示します。たとえば、CR に関連タスクがある場合は、関係レポートにより、CR 情報に続いてタスク情報が示されます。

関係レポートをレポートに含める場合は、レポート ビルダを使用して定義する必要があります。

関係レポートの詳細については、[関係レポートの作成](#)を参照してください。

完全なレポート

完全なレポートは、すべての変更依頼属性を示すレポートです。

クエリ

クエリはレポートの内容を定義します。クエリまたはレポートの生成時はフォーマットの選択が必要です。

グループ セキュリティ

グループセキュリティは、ユーザーのグループ メンバーシップに基づいて、変更依頼、タスク、オブジェクトへの読み取りおよび書き込み許可をコントロールする機能です。

権限

権限 は Rational Synergy のロールです。

ゴースト CR

ゴースト CR は、開発データベースにあるセントラル CR のコピーです。Rational Change によって、関連タスクを持つすべての CR のゴースト CR が作成されますが、そ

これらのタスクがある開発データベース内のみに存在します。ゴースト CR を直接更新することはありません。

ユーザーが選択可能な属性は、セントラル データベース内の実際の CR と同期が維持されます。ゴースト CR にはタスク関係のみが維持され、添付ファイルや CR 間の関係は維持されません。ゴースト CR は CR ベースの更新操作のためにあり、高度な CLI クエリでも使用されます。

サブレポート

サブレポートは、レポートの各要素に関する小規模のレポートを生成することによって作成されます。サブレポートは、CR、タスク、オブジェクトに関して実行でき、サブレポートごとにクエリを使用することもできます。

スタンドアロン サーバー

スタンドアロン サーバーは、複数の開発データベースに CR を格納します。

選択セット

選択セットは、Rational Change の操作を実行するために使用する CR、タスク、オブジェクトのグループです。選択セットは、一括遷移のために複数選択 CR などによって手動で作成することも、クエリの実行によって作成することもできます。

セントラル CR データベース

セントラル CR データベースは CR のみを含み、この CR は複数の開発データベースのタスクと関連付けられます。セントラル CR データベースは、セントラル サーバーに直接接続されます。1つのクラスタには、セントラル サーバーとセントラル CR データベースを1つずつ置くことができます。

セントラル サーバー

セントラル サーバーはセントラル CR データベースに CR を格納します。リモート開発データベースとセントラル CR データベースは、リモート サーバーを介してリンクさせることができます。セントラル サーバーは1つのみ置くことができます。

セントラル サーバー モード

セントラル サーバー モードは、セントラル サーバー、一連のリモート サーバー、およびセントラル CR データベースで構成されるトポロジです。この設定では、CR はすべて同じ場所、つまりセントラル CR データベースに格納され、複数のデータベースに散在することはありません。

タスク

タスクはユーザーに割り当てられた作業リストアイテムです。タスクは、完了するために修正されたファイルも追跡します。1つの変更依頼に1つまたは複数のタスクを関連付けることができます。

単純リストボックス

単純リストボックスは、他の属性の値と無関係の値を格納しています。たとえば、`request_type` リストは、`product_name` など他の属性とは無関係な値を格納しています。

登録

変更依頼の登録により、変更依頼に関するあらゆる処理について知っておくことができます。変更依頼に登録しておく、変更依頼に対する修正があった場合は自動的に通知されます。

パッケージ

パッケージは、**Rational Change** の外観や動作を変更するファイルのセットです。パッケージの内容は、新規レポートフォーマットなどの単純なものの場合も、**CR Process** ファイルなどの複雑なものの場合もあります。

プロセス パッケージには **CR Process** ファイルが含まれます。**Rational Change** プロセスは 1 度に 1 つしか使用できないため、プロセス パッケージは 1 つしかインストールできません。新しいプロセス パッケージをインストールする前に、既存のプロセス パッケージをアンインストールする必要があります。

非プロセス パッケージの内容は、パッチ、**Rational Change** インターフェイスのテンプレートや構成ファイル、その他カスタマイズなどです。

初めて **Rational Change** を使用する前に、プロセス パッケージをインストールしてライフサイクルとインターフェイスを設定する必要があります。詳細については、[ようこそページ](#)を参照してください。

パッケージ テンプレート

パッケージ テンプレートは、**CR Process XML** ファイルの補足となる 1 つ以上のファイルを含むディレクトリです。

パッケージ テンプレート ファイルには、**CR Process** グラフィック、リストボックス定義、カスタム ウェブ タイプ、その他 **CR Process XML** ファイルに格納されないカスタマイズなどが含まれます。新規プロセス パッケージの作成時、パッケージ テンプレートと **CR Process XML** ファイルをマージする必要があります。

パッケージ作成用にパッケージ テンプレート ディレクトリがリストアップされるようにするには、予めディレクトリをパッケージ テンプレート ディレクトリに作成しておく必要があります。

ファイル リストボックス

ファイル リストボックスは、ファイルから取り込まれた値のリストです。たとえば、`distribution` リストの値は、`distribution_list.txt` ファイルから取り込まれた値であることが考えられます。

フォーマット

フォーマットは、クエリで生成される情報のレイアウトを定義します。クエリまたはレポートの生成時はフォーマットの選択が必要です。

ベース テンプレート

ベース テンプレートは、ユーザー インターフェイスに表示される Rational Change ダイアログボックスの生成に使用する HTML テンプレートです。

ベース テンプレートは、**変更依頼 情報**ダイアログボックス、**変更依頼 提出**ダイアログボックス、**遷移**ダイアログボックス、**完全なレポート**ダイアログボックスに使用します。

変更依頼

変更依頼は、問題または追加機能の変更依頼を追跡するのに使用するデータベース オブジェクトです。

変更依頼 ID

変更依頼 ID は、特定の変更依頼を識別するための数字または文字の組み合わせです。

メトリック

メトリックは、[メトリック操作](#)の結果です。メトリックは、レポートに表示される計算値です。

メトリック操作

メトリック操作とは、属性値による計算のことです。たとえば、Average メトリック操作により、[選択セット](#)の全項目の選択属性値の平均が計算されます。

メトリック操作は、カスタム レポートでのみ使用されます。

プロセス

プロセスは、ライフサイクルのセットです。

プロンプト クエリ

プロンプト クエリは、実行前に値を尋ねる、柔軟なクエリです。これによって、実行するたびにクエリを簡単に修正できます。

ライフサイクル

ライフサイクルは、ユーザーが変更依頼を修正したり遷移させたりする方法を規定するルールのセットです。たとえば、変更依頼が Rational Change によってある状態から次の状態 (*entered* 状態から *completed* 状態など) へどのように遷移されるかが、ライフサイクルによって定められます。

リモート サーバー

リモート サーバーは、セントラル サーバーとリモート開発データベース間のプロキシです。複数のリモート サーバーをセントラル サーバーと関連付けることができます。

レポート

レポートは、レポートの内容を定義するクエリと、情報の表示方法を定義するフォーマットの2つの部分で構成されます。クエリとその関連付けられたフォーマットを保存すると、レポートが作成され、自分の個人フォルダに保存されます。

ロール

ロールつまりログイン ロール（例、*User*）は、Rational Change 起動時に表示されるインターフェイスを決定します。

CR Process エディタでは、ロールは *assigner* などバックエンドの Rational Synergy Classic 権限も意味します。これはデータベースで定義するもので、これによりユーザーは属性の更新や CR の遷移を行うことができます。

索引

A

ACL

- カスタマイズの使用例 179
- 説明 146
- 変更の表示 9
- 編集 154
- マッピングの例 148

ACL タブ 177

ACL

- 定義方法 153

C

CHANGE_APP_HOME パス 234

CHANGE_HOME パス 234

CR Process

- 説明 238

CR Process XML ファイル

- 使用方法 235

CR Process ダイアログボックス 197

CR Process ファイル

- コピー 116

- 作成 117

- 説明 238

- マージ 130

CR Process ファイルのマージ 130

CR の同期 183

CR の同期タブ 183

CS パッケージ

- アンインストール 38

CS パッケージのアンインストール 38

D

dev_process_j.xml ファイル 238

H

HTML、ダイアログボックスに追加 206

HTML、ダイアログボックスに追加

HTML 206

J

JavaScript、ダイアログボックスに追加
206

L

local admin ユーザー

- 説明 238

P

pt_admin 権限

- 設定 224

- 説明 91

R

Rational Change

- 機能 2

- セキュリティ 3

- 説明 238

Rational Change サーバー

- 開始 43

Rational Change サーバーの IP アドレス

- 18

Rational Synergy

- Rational Change との関係 231

- インテグレーションの活動化 215

- インテグレーションの設定 159

Rational Synergy セッションユーザー プ

- ロパティ サブダイアログボックス 164

REPORT_SAVE_LIMIT、変更 35

W

wslet、説明 232

X

XML

- 説明 238

あ

- アイコン、変更方法 124
- アクションパネル 7
- アクセス コントロール リスト
説明 238
- アクティブ データベース設定 159
- アクティブ ユーザーの表示 9
- アドミニストレーション操作 8
- アドミニストレーション ダイアログボックス 157
- アドミニストレータ ロール 224
- アドミン インターフェイス 7

い

- 依存リストボックス
説明 239
- 依存リストボックス値
削除 99
追加 98
変更 98
- 一般 CR Process プロパティ
定義 119
- 一般タブ 159
- イメージ、レポートに追加 57
- 色
 - CR Process 固有ヘディング テキスト 203
 - CR Process 固有ヘディング背景 203
 - ライフサイクル固有ヘディング テキスト 225
 - ライフサイクル固有ヘディング背景 224
- インストールディレクトリ 234
- インテグレーション
 - ライフサイクル設定を無効化 215
 - ログイン ロール設定 215

う

- ウェブ サーバー、説明 231
- ウェブ タイプ タブ 213
- ウェブ タイプ、定義 125

え

- エラーの表示 9

お

- 置き換え文字列 178
- オブジェクト
 - アクションの設定 178
 - タスクに関連付け 2
 - レポート 51
 - サブレポート内 54
- オプションの開始引数 162

か

- 開始
 - Rational Change サーバー 43
 - Rational Change セッション 18
- 開始引数、オプション 162
- 開発データベース
説明 239
- カスタマイズ
 - Rational Change 3
 - 使用するファイル 234
 - 属性 177
 - 転送 235
- 関係セキュリティ 202
- 関係属性
 - 作成 122
 - ダイアログボックス 205
 - ダイアログボックスで有効にする 105
 - ダイアログボックスに入れる 105
- 関係、定義 62
- 関係レポート
 - 説明 239
 - 定義方法 61
 - 内容の定義 63
 - 名前 62
- 完全なレポート
説明 239
定義 129
- 管理
 - グループ 150

ユーザー 28
管理ファイル 2
関連タスク、説明 2

き

技術サポート 1
基本操作 17
今日のメッセージの更新 42
許可、一括遷移 54
キーワード、使用方法 54

く

クエリ
 サブレポートの定義 54
 説明 239
 ライフサイクル用にカスタマイズ 215
グラフィック、ウェルカム ページ 128
グラフィック ファイル、作成 38
グループ セキュリティ
 ライフサイクルセキュリティとの併用
 144
グループ数 58
グループ セキュリティ
 値の導出 178
 グループにアクセスを許可 178
 権限の定義 153
 仕組み 143
 設計ルール 142
 説明 239
 属性の定義 177
 デフォルト値の設定 178
 ユーザー リストの表示 151
グループ タブ 175

け

権限
 一般設定 178
 説明 239
 単一ユーザーの表示 31
 単一ユーザーの変更 31
 複数ユーザーの表示 32

複数ユーザーの変更 32
 レポート 32
 ログインロールへの割り当て 33
検索結果、属性定義 181
検索タブ 181

こ

構成
 サーバー 161
 システム 159
 データベース 163
 ホスト 164
構成、表示 9
構成変更を伴う更新 41
ゴースト CR
 説明 239
コピー
 CR 137
 CR Process ファイル 116
 遷移 137
 定義ダイアログボックス 220
コピー遷移
 説明 223
 定義ダイアログボックス 220
コピー ダイアログの定義 205
コンポーネント
 HTML テンプレート ファイル 231
 Rational Synergy 231
 ウェブ サーバー 231
 サーブレット構成ファイル 233

さ

サーバータブ 161
サイズ変更、セッション プール 161
索引作成、手動 181
削除
 CR Process ファイル 118
 セントラル サーバー 26
 ダイアログボックス 205
 データベース 24
 ホスト 25
 ユーザー 31

- リストボックス値、依存 99
 - リモート サーバー 27
 - 作成
 - CR Process グラフィック 38
 - CR Process ファイル 117
 - Rational Change ログイン ロール 34
 - 新しい属性 122
 - パッケージ 39
 - リストボックス 122
 - サーバー
 - セントラルの URL 165
 - セントラル/リモートの表示 9
 - 追加の参照 9
 - リモートの URL 165
 - リモート名 165
 - サーバー構成
 - セントラル 165
 - プロパティの設定 161
 - リモート 165
 - サーバー状況メッセージ 163
 - サーバーの状態設定 163
 - サブダイアログボックス
 - 事後遷移トリガ 228
 - 事前遷移トリガ 227
 - 状態情報の編集 226
 - 状態の追加 223
 - 遷移情報の編集 227
 - 遷移属性名を指定 228
 - 遷移の追加 223
 - 属性セキュリティの追加 222
 - 属性セキュリティの編集 223
 - ブランチ セキュリティの追加 222
 - ブランチ セキュリティの編集 224
 - ライフサイクルの追加 222
 - ライフサイクルプロパティの編集 224
 - ロール セキュリティの編集 226
 - サブレット、構成ファイル 233
 - サブレポート
 - 説明 240
 - 定義 54
 - し
 - 事後遷移トリガ サブダイアログボックス
 - 228
 - 事前遷移トリガサブダイアログボックス
 - 227
 - 終了操作 8
 - 準備 17
 - 使用
 - 追跡 9
 - 履歴表示 18
 - 使用箇所の検索 208
 - 状態
 - タスク 6
 - 追加または変更 134
 - 変更依頼 4
 - 状態インジケータ 9
 - 状態情報の編集サブダイアログボックス
 - 226
 - 状態タブ 218
 - 状態の追加サブダイアログボックス 223
 - 情報サブダイアログボックス 165
 - 新規ダイアログボックスのプレビュー 205
 - 新規レポートのインストール 64
 - 新規レポートの命名 49
- ## す
- スタンドアローン サーバー
 - 説明 240
- ## せ
- セキュリティ
 - 関係 202
 - グループ セキュリティも参照。
 - 設定方法 3
 - セキュリティ機能 3
 - セッションプールのサイズ変更 161
 - セッションプロパティ、設定 164
 - 接続再試行回数 162
 - 遷移
 - 第 1 を指定 138
 - 追加または編集 137
 - 遷移情報の編集サブダイアログボックス
 - 227
 - 遷移属性名を指定サブダイアログボック

- ス 228
- 遷移ダイアログの定義 204
- 遷移タブ 220
- 遷移の追加サブダイアログボックス 223
- 選択セット
 - 説明 240
- セントラル CR データベース
 - 説明 240
- セントラル サーバー
 - CR の移行 45
 - 削除 26
 - 説明 240
 - 追加 26

そ

- 操作
 - 管理 8
 - 終了 8
 - ヘルプ 8
 - ホーム 8
 - ライフサイクルエディタ 8
 - レポート ビルダ 8
- 属性
 - 置き換え値 178
 - 使用箇所 208
 - デリバティブの使用 178
 - トリガ条件 210
 - 変更 124
 - ルールの定義 177
- 属性セキュリティの追加サブダイアログボックス 222
- 属性セキュリティの編集サブダイアログボックス 223
- 属性、設定 51

た

- ダイアログが必要チェックボックス 227
- ダイアログ パネル
 - 状態インジケータ 9
 - 説明 9, 10
- ダイアログボックス
 - CR Process 197

- アドミニストレーション 157
- 新規のプレビュー 205
- バナーの追加 206
- 変更依頼プロセスとライフサイクル 195
- 対応付け
 - Rational Synergy 権限を Rational Change ログイン ロールへ 33
 - Synergy ロール 33
- タイムアウト、非活動ユーザー 162
- タスク
 - アクションの設定 178
 - 説明 240, 241
 - セントラルで更新 183
 - レポート 51
 - サブレポート内 54
- 単純リストボックス
 - 説明 241
- 単純リストボックス値
 - 変更 96

ち

- チャート、レポートで使用 57

つ

- 追加
 - ウェルカム ページのグラフィック 128
 - 構成ファイルまたはイメージ ファイルをパッケージに追加 214
- 遷移 137
- セントラル サーバー 26
- データベース 23
- ホスト 24
- ユーザー 36
- リストボックス値、依存 98
- リモート サーバー 27

て

- 定義
 - ACL 177
 - アクセス権限 177

- 一般 CR Process プロパティ 119
- カスタマイズされたテキスト 125
- 使用されるクエリ 50
- セキュリティ グループ 175
- ダイアログボックス、CR Process レベル 119
- ダイアログボックス、ライフサイクル固有 133
- チャート ツール 58
- 名前フォーマット 159
- 日付フォーマット 159
- レポート プロパティ 51
- 定義済みレポート フォーマット 212
- 提出遷移
 - 説明 223
 - 定義ダイアログボックス 220
- 提出ダイアログの定義 204
- テキスト、静的追加 206
- テキスト、静的に追加 206
- データベース
 - アクティブに設定 159
 - エラーの表示 9
 - 構成の表示 23
 - 削除 24
 - 詳細 163
 - セントラル/タスクの更新 183
 - 追加 23
 - 追加/削除の表示 9
 - パスの設定 163
 - ユーザーの表示 9
 - ラベル 163
- データベース構成 163
- データベース構成サブダイアログ 163
- データベース セッションの最小数 163
- データベース セッションの最大数 163
- データベースで CR の同期 183
- デバッグ 9
- テンプレート ファイル
 - 定義 231
 - 内部の wslet 232

と

- 登録

- 説明 241
- ドキュメンテーション ウェブ サイト 1
- トリガ
 - BSF トリガ 216
 - インプロセスで実行 216
- トリガ、属性値 210

な

- 名前フォーマット
 - 選択 160
 - 定義 159
- 名前変更、CR Process ファイル 124

は

- パス定義
 - CHANGE_APP_HOME 234
 - CHANGE_HOME 234
- パッケージ
 - アンインストール 38
 - インストール 37
 - 作成 39
 - 説明 241
- パッケージ インストーラ
 - タブ 185
- パッケージ テンプレート 214
 - 説明 241
- パッケージのアンインストール 38
- パッケージのインストール 37

ひ

- 非活動ユーザーのタイムアウト 162
- 日付フォーマット、選択 160
- 表示
 - 依存リストボックス値 187
 - 構成データ 18
 - 新規ダイアログボックス 205
 - セキュリティ グループ メンバー 151
 - データベース構成 23
 - ホスト構成 24
 - ユーザー権限、単一ユーザー 31
 - ユーザー権限、複数ユーザー 32

ユーザー プロパティ 29
リストボックス依存関係 187
ログ ファイル 18

ふ

ファイル、格納場所 234
ファイルリストボックス
説明 241
フォーマット
説明 242
フッター
追加 52
内容の定義 56
ブランチ セキュリティの追加サブダイア
ログボックス 222
ブランチ セキュリティの編集サブダイア
ログボックス 224
プロセス
説明 242
プロセス、選択エリア 195
プロンプトクエリ
説明 242

へ

ページ分割、設定 51
ベース テンプレート
説明 242
ヘッダー
追加 52
内容の定義 53
ヘルプ
セクション 11
表示方法 11
ヘルプ操作 8
変更
ACL 154
遷移 137
名前の表示 160
表示されるユーザー リスト 151
ユーザー権限、単一ユーザー 31
ユーザー権限、複数ユーザー 32
ユーザー プロパティ 31

リストボックス値、依存 98
リストボックス値、単純 96
リストボックス プロパティ 96

変更依頼

サブレポート内 54
詳細 2
説明 242
読み取り／書き込み権限の付与 143
レポート 51
変更依頼プロセスとライフサイクル ダイ
アログボックス 195

ほ

ホスト
エラーの表示 9
削除 25
しきい値 164
詳細 164
状態 164
追加 24
名前 164
優先度 164
ホスト構成サブダイアログ 164
ホスト構成、表示 24
ホスト状況メッセージ 164
ホストセッションの最大数 164
保存、CR Process ファイル 116
保存期限、変更 35
ホーム操作 8

め

メッセージの表示 9
メトリック
説明 242
メトリック操作
説明 242

ゆ

ユーザー
管理 28
傾向を表示 9

セッション当たりの最大数の設定 164
追加 36
ユーザー インターフェイス 7
ユーザー インターフェイスのホームページ
設定 10
ユーザー数、表示 9
ユーザー タブ 167
ユーザー ヘルプ 11
ユーザー名フォーマット、定義 159

よ

読み取りセキュリティ機能 209
読み取りセキュリティ値 169

ら

ライフサイクル
変更依頼 4
説明 242
タスク 6
追加または変更 131
ライフサイクル エディタ操作 8
ライフサイクル属性、作成 122
ライフサイクルの追加サブダイアログ
ボックス 222
ライフサイクル プロパティの編集サブダ
イアログボックス 224
ライフサイクル編集オプション 217

り

リストボックス
依存関係の表示 187
依存値の表示 187
プロパティの変更 96
作成 122
リストボックス マネージャ タブ 187
リストボックス値
依存の削除 99
依存の追加 98
依存の変更 98
外部ソースの使用 101

スクリプトによる更新 101
単純の変更 96
リストボックス値を管理するスクリプト
101
リモート サーバー
エラーの表示 9
削除 27
説明 243
追加 27

れ

レポート
一括遷移の許可 54
イメージの使用 57
インストール 64
改ページの追加 51
関係レポートの定義 61
旧バージョンの削除 64
計画方法 48
結果のグループ化 58
説明 243
ソート順の定義 60
添付ファイルの定義 54
内容の定義 51
ビルド 47
ヘッダーとフッターの定義 52
保存期間の変更 35
本文の定義 54
命名方法 49
ユーザー権限を表示 32
利用可能リストに追加 64
レイアウトの定義 54
レポートで使用する添付ファイル 54
レポート内容のグループ化 58
レポート内容の順序 60
レポートの作成 47
レポートのソート 60
レポート ビルダ操作 8
レポート フォーマット、定義済み 212
レポート例
作成方法 66
要件の設定 65
レポートを保存する日数、変更 35

ろ

ログ

印刷 9

表示 9

ログイン 18

ログイン ロール、定義 34

ログ ファイル、表示方法 18

ロール

CR Process 用の定義 212

説明 243

対応付け 33

ライフサイクル用の定義 226

ログイン定義 34

ロール セキュリティの編集サブダイアロ

グボックス 226

ロールベースのインターフェイス 3

わ

割り当て

グループ セキュリティの権限 146

権限をログイン ロールへ 33

